

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン タキカワガクエン 学校法人 滝川学園									
フリガナ大学の名称	ナゴヤブンリダイガクダイガクイン 名古屋文理大学大学院(Nagoya Bunri University Graduate School)									
大学本部の位置	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地									
大学の目的	<p>本学は、教育基本法ならびに学校教育法に基づき、かつ自由と責任を重んずる立学の精神に則って、幅広く深い学識を涵養し、健康科学、情報科学に関する学術の理論及び応用を教授研究を行い、もって学識深く心身健全にして社会有為な人材の育成を目的とし、学術の振興と科学文化の増進に寄与し、ひいては国家の発展と世界平和の実現に貢献することを使命とする。</p>									
新設研究科等の目的	<p>「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的とする。</p>									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	<p>【基礎となる学部】 情報メディア学部情報メディア学科 健康生活学部健康栄養学科/フードビジネス学科</p>
	健康情報学研究科 (Graduate School of Health Informatics) 健康情報学専攻 (Master Course of Health Informatics) 計	2年	5人	—人	10人	修士(健康情報学)	工学関係	令和7年4月 第1年次	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	名古屋文理大学短期大学部 食物栄養学科 栄養士専攻 [定員減] (△40) (令和6年4月届出予定)									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	健康情報学研究科 健康情報学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
		15科目	7科目	—科目	22科目					
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設分	健康情報学研究科 健康情報学専攻(修士課程)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	15 (8)		
	計	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	— (—)		
既設分	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
	計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
合計		6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	— (—)		
職種		専属			その他			計		
事務職員		20 (20)			9 (9)			29 (29)		
技術職員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
図書館職員		2 (2)			1 (1)			3 (3)		
その他の職員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
指導補助者		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
計		22 (22)			10 (10)			32 (32)		

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	<共用> 名古屋文理大学短期大学部 3,400㎡ <借用地> 5,070㎡ 令和27.3.31まで			
	校舎敷地	25,250.22㎡	13,532.00㎡	5,994.74㎡	44,776.96㎡				
	その他	9,952.46㎡	0㎡	1,650.58㎡	11,603.04㎡				
	合計	35,202.68㎡	13,532.00㎡	7,645.32㎡	56,380.00㎡				
校舎	専用	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	16,559.67㎡ (16,559.67㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	16,559.67㎡ (16,559.67㎡)				
講義室等・新設研究科等の専任教員研究室	講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室		大学全体			
	20室	34室	25室	7室					
図書・設備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	電子図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	研究科等单位での特定不能なため、大学全体の数	
		健康情報学研究科 健康情報学専攻	79,289 [12,728] (79,214 [12,728])	185 [0] (185 [0])	235 [80] (235 [80])	65 [12] (65 [12])	7,826 (7,811)		0 (0)
	計	79,289 [12,728] (79,214 [12,728])	185 [0] (185 [0])	235 [80] (235 [80])	65 [12] (65 [12])	7,826 (7,811)	0 (0)		
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	各経費は研究科単位での算出不可能なため、学部との合計 図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コスト)を含む	
		教員1人当り研究費等		160千円	160千円	－千円	－千円		－千円
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	－千円	－千円	－千円		
	図書購入費	7,900千円	7,900千円	7,900千円	－千円	－千円	－千円		
	設備購入費	48,000千円	48,000千円	48,000千円	－千円	－千円	－千円		
学生1人当り納付金		第1年次 900千円	第2年次 700千円	第3年次 －千円	第4年次 －千円	第5年次 －千円			
学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学経常費補助金、資産運用収入、寄付金収入等								
既設大学等の状況	大学等の名称	名古屋文理大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	健康生活学部 健康栄養学科	年	人	年次 人	人	学士(栄養学)	0.88 0.93	平成15年度	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地
	フードビジネス学科	4	80	3年次 2	324	学士(フードビジネス学)	0.82	平成17年度	
	情報メディア学部 情報メディア学科	4	70	－	280	学士(情報メディア学)	1.13 1.13	平成24年度	
	4	120	3年次 2	422	学士(情報メディア学)			令和6年度入学定員増(20人、3年次編入学2人)	
大学等の名称	名古屋文理大学短期大学部								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
食物栄養学科 栄養士専攻	年	人	年次 人	人	短期大学士(食物栄養学)	0.46 0.44	平成17年度	愛知県名古屋市西区笹塚町二丁目1番地	
製菓専攻	2	120	－	270	短期大学士(食物栄養学)				
	2	30	－	70	短期大学士(食物栄養学)	0.53	平成17年度	令和6年度入学定員減(△30人)	
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設研究科等の目的」、「新設研究科等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「既設分」については、共同教育課程に係る数を除いたものとする。
- 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、及び「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、「図書・設備」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(健康情報学研究科健康情報学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員
健康情報学分野	健康情報学	1前	/	2			○			5					1	オムニバス・共同(一部)
	健康データサイエンス	1後		2			○			1						
	健康情報産業論	2前		2			○			1						
	小計(3科目)	—		—	6			—			6	0	0	0		
健康科学分野	食生活と栄養	1前	/	2			○								1	オムニバス オムニバス
	地域医療と健康管理	1後		2			○								1	
	身体運動と健康	2前		2			○								2	
	健康心理学	2後		2			○								2	
小計(4科目)	—	—	8			—			0	0	0	0		6		
情報科学分野	プログラミングと応用	1前	/	2			○			1						オムニバス
	情報メディアとシステム技術	1後		2			○								2	
	人工知能特論	2前		2			○								1	
	情報教育特論	2後		2			○								1	
小計(4科目)	—	—	8			—			1	0	0	0		4		
総合分野	専門社会調査演習	1前	/	2				○							1	オムニバス オムニバス
	質的調査演習	1後		2				○							1	
	健康データ解析演習	2前		2					○						1	
	メディア文化と表現	1前		2				○		1	1					
	モデル化とシミュレーション	1後		2				○		1					1	
小計(5科目)	—	—	10			—			1	1	0	0		3		
研究指導科目	知的財産権と研究倫理	1前	/	2			○								1	
	科学論文作成法	2前		2			○			1						
	健康情報学演習1	1前		2				○		6	1					
	健康情報学演習2	1後		2				○		6	1					
	健康情報学演習3	2前		2				○		6	1					
	健康情報学演習4	2後		2				○		6	1					
小計(6科目)	—	—	12			—			6	1	0	0		1		
合計(22科目)		—	—	18	26		—			6	1	0	0		15	
学位又は称号		修士(健康情報学)		学位又は学科の分野				工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目18単位,健康科学分野から選択必修4単位,情報科学分野から選択必修4単位,総合分野から選択必修4単位修得し、30単位以上修得すること。必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業の標準時間				90分				

教育課程等の概要																
(情報メディア学部情報メディア学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
基礎教育科目	哲学	1・2・3・4前			2		○							1		
	芸術	1・2・3・4後			2		○						1	2		
	心理学	1・2・3・4前			2		○							1		
	人間関係論	1・2・3・4後			2		○							1		
	現代日本史	1・2・3・4後			2		○							1		
	海外事情	1・2・3・4後			2		○							1		
	海外研修Ⅰ	1・2・3・4通			2		○							1		
	海外研修Ⅱ	1・2・3・4通			2		○							1		
	日本国憲法	1・2・3・4前			2		○							1		
	法学	1・2・3・4前			2		○							1		
	経済学	1・2・3・4後			2		○							1		
	経営学	1・2・3・4前			2		○							1		
	社会学	1・2・3・4後			2		○							1		
	自然科学Ⅰ	1・2・3・4前			2		○				1					
	自然科学Ⅱ	1・2・3・4後			2		○				1					
	統計学	1・2・3・4前			2		○				1					
	ブラクティカル・イングリッシュⅠ	1前		2			○								3	
	ブラクティカル・イングリッシュⅡ	1後		2			○								3	
	ブラクティカル・イングリッシュⅢ	2前			2		○								1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅣ	2後			2		○								1	
	フランス語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○								1	
	フランス語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○								1	
	中国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○								1	
	中国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○								1	
	韓国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○								1	
	韓国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○								1	
	健康と栄養	1前		2			○								1	
	スポーツ科学	1・2・3・4後			2		○				1					
	スポーツⅠ	1・2・3・4前			1					○	1					
	スポーツⅡ	1・2・3・4後			1					○	1					
	アウトドアスポーツⅠ	1・2・3・4前			1					○	1				1	共同
	アウトドアスポーツⅡ	1・2・3・4後			1					○	1				1	共同
	地域の課題	1・2・3・4後			2		○				1				1	
	ボランティア活動	1・2・3・4通			2			○			1					
	情報リテラシー	1前	○		2		○				1			1		
	ICT基礎	1後	○		2		○				1					
	フレッシュマンセミナーⅠ	1前	○		1				○		5	5		2		
	フレッシュマンセミナーⅡ	1後	○		1				○		5	5		2		
	基礎演習Ⅰ	2前	○		2				○		8	2		1		
	基礎演習Ⅱ	2後	○		2				○		8	2		1		
	日本語力Ⅰ	2前			1		○				1				2	共同
	日本語力Ⅱ	2前			1		○				1				2	共同
	数的処理Ⅰ	1後			1		○								2	共同
	数的処理Ⅱ	1後			1		○								2	共同
	キャリアデザインⅠ	2後			1		○				4	1			3	オムニバス
	キャリアデザインⅡ	3前			1		○				3				2	オムニバス
小計（46科目）		—	—	22	58	0	—	—	—	11	5	0	2	0	21	

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報メディア学部情報メディア学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
コース共通	プログラミング入門	1前	○	2			○						1				
	情報学概論	1前	○	2			○			1							
	情報メディア論	1前	○	2			○			1							
	プログラム演習Ⅰ	1後	○	2				○		1						1	
	ITマネジメント	1後		2				○								1	
	情報処理演習	1後			2				○		1						
	情報社会の倫理と職業	1後			2				○							1	
	情報管理	2前			2				○							1	
	ITストラテジ	2前		2					○							1	
	ソフトウェア基礎	2前			2				○		1						
	データサイエンス	2後			2				○		1						
	人工知能	3前			2				○		1						
	アート&デザイン演習	4前			2					○			1				
	基本情報技術	1・2・3・4通			2					○						1	標準外
	情報メディア特別演習Ⅰ	1・2・3・4通			2						1			1		2	
	情報メディア特別演習Ⅱ	1・2・3・4通			2						1			1		2	
	インターンシップ	1・2・3・4通			2												
専門演習Ⅰ	3前	○	2							7	3		1				
専門演習Ⅱ	3後	○	2							7	3		1				
卒業演習Ⅰ	4前	○	2							7	3				2		
卒業演習Ⅱ	4後	○	2							7	3				2		
ITパスポート	1・2・3・4通			2				○							2	標準外	
小計 (22科目)	—	—	—	20	24	0	—	—	—	9	3	0	2	0	8		
専門教育科目	情報システム入門	1前	○	2				○									
	情報基礎理論	1後	○	2				○									
	プログラム演習Ⅱ	2前		2					○							1	
	アルゴリズムとデータ構造	2前	○	2					○								
	Webプログラミング	2前		2					○							1	
	メディア情報技術	2後	○	2					○								
	コンピュータネットワークⅠ	2後		2					○				1				
	ゲームプログラミング	2後		2					○			1					
	システム開発論	3前		2					○							1	
	データベース	3前		2					○			1					
	プログラム演習Ⅲ	3前		2						○						1	
	サウンドプログラミング	3前		2						○				1			
	コンピュータネットワークⅡ	3前		2						○							
プログラム演習Ⅳ	3後		2									1					
知識情報学	3後		2						○								
モバイル情報論	3後		2						○								
小計 (16科目)	—	—	—	16	16	0	—	—	—	4	1	0	2	0	4		
映像メディアコース	デジタルアート入門	1前	○	2				○				1		1			
	アニメーション	1後		2				○								2	
	CG基礎	2前	○	2					○			1					
	映像制作演習Ⅰ	2前	○	2						○			1			1	
	映像史とアーカイブ	2前	○	2					○			1					
	色彩学	2前		2					○							1	
	映像制作演習Ⅱ	2後		2						○		1					
	CG演習	2後			2					○							
	写真技術	2後		2						○							
	映像加工技術	3前		2						○						1	
	ドキュメンタリー・シナリオ	3前		2						○			1				
	CM制作	3前		2						○							
	マルチメディア	3前		2						○				1		1	
メディアアート	3後		2						○			1					
ドキュメンタリー演習	3後		2							○		1					
放送・配信論	3後		2						○						1		
小計 (16科目)	—	—	—	16	16	0	—	—	—	3	3	0	1	0	5		

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報メディア学部情報メディア学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員		
専門教育科目 サウンド制作コース	デジタルサウンド入門	1前	○	2			○			1							
	MIDI制作演習Ⅰ	1後	○	2				○			1						
	音響実務	2前		2			○									1	
	MIDI制作演習Ⅱ	2前	○	2				○			1						
	音楽理論	2前		2			○										1
	音響学	2後	○	2			○			1							
	聴能・音感演習	2後		2				○									1
	サウンドクリエイション	2後		2			○				1						
	照明技術	2後			2		○										2
	音響制作演習	3前			2			○									1
	サウンドプログラミング	3前			2			○						1			
	マルチメディア	3前			2			○							1		
	サウンドプロダクション	3後			2			○									1
	レコーディング演習	3後			2				○								1
	舞台制作	3後			2			○									1
	放送・配信論	3後			2			○									1
小計 (16科目)	—	—	—	16	16	0	—	—	—	1	1	0	2	0	6		
専門教育科目 メディアデザインコース	メディアデザイン入門	1前	○	2			○				1						
	グラフィックデザイン	1後		2				○								1	
	メディアデザイン演習Ⅰ	2前	○	2				○				1					
	色彩学	2前		2			○										1
	Webプログラミング	2前	○	2			○										1
	CG基礎	2前			2		○			1							
	メディアデザイン演習Ⅱ	2後		2				○									1
	Webデザイン	2後	○	2			○						1				
	CAD	2前			2			○		1							
	メディア文化論	2後			2			○									1
	マルチメディア	3前			2			○					1				1
	デジタルファブリケーション	3前			2			○									
	Web解析	3後			2			○		1							
ドキュメンタリー・シナリオ	3前			2			○			1							
暮らしとデザイン	3後			2			○									1	
ドキュメンタリー演習	3後			2				○									
小計 (16科目)	—	—	—	16	16	0	—	—	—	3	2	0	1	0	6		
専門教育科目小計 (86科目)	—	—	—	84	94	0	—	—	—	9	4	0	3	0	20		
合計 (132科目)	—	—	—	106	152	0	—	—	—	10	6	0	3	0	38		
学位又は称号	学士 (情報メディア学)			学位又は学科の分野			経済学関係、文学関係										
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
基礎教育科目：必修科目を含め36単位以上 専門教育科目：必修科目を含め36単位以上 基礎教育科目及び専門教育科目から52単位以上 を修得し、124単位以上修得すること ○履修科目の登録の上限は半期24単位							1学年の学期区分			2学期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業の標準時間			90分							

教 育 課 程 等 の 概 要															
(健康生活学部健康栄養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	哲学	1・2・3・4前			2		○							1	
	心理学	1・2・3・4前			2		○			1					
	人間関係論	1・2・3・4後			2		○			1					
	現代日本史	1・2・3・4後			2		○					1			
	日本語力Ⅰ	1前	○	1			○			1		1		1	共同
	日本語力Ⅱ	1前	○	1			○			1		1		1	共同
	海外事情	1・2・3・4後			2		○							1	
	海外研修Ⅰ	1・2・3・4通			2		○			1					
	海外研修Ⅱ	1・2・3・4通			2		○			1					
	法学	1・2・3・4前			2		○							1	
	日本国憲法	1・2・3・4前			2		○							1	
	経済学	1・2・3・4後			2		○							1	
	経営学	1・2・3・4前			2		○							1	
	社会学	1・2・3・4後			2		○							1	
	数的処理Ⅰ	1後	○	1			○			1		1			共同
	数的処理Ⅱ	1後	○	1			○			1		1			共同
	自然科学Ⅰ(生物学)	1前		2			○							1	
	自然科学Ⅱ(化学)	1後	○	2			○			1		1			共同
	基礎理化学実験	1前	○	1					○	1		1	1		共同
	生物特論	1後		2			○								
	統計学	1・2・3・4前			2		○							1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅠ	1前		2			○							1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅡ	1後		2			○							1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅢ	2前		2			○							1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅣ	2後		2			○							1	
	フランス語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○							1	
	フランス語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○							1	
	中国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○							1	
	中国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○							1	
	韓国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○							1	
	韓国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○							1	
	スポーツ科学	1・2・3・4後			2		○							1	
	スポーツⅠ	1・2・3・4前			1				○					1	
	スポーツⅡ	1・2・3・4後			1				○					1	
	アウトドアスポーツⅠ	1・2・3・4前			1				○	1				1	共同
	アウトドアスポーツⅡ	1・2・3・4後			1				○	1				1	共同
	情報リテラシー	1前		2			○							1	
	ICT基礎	1後		2			○							1	
	地域の課題	1・2・3・4後			2		○							2	
	フレッシュマンセミナー(健康栄養)	1前	○	2					○	1		1			
	キャリアデザインⅠ	2後		1			○			1	1	2		4	オムニバス
	キャリアデザインⅡ	3前		1			○			1	1	1		2	オムニバス
	総合科目A	1後			2		○					1			
	総合科目B	1後			2		○								
小計(44科目)	—	—	—	21	56	0	—	—	3	1	0	4	1	19	
	公衆衛生学	2前		2			○							1	
	健康管理概論	1後	○	2			○		1						
	社会福祉概論	3後		2			○							1	
	看護・介護学概論	3前		2			○								
	解剖生理学Ⅰ	1後	○	2			○		2						
	解剖生理学Ⅱ	2前	○	2			○		1						
	解剖生理学実験Ⅰ	2前	○	1					1			1			
	解剖生理学実験Ⅱ	2後	○	1					1			1			
	生化学Ⅰ	2前	○	2			○		1						
	生化学Ⅱ	2後	○	2			○		1						
	生化学実験	2後		1					1			1	1		
	栄養生化学	3後	○	2			○		1						
	栄養生化学実験	2後	○	1					1			1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(健康生活学部健康栄養学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	(助手を除く) 基幹教員以外の教員		
専門教育科目	運動生理学	3後			2		○				1						
	病気の成り立ちⅠ	2前	○	2			○				1						
	病気の成り立ちⅡ	2後	○	2			○				1						
	病気の成り立ちⅢ	3前	○	2			○				1						
	食品学Ⅰ	1後	○	2			○				1						
	食品学Ⅱ	2前	○	2			○				1						
	食品学実験Ⅰ	1後	○	1				○			1				1		
	食品学実験Ⅱ	2前	○	1				○			1				1		
	加工食品学	3前		2				○									1
	食品衛生学	1前		2				○									1
	食品衛生学実験	1後		1					○						1		1
	調理学	1前	○	2				○						1			
	調理学実験	2前	○	1					○			1				1	
	調理学実習Ⅰ	1前	○	1					○						1	1	
	調理学実習Ⅱ	1後	○	1					○						1	1	
	栄養学Ⅰ	1前	○	2				○				1					
	栄養学Ⅱ	1後	○	2				○				1					
	基礎栄養学実験	2前	○	1					○			1				1	
	ライフステージ栄養学Ⅰ	1後	○	2				○					1				
	ライフステージ栄養学Ⅱ	2前	○	2				○					1				
	ライフステージ栄養学Ⅲ	2後	○	2				○					1				
	スポーツ栄養論	4前			2			○									1
	ライフステージ栄養学実習	3前	○	1					○				1			1	
	栄養教育論Ⅰ	2後	○	2				○							1		
	栄養教育論Ⅱ	3前	○	2				○							1		
	栄養教育論Ⅲ	3後	○	2				○							1		
	栄養教育実習Ⅰ	3前	○	1					○						1	1	
	栄養教育実習Ⅱ	3後	○	1					○						1	1	
	カウンセリング実習	3後			1				○								
	病態栄養学Ⅰ	2後	○	2				○					1				
	病態栄養学Ⅱ	3前	○	2				○					1				
	臨床栄養管理論Ⅰ	3前	○	2				○							1		
	臨床栄養管理論Ⅱ	3後	○	2				○							1		
	臨床栄養管理実習Ⅰ	2後	○	1					○				1			1	
	臨床栄養管理実習Ⅱ	3前	○	1					○				1			1	
	栄養疫学	3前	○	2				○				1					
	公衆栄養学	2後	○	2				○				1					
	公衆栄養学実習	3後	○	1					○							1	
	給食経営管理学	2後	○		2			○					1				
	給食実務論	2前	○	2				○					1				
	フードシステム論	3後			2			○									1
	給食経営管理実習Ⅰ	2後	○	1					○				1				2
	給食経営管理実習Ⅱ	3前			1				○				1				2
	総合演習Ⅰ	4前			1			○					1				
	総合演習Ⅱ	4後			1			○					1				
	臨地実習Ⅰ	3後	○	1					○				1				
	臨地実習Ⅱ	3後			2				○					1			
	臨地実習Ⅲ	3後			1				○					1			
	卒業演習Ⅰ	4前	○	2				○				7	3			3	
	卒業演習Ⅱ	4後	○	2				○				7	3			3	
	小計 (63科目)		—	—	85	17	0	—	—	—	—	7	3	0	3	6	7
	合計 (107科目)		—	—	106	73	0	—	—	—	—	8	3	0	5	6	24
	学位又は称号	学士 (栄養学)			学位又は学科の分野			家政関係									
	卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
	基礎教育科目：必修科目を含め30単位以上 専門教育科目：必修科目を含め82単位以上 基礎教育科目及び専門教育科目から12単位以上を修得し、124単位以上修得すること ○履修科目の登録の上限は半期24単位							1 学年の学期区分					2 学期				
								1 学期の授業期間					15 週				
								1 時限の授業の標準時間					90 分				

教育課程等の概要																
(健康生活学部フードビジネス学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員
基礎 教育 科目	哲学	1・2・3・4前			2		○								1	
	芸術	1・2・3・4後			2		○				1				2	
	心理学	1・2・3・4前			2		○								1	
	人間関係論	1・2・3・4後			2		○								1	
	現代日本史	1・2・3・4後			2		○								1	
	海外事情	1・2・3・4後			2		○				1					
	海外研修Ⅰ	1・2・3・4通			2		○								1	
	海外研修Ⅱ	1・2・3・4通			2		○								1	
	日本国憲法	1・2・3・4前			2		○								1	
	法学	1・2・3・4前			2		○								1	
	経済学	1・2・3・4後			2		○								1	
	経営学	1・2・3・4前			2		○			1						
	社会学	1・2・3・4前			2		○						1			
	自然科学Ⅰ	1・2・3・4前			2		○								1	
	自然科学Ⅱ	1・2・3・4後			2		○								1	
	統計学	1・2・3・4前			2		○								1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅠ	1前	○	2		2		○						1		
	ブラクティカル・イングリッシュⅡ	1後	○	2		2		○						1		
	ブラクティカル・イングリッシュⅢ	2前			2		2		○		1					
	ブラクティカル・イングリッシュⅣ	2後			2		2		○		1					
	フランス語Ⅰ	1・2・3・4前			2		2		○						1	
	フランス語Ⅱ	1・2・3・4後			2		2		○						1	
	中国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		2		○						1	
	中国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		2		○						1	
	韓国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		2		○						1	
	韓国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		2		○						1	
	健康と栄養	1前		2		2		○							1	
	スポーツ科学	1・2・3・4後			2		2		○						1	
	スポーツⅠ	1・2・3・4前			1		1			○					1	
	スポーツⅡ	1・2・3・4後			1		1			○					1	
	アウトドアスポーツⅠ	1・2・3・4前			1		1			○					2	共同
	アウトドアスポーツⅡ	1・2・3・4後			1		1			○					2	共同
	地域の課題	1・2・3・4後			1		1		○					1	1	
	ボランティア活動	1・2・3・4通			2		2			○					1	
	情報リテラシー	1前		2		2			○						1	
	ICT基礎	1後		2		2			○						1	
	プレゼンテーション	2前			2		2		○					1		
	フレッシュマンセミナーⅠ	1前	○	1		1				○		1		5		共同
	フレッシュマンセミナーⅡ	1後	○	1		1				○		1		5		共同
	基礎演習Ⅰ	2前	○	2		2				○		1		4		
	基礎演習Ⅱ	2後	○	2		2				○		1		4		
	日本語力Ⅰ	1前		1		1		○							2	共同
	日本語力Ⅱ	1前		1		1		○							2	共同
	教的処理Ⅰ	1後		1		1		○							3	共同
	教的処理Ⅱ	1後		1		1		○							3	共同
	キャリアデザインⅠ	2後		1		1		○			2	1			5	オムニバス
	キャリアデザインⅡ	3前		1		1		○				1			4	オムニバス
小計(47科目)	—		—	22	60	0	—	—	—	3	3	0	5	0	21	
フードビジネス学入門	1前	○	2		2		○			4	3		5			オムニバス
簿記	1前	○	2		2		○			1						
フードサイエンス基礎	1前	○	2		2		○				1					
フードスペシャリスト論	1前	○	2		2		○			1						
デザイン基礎	1前	○	2		2		○				1					
社会調査入門	1前			2		2		○					1			
食品学Ⅰ	1後	○	2		2		○				1					
社会調査方法	1後			2		2		○					1			
食社会学	1後			2		2		○		1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(健康生活学部フードビジネス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
専門教育科目	商学	1後			2		○								1	
	企業会計	1後			2		○			1						
	ITマネジメント	1後			2		○			1						
	調理学	1後	○	2			○						1			
	調理学実習	1後			1				○				1	1		
	フードコーディネート論	1後			2		○						1			
	カメラ基礎	1後			2		○								1	
	食品学Ⅱ	2前	○	2			○				1					
	マーケティング論	2前			2		○				1					
	食品流通論	2前	○	2			○						1			
	食品表示制度	2前	○	2			○									
	フードコーディネート実習	2前			1				○		1		1	1		
	食品学実験	2前			1				○		1	1		1		
	パッケージデザイン	2前			2		○				1					
	ITストラテジ	2前			2		○				1					
	フードサービス論	2前			2		○					1				
	ホスピタリティ論	2前			2		○					1				
	食文化論	2前	○	2			○				1					
	食品安全学	2後	○	2			○				1					
	フードビジネスデータサイエンス	2後			2		○				1					
	栄養学	2後	○	2			○						1			
	カフェ実習	2後			1				○					2	1	
	食品貿易論	2後			2		○						1			
	商品開発	2後			2		○				1					
	ブランド論	2後			2		○					1				
	加工食品学	2後			2		○				1					
	ヒューマンリソースマネジメント	2後			2		○				1					
	リテールマーケティング	2後			2		○								1	
	カメラプロ	2後			2		○								1	
	質的調査法	3前			2		○									1
	消費行動論	3前			2		○									1
	食と環境	3前			2		○				1		1			
	AI基礎	3前			2		○				1					
	アグリビジネス	3前			2		○						1			
	製菓実習	3前			1				○					1	1	
	食とデザインⅠ	3前			2		○				1					
	食品官能評価	3前			2		○						1	1		
	フードビジネス・イングリッシュⅠ	3前			2		○				1					
	カフェ・レストランプロデュース	3前			2		○								1	
	フードプランニング	3前	○	2			○				1					
	食品衛生学	3後			2		○					1				
食品衛生学実験	3後			1				○			1		1			
チェーンストアシステム	3後			2		○					1					
応用フードコーディネート論	3後			2		○						1				
応用フードコーディネート実習	3後			1				○					1	2		
食とデザインⅡ	3後			2		○				1						
食品産業論	3後			2		○						1				
暮らしとデザイン	3後			2		○					1					
社会調査実習	3後			2		○										
フードビジネス・イングリッシュⅡ	3後			2		○				1						
フードビジネス・イングリッシュⅢ	4前			2		○							1			
専門演習Ⅰ	3前	○	2					○		2	4		2			
専門演習Ⅱ	3後	○	2					○		2	4		2			
卒業演習Ⅰ	4前	○	2					○		3	3		1			
卒業演習Ⅱ	4後	○	2					○		3	3		1			
卒業研究	4後	○	2					○		3	3		1			
原価計算	1・2・3・4後			2		○				1						
フィールドスタディー	1・2・3・4後			2				○					1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(健康生活学部フードビジネス学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外 の 教 員		
	ITパスポート	1・2・3・4後			2		○									2	
	インターンシップ I	1・2・3・4通			2			○								1	
	インターンシップ II	1・2・3・4通			2			○								1	
	フードビジネス特別講義 I	1・2・3・4通			2		○									1	
	フードビジネス特別講義 II	1・2・3・4通			2		○			2							
	フードビジネス特別演習 I	1・2・3・4通			2			○									
	フードビジネス特別演習 II	1・2・3・4通			2			○									
	小計 (74科目)	—	—	38	103	0	—	—	—	4	4	0	5	2	13		
	合計 (121科目)	—	—	60	163	0	—	—	—	4	4	0	5	2	30		
学位又は称号		学士 (フードビジネス学)		学位又は学科の分野			家政関係										
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
基礎教育科目：必修科目を含め30単位以上 専門教育科目：必修科目を含め82単位以上 基礎教育科目及び専門教育科目から12単位以上 を修得し、124単位以上修得すること ○履修科目の登録の上限は半期24単位									1 学年の学期区分				2学期				
									1 学期の授業期間				15週				
									1 時限の授業の標準時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要				
(健康情報学研究科健康情報学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
健康情報学分野	健康情報学		AIをはじめとする現代の情報技術やサイエンスが健康観や身体像の形成にどのような影響を及ぼし、また医療や生活スタイルにどのような変化をもたらすかを示すとともに、現在および未来の健康生活の維持・増進に貢献しうる情報技術やサイエンスのあり方を具体例をもとに考察し、展望する。 （オムニバス方式／全15回） （1 落合 洋文／3回） 現在の情報技術やデータサイエンスが医療や健康生活の維持・増進にどのように役立っているかの展望、健康情報学の目的と可能性について （2 長谷川 聡／3回） 健康情報の特性と伝達、AI・情報技術による健康管理・健康増進、人間の視覚情報と健康 （3 周 欣欣／2回） 情報技術の発達をもたらした医用画像技術、仮想現実技術VRや拡張現実技術ARについて （4 後藤 千穂／2回） AIの発展に伴う健康の観点から見たEBMの将来像と課題 （5 近藤 徹弥／2回） フードインフォマティクス入門 （10 吉田 友敬／2回） 音の環境を健康という問題意識の下で分析する、音声の構音と知覚のしくみと構音障害 （1 落合 洋文・2 長谷川 聡・3 周 欣欣・4 後藤 千穂・5 近藤 徹弥・10 吉田 友敬／1回）（共同） 健康情報学の視点と課題について議論を行い考究する	オムニバス方式・共同（一部）
	健康データサイエンス		データから情報や知識を抽出するための手法がデータサイエンスであり、健康に関するデータには個人情報が多く含まれ、その適切な取扱いが求められる等、他の分野のデータとは異なる性質を持っている。またEBM（根拠に基づく医療）に資することはもちろん、健康に関する情報発信には常に大きな責任が伴う。本科目では、健康と情報を取り巻く状況を理解し、データを適切に用いることによってイノベーションにつながる基本的事項を修得する。	
	健康情報産業論		健康情報産業論では健康情報関連企業の経営分析をおこなう。健康情報関連企業の有価証券報告書とは上場している会社に対して様々な情報を提供するために、作成・開示することが義務付けられている書類である。医薬品メーカー、ヘルスケアをはじめとした代表的な健康情報関連企業の有価証券報告書の分析を通じて、企業の特徴を学ぶとともに企業の経営分析の仕方を学ぶ。また、統合報告書についてもこの授業で取り扱う。	
健康科学分野	食生活と栄養		栄養素の消化や吸収、代謝について解説し、栄養素の生理機能を講述する。さらに、健康維持をするために、食生活のあり方から生活習慣病など栄養素の量的・質的バランスと、関連のある疾患の予防などについて栄養学見地から解説する。「不足の栄養学」から「過剰の栄養学」へと時代が変化する中、効率よく栄養素を摂取するこれまでの“バランスの良い食事”から、健康のための“バランスの良い食事”とは何かを考える。	
	地域医療と健康管理		超高齢社会における地域医療と健康管理の課題について学び、健康情報学による問題解決の可能性を考える。担当教員の老年医学の研究者および老年内科・認知症専門医として地域医療を行う経験から教授する。まず、ヒトの幼年期から高齢期までのライフステージごとの健康管理と医療について学び、「高齢者」とその特性の医学的・生物学的・心理的・社会的な理解を図る。次に、健康長寿を実現するための課題、加齢変化、認知症、死別と悲嘆、介護家族の心理について最新の研究成果を紹介し考察を深める。さらに、老年期の心理・社会的適応を目指す予防的な心理社会的援助の側面をとりあげ、超高齢化社会における地域医療の役割を考察する。	

健康科学分野	身体運動と健康	<p>身体運動は健康の増進、体力づくりに必要な重要要素である栄養、運動、休養の一つであり、生活習慣病の予防や治療にも有効である。しかし、無理な運動、誤った運動は、逆に健康を損なうことにもなり、適切かつ適度な運動が求められる。そのためには、身体運動による身体への影響、効果を医科学的に理解し、個人にあった適切な身体運動が処方されなければならない。本講義では、運動が身体に及ぼす生理的機能や様々な運動の特性を正しく理解し、適切な運動処方の在り方について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 國友 宏渉/8回)</p> <p>運動不足の害について、身体運動に必要な骨格筋の構造と機能、身体を動かすための骨格筋収縮のメカニズム、筋収縮と骨の働き、身体運動と呼吸器系の関係、身体運動と循環器系の関係、運動とホメオスタシス、身体運動を支える栄養素の働きについて担当する。</p> <p>(14 関 豪/7回)</p> <p>トレーニングの科学、運動処方、生活習慣病と運動、高齢者と運動、こどもの体力と運動について担当する。</p>	オムニバス方式
	健康心理学	<p>健康心理学は、心理学的な立場から、心身の健康を高めることを目的としている。健康の維持と増進、疾病の予防と治療などについての原因と対処の心理学的な究明、及び健康教育やヘルスケアシステム、健康政策の構築などに対し、心理学から貢献する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (8 山田 ゆかり/8回)</p> <p>健康心理学の基礎理論、健康維持の生理学的メカニズム、ストレスの基礎、ストレスと健康、ストレスマネジメント、健康とパーソナリティ、健康心理カウンセリングの基本について担当する。</p> <p>(16 山本 ちか/7回)</p> <p>健康行動と疾病予防、ソーシャルサポートとヘルスケアシステム、健康心理アセスメント、健康心理学のデータ活用、健康教育の場と方法、健康教育と行動変容について担当する。</p>	オムニバス方式
情報科学分野	プログラミングと応用	<p>問題解決のためのプログラミング技術を確実なものとし、健康科学に関する研究、健康管理・健康増進に役立つアプリケーションの開発への応用力を身につける。C言語をはじめとする手続き型言語の理解を基礎に、データサイエンスやディープラーニング型のAIの活用にも応用できるPythonプログラミングも比較しながら学修し、応用力を身につける。生成AIを補助的に利用したプログラム開発（プロンプトエンジニアリング）も取り入れて、健康情報科学分野での応用のための実践的なプログラム開発力を身につける。</p>	
	情報メディアとシステム技術	<p>健康栄養分野へのITの普及・拡大にともなうデータの増加・多様化に対し、大規模データに潜むパターンを発見し、可視化し、さらには問題解決のための指針を得る機械学習、データマイニング、可視化、数値最適化等の応用的な情報処理技術が重要度を高めている。本講義では、機械学習の分野で発展したこれらの技術の理論を解説するとともにPythonプログラム開発環境Google Colaboratory上での機械学習システムの開発演習を取り入れ理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (12 田近 一郎/8回)</p> <p>機械学習システム、データマイニング、数値最適化、可視化技術について、大規模な機械学習システムの実装で必要となるプログラミング言語Pythonの重要項目、大規模な機械学習システムの実装で必要となる数学分野の重要項目について担当する。</p> <p>(18 森 博/7回)</p> <p>健康栄養情報を扱う機械学習システムを提案・実装するシステム開発演習をおこなう。</p>	オムニバス方式
	人工知能特論	<p>人工知能(Artificial Intelligence: AI) は広大な領域であり、論理、確率、連続数学、認知、推論、学習、および行為にまで、さらには、電子デバイスからロボットによる惑星探査にまで及んでいる。本講義では、AIの基礎知識と基礎技術について体系的に学ぶ。</p>	
	情報教育特論	<p>学習指導要領に基づき、小学校ではプログラミング教育、中学校では技術科において情報の技術を扱い、高等学校では必修科目情報Ⅰが施行されている。生涯教育としての情報科について、その背景や事例に関してディスカッションや演習を通して学習し、小学校や中学校、高等学校の総合学習や探究学習や教科横断した教育への適用可能性を検討する。また、情報教育について深く学ぶことによって情報科学の技能と啓蒙を通して社会における問題解決に積極的に取り組むための素養とする。</p>	

総合分野	専門社会調査演習	社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する科目。調査方法論、調査倫理を踏まえ、調査方法の決定、調査企画と設計、仮説構成、調査票の作成、サンプリングないし対象者・フィールドの選定、実査、調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング）、フィールドノート作成、コードブック作成）、比較的簡単な量的分析とグラフ作成、質的な分析、以上に基づく報告ペーパーの作成などに関する実践的な授業科目。専門社会調査士H科目に該当する。	
	質的調査演習	質的データの分析法（内容分析等）を習得するとともに、さまざまな質的調査法（聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析など）に関する基本的理解を踏まえながら、そのあるものについての実践的な能力を習得する科目。専門社会調査士J科目に該当する。	
	健康データ解析演習	健康を評価する疫学研究のデザインや長所・短所を理解したうえで、量的調査データを解析するにあたり、統計学の基礎を確認しながら、多変量解析（重回帰分析、パス解析、分散分析、共分散分析、ロジット分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析、生存時間分析、共分散構造分析など）の手法の理解を深め、かつ、コンピュータを用いて実際に解析することのできる能力を養う科目である。統計調査士や専門統計調査士、専門社会調査士等の資格取得に役立つ科目である。	
	メディア文化と表現	マクラーハンに倣ってメディア＝人間の拡張と見ると、技術の発明はすべてメディアといえる。メディアはいったん産み落とされると人間から切り離されて独り歩きをはじめ。人間はそれが自分の拡張であることを忘れ、魅せられてしまう。これが「ナルキッソスの陶醉」で、ここにメディアあるいは技術の危うさがある。またメディアを熱いメディアと冷たいメディアに二分すると、メディア文化や表現の特質を理解しやすい。これらのキーワードを手がかりとしてメディアの本質を理解し、メディア文化の実像と表現の可能性を理解することが本講義の目標である。 (オムニバス方式／全15回) (1 落合 洋文／7回) マクラーハンのメディア論を発展させる形でメディアとしてのAIと人間の関係について講義をおこなう。人間の思考や行動を適応の次元に還元すると、人間はしたい・したくないの軸に置かれる。いっぽうAIは身体をもたないから適応の次元にはなく、（機械学習が）できる・できないの軸に置かれる。これら二つの軸によって人間とAIの関係を分析する。 (7 青山 太郎／8回) 近年のメディア現象において、どのような機械-身体がなされておき、そうした拡張＝変容によって、どのように人々の欲望が再編成され、情報社会の枠組みが差異化しているのか、そのダイナミズムを具体的事例に即して講義をおこなう。	オムニバス方式
	モデル化とシミュレーション	自然や社会は複雑であるから、科学では視点を決めて観察や測定や実験を行う。このとき観察される現象を、モデルという小さな箱、言い換えれば単純な枠組みのなかに置いて分析することにより、そのような現象を生じさせるメカニズムを理解することができる。またAIの利用が急速に進むこんにち、AIを正しく評価して利用するためにも、説明可能なモデルをもつことが重要である。このようなことを背景として、モデル化は、自然科学においても社会科学においても、必須の研究手段であり、その可能性と限界について理解を深めることが重要である。前半は科学の方法論の一般的特徴と、理論とモデルの関係、モデルの可能性と限界について理解する。後半はモデル化を実現するコンピュータシミュレーションの理論と実際を演習によって修得する。シミュレーションの手法として、セルオートマトンのアプローチと、対象となる全系を支配する基本方程式に基づいたアプローチを比較し、両者の長所と短所を理解する。 (オムニバス方式／全15回) (1 落合 洋文／6回) 科学研究におけるモデルの役割、モデル化とシミュレーションの可能性と限界について講義をおこなう。また気候変動や感染拡大の簡単な数理モデルを作成し、モデル化という手法の本質について担当する。 (11 本多 一彦／9回) 演習形式の授業で、セルオートマトンのアプローチの実例と基本方程式に基づいたアプローチの実例に触れながら、両者の特徴とメリット・デメリットについて講義をおこなう。	オムニバス方式

研究 指導 科目	知的財産権と研究倫理		今日の情報化の進展は、産業や人々の生活に大きな変革をもたらしたが、光と影の部分があり、健康情報学を考究する上で大きなかかわりがある。第1・2次産業では、主として有形の「もの」を扱ったが、第3次産業を超え、無形の「もの」を扱うことが根底にある。この「無形のもの」は、換言すれば「無体資産」あるいは「価値」として捉えられ、本講義では、これを取り扱う知的財産権や研究のあり方について検討する。講義前段では日本において知的財産が重視されるようになった経緯から、教育や研究とのかかわりを講述し、後段では、研究倫理に視野を拡大して研究論文執筆に向けた基礎的知識を修得する。	
	科学論文作成法		この講義は学術論文を執筆する意義と目的を学び、その具体的方法を身につけることを目標としている。なんのために論文を書くのか、何を論文に書くのか、どのように書くのかといった論文執筆の基本を学び、論文を執筆することは研究を遂行することと不可分であることを理解させる。	
	健康情報学演習 1		修士論文の作成に際し、各自の研究計画に係る先行研究の調査と検討を行う。またその結果を踏まえて各自の研究計画を具体化し、確定する。 以下に各教員のテーマを記載。 (1 落合 洋文) 身体と健康の観点からするAIの哲学 (2 長谷川 聡) 健康情報システムへのAI応用と高齢者特性の研究 (3 周 欣欣) 生体信号計測と可視化による健康増進アプリの開発 (4 後藤 千穂) 健康と食の関係および食事評価方法の検討 (5 近藤 徹弥) 食品の成分や物性の網羅的解析に基づく美味しさの予測と制御 (6 吉田 洋) 健康情報関連企業の経営分析とDX化の研究 (7 青山 太郎) 映像文化にみられる「健康」イメージの研究	
	健康情報学演習 2		修士論文の作成に向けて、研究計画に沿った研究を実施し、研究課題を掘り下げ、方法論の改良を行う。また（予備的な）研究結果を検討し、研究計画の（特に研究の進捗に関する）検討を行う。 以下に各教員のテーマを記載。 (1 落合 洋文) 身体と健康の観点からするAIの哲学 (2 長谷川 聡) 健康情報システムへのAI応用と高齢者特性の研究 (3 周 欣欣) 生体信号計測と可視化による健康増進アプリの開発 (4 後藤 千穂) 健康と食の関係および食事評価方法の検討 (5 近藤 徹弥) 食品の成分や物性の網羅的解析に基づく美味しさの予測と制御 (6 吉田 洋) 健康情報関連企業の経営分析とDX化の研究 (7 青山 太郎) 映像文化にみられる「健康」イメージの研究	

研究指導科目	健康情報学演習 3	/	<p>修士論文の作成に向けて、研究を実施する過程で明らかになる様々な問題に対処する方法を具体的に学ぶ。特に、研究結果や研究の進捗状況を踏まえて、研究計画の妥当性を確認し、必要に応じて方法論を見直したり、取り組むべき課題を見直したりする。自分の研究がある程度進展した段階で、研究計画の確認と見直しを通じて、研究の目的や方法や結果のもつ意味について理解を深めることが目標である。</p> <p>以下に各教員のテーマを記載。</p> <p>(1 落合 洋文) 身体と健康の観点からするAIの哲学</p> <p>(2 長谷川 聡) 健康情報システムへのAI応用と高齢者特性の研究</p> <p>(3 周 欣欣) 生体信号計測と可視化による健康増進アプリの開発</p> <p>(4 後藤 千穂) 健康と食の関係および食事評価方法の検討</p> <p>(5 近藤 徹弥) 食品の成分や物性の網羅的解析に基づく美味しさの予測と制御</p> <p>(6 吉田 洋) 健康情報関連企業の経営分析とDX化の研究</p> <p>(7 青山 太郎) 映像文化にみられる「健康」イメージの研究</p>	
	健康情報学演習 4	/	<p>修士論文の作成に向けて、研究成果のまとめかたと、研究発表の方法について、各自の研究成果を踏まえて具体的に学ぶ。</p> <p>以下に各教員のテーマを記載。</p> <p>(1 落合 洋文) 身体と健康の観点からするAIの哲学</p> <p>(2 長谷川 聡) 健康情報システムへのAI応用と高齢者特性の研究</p> <p>(3 周 欣欣) 生体信号計測と可視化による健康増進アプリの開発</p> <p>(4 後藤 千穂) 健康と食の関係および食事評価方法の検討</p> <p>(5 近藤 徹弥) 食品の成分や物性の網羅的解析に基づく美味しさの予測と制御</p> <p>(6 吉田 洋) 健康情報関連企業の経営分析とDX化の研究</p> <p>(7 青山 太郎) 映像文化にみられる「健康」イメージの研究</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人滝川学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由		
名古屋文理大学 健康生活学部 健康栄養学科 フードビジネス学科 情報メディア学部 情報メディア学科				名古屋文理大学 健康生活学部 健康栄養学科 フードビジネス学科 情報メディア学部 情報メディア学科						
		3年次				3年次				
	80	2	324		80	2	324			
	70	-	280		70	-	280			
	120	2	484		120	2	484			
<hr/>				<hr/>						
		3年次				3年次				
計	270	4	1,088	計	270	4	1,088			
<hr/>				<hr/>						
名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (M)				名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (M)				大学院の設置 (認可申請)		
					5	-	10			
				計	5	-	10			
<hr/>				<hr/>						
名古屋文理大学短期大学部 食物栄養学科 栄養士専攻 製菓専攻				名古屋文理大学短期大学部 食物栄養学科 栄養士専攻 製菓専攻				定員変更(△40)		
	120	-	240		80	-	160			
	30	-	60		30	-	60			
	150	-	300	計	110	-	220			
<hr/>				<hr/>						

(1)都道府県内における位置関係の図面

愛知県地域図

—名古屋文理大学所在地—



稲沢市地域図

—名古屋文理大学所在地—

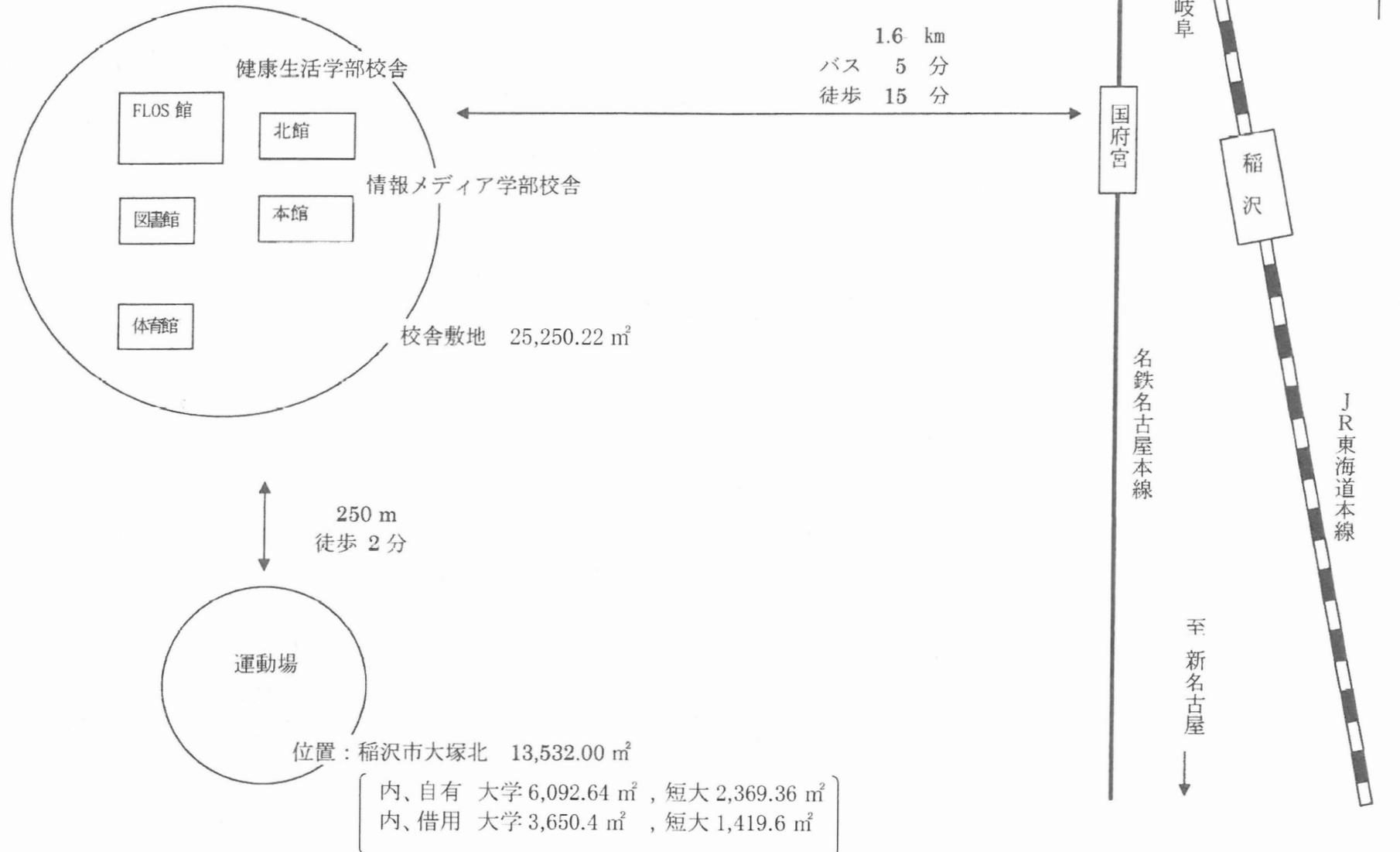


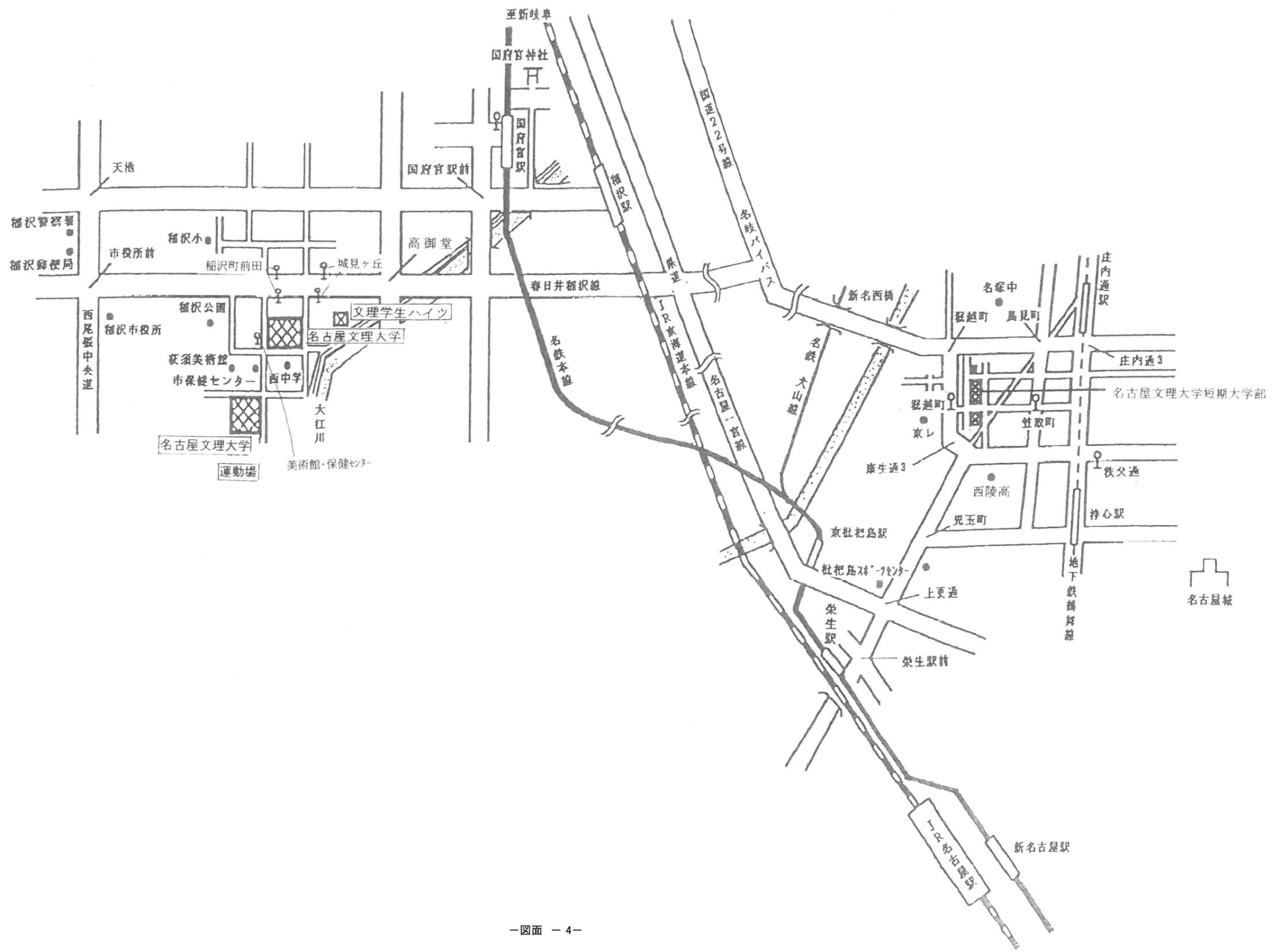
(2)最寄り駅からの距離,交通機関及び所要時間がわかる図面

〈校地図〉

位置 愛知県稲沢市稲沢町前田 3 6 5 (健康生活学部, 情報メディア学部, 健康情報学研究科)

校地 31,342.86 m² (校舎敷地・運動場(大学自有地))



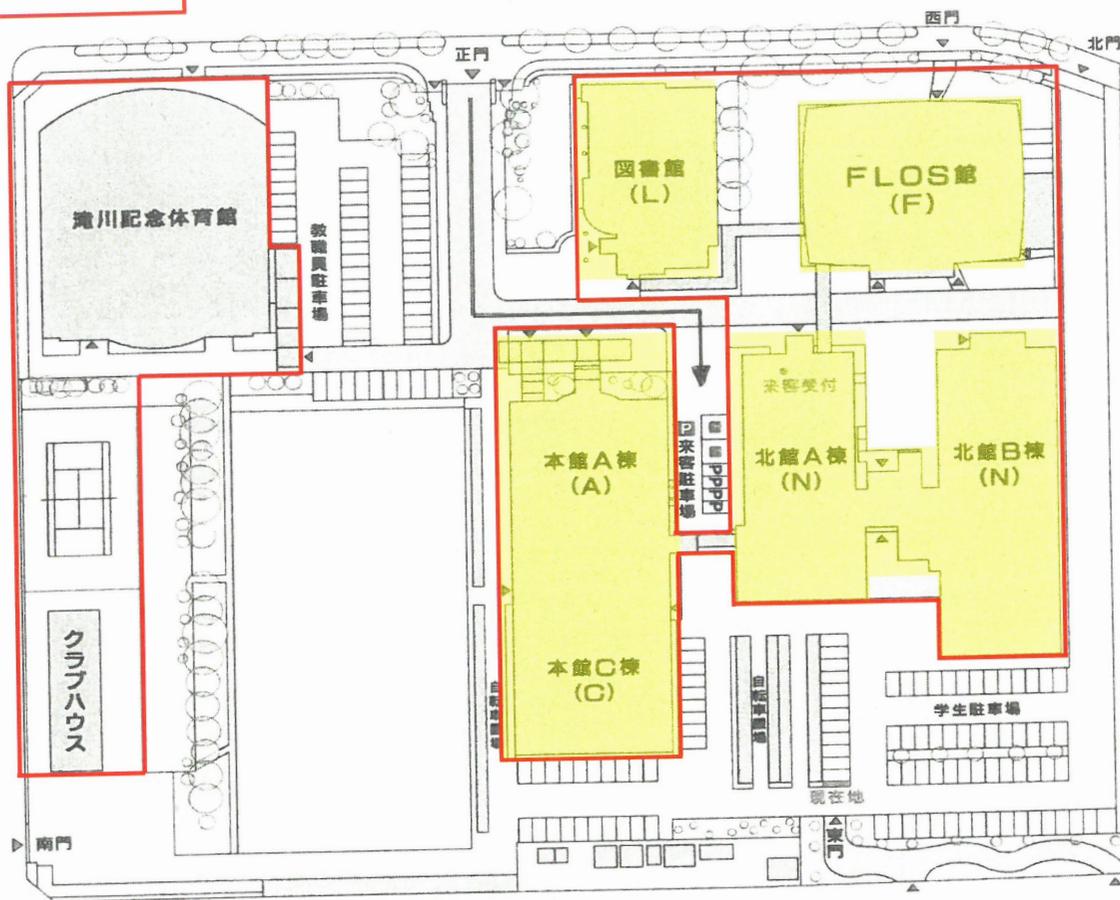


(3)校舎,運動場等の配置図

名古屋文理大学 校舎配置図

校舎敷地 25,250.22 m²

図書館 1,974.65 m²



FLOS館校舎 2,900.91 m²

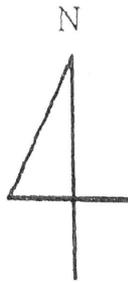
北館校舎 6,416.75 m²
(実測 6,498.60 m²)

本館校舎 5,267.36 m²

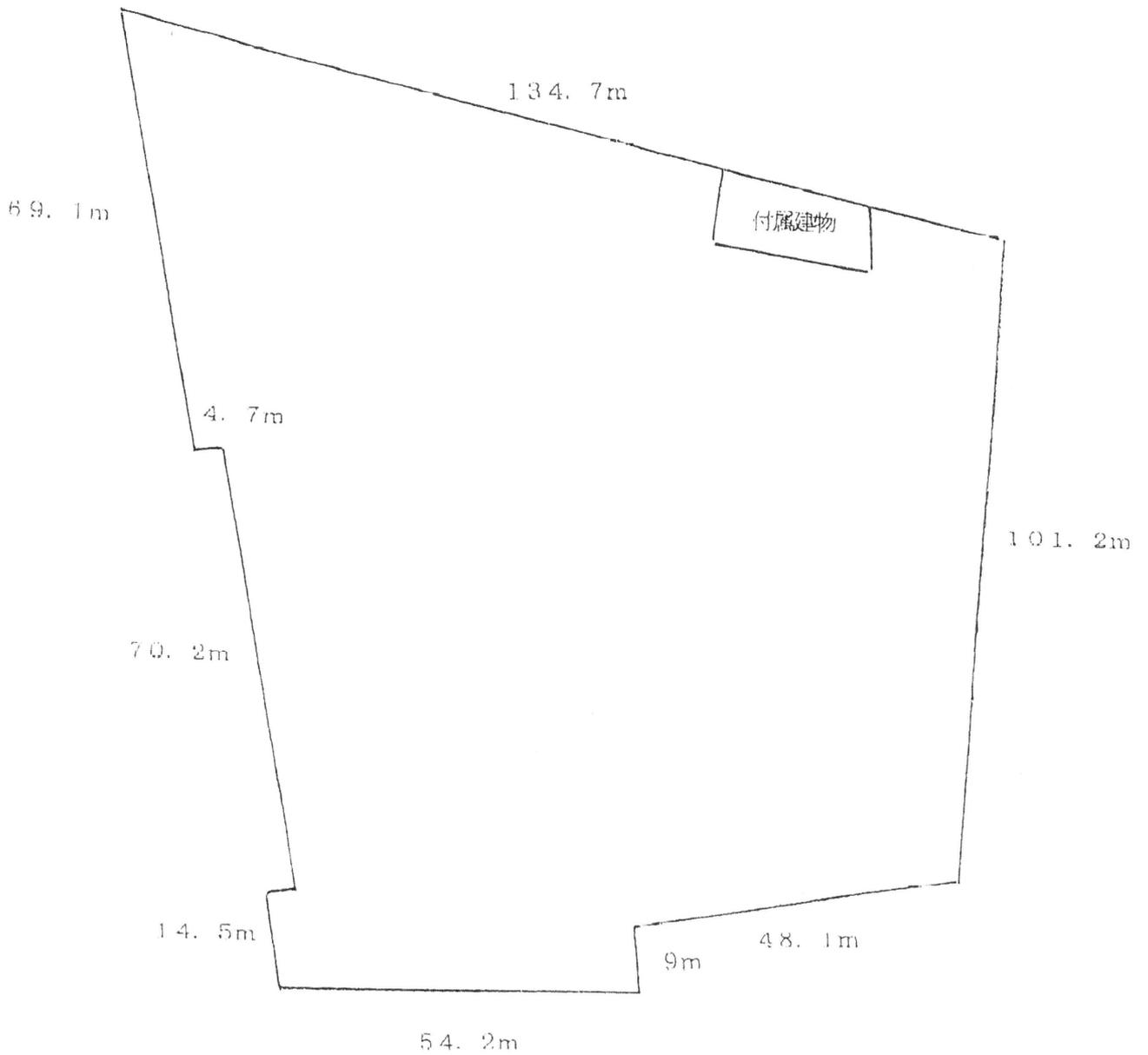
運動場用地

(稲沢市大塚町北2丁目1番)

13,532.00 m²



$\frac{1}{1,000}$



名古屋文理大学大学院 学則（案）

第1章 総則

（目的）

第1条 名古屋文理大学大学院（以下「本大学院」という。）は、立学の精神に基づき、幅広い教養を養成し、健康生活学、情報メディア学に関する教育研究を行い、もって学識深く心身健全にして社会有為な人材の育成を目的とし、学術の振興と科学文化の増進に寄与し、ひいては国家の発展と世界平和の実現に貢献することを使命とする。

（自己点検・評価）

第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、本大学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果に基づいて教育研究活動等の改善及び充実に努める。

2 前項の点検及び評価に関し必要な事項は、別に定める。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第3条 本大学院は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るため、本大学院における研修及び研究を組織的に実施するものとする。

2 研修等の実施に関し必要な事項は、別に定める。

第2章 組織

（研究科及び入学定員等）

第4条 本大学院に健康情報学研究科（以下「研究科」という。）を置く。

2 研究科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

入学定員	収容定員
5名	10名

（研究科長等）

第5条 研究科に研究科長及び必要な職員を置く。

2 研究科長は、研究科に関する校務をつかさどる。

（研究科教授会）

第6条 本大学院の教育研究に関する重要事項を審議するため、研究科教授会を置く。

2 研究科教授会に関し必要な事項は、別に定める。

（委員会）

第7条 本大学院の運営に必要な委員会を置くことができる。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 学年、学期及び休業日

(学年)

第8条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日で終わる。

(学期)

第9条 学年を分けて次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第10条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

学園創立記念日 11月8日

夏期休業日 8月1日から8月31日まで

冬期休業日 12月26日から翌年1月7日まで

春期休業日 3月26日から3月31日まで

2 学長は、前項の休業日を変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は臨時の休業日を定めることができる。

第4章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第11条 本大学院の修業年限は、2年とする。ただし、学長が認めるときは、3年または4年とすることができる。

2 在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に一年以上在学すれば足りるものとする。

(在学年限)

第12条 在学年限は、通算して4年を超えることができない。

第5章 入学、休学及び退学等

(入学の時期)

第13条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第14条 本大学院に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

(3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することに

より、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であった、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

（入学の出願手続）

第15条 大学院への入学を志願する者は、本大学院所定の書類に入学検定料を添えて、提出しなければならない。

2 前項に規定する提出の時期、方法、提出すべき書類等については、別に定める。

（入学者の選考）

第16条 前条第1項の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

（入学手続及び入学許可）

第17条 前条の選考結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、本学所定の手続を行わなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（転入学）

第18条 本大学院に他の大学院に在学する者で転入学を志願するものがあるときは、欠員のある場合に限り、研究科教授会で選考の上、学長が相当年次に入学を許可することができる。

(再入学)

第19条 第25条及び第26条の規定により本大学院を退学した者又は除籍した者で本大学院に再び入学を志願するものは、欠員のある場合に限り、研究科教授会で選考の上、学長が相当年次に入学を許可することができる。

(転入学、再入学の修業年限等)

第20条 第18条及び19条の規定により入学を許可された者の在学期間の通算及び既修得単位の取り扱いその他必要な事項は、別に定める。

(休学)

第21条 学生が疾病その他止むを得ない事情により、1学期以上休学するときはその事由を具し、学長に願い出て許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は医師の診断書の添付を必要とする。

2 学長は、疾病のため修学することが適当でないと認められる学生に対して、研究科教授会の議を経て、期間を定めて休学を命ずることができる。

3 休学期間は、1年を超えることができない。ただし、特別な事由がある場合は、学長の許可を受けて、引き続き、さらに延長することができる。

4 休学期間は、通算して2年を超えることはできない。

5 休学期間は、第12条第1項の在学年限に算入しない。

(復学)

第22条 学生は、休学期間中に当該事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第23条 学生が他の大学院へ転学をしようとするときは、学長の許可を得て転学することができる。

(留学)

第24条 学生が外国の大学院に留学をしようとするときは、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を受けて留学した期間は、第11条第1項の修業年限に含めることができる。

3 留学の取扱いについては、別に定める。

(退学)

第25条 学生が退学しようとするときは、その理由を添えて、学長に願い出て許可を受けなければならない。

(除籍)

第26条 学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、研究科教授会の議を経て、学長が除籍することができる。

(1) 第11条第1項に規定する在学年限を超えた者

- (2) 傷病その他の事由により、成業の見込みがないと認められた者
- (3) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (4) 長期にわたり行方不明の者

第6章 教育課程及び履修方法等

(教育課程の編成方針)

第27条 教育課程の編成は、本大学院の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導計画を策定し、体系的に行うものとする。

- 2 教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的要素を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目)

第28条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目に分け、各年次に配当して編成するものとする。

- 2 授業科目及び単位数は、別表1のとおりとする。
- 3 前項の授業は、多様なメディアを高度に活用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(教育方法の特例)

第29条 教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行うことができる。

(修了要件)

第30条 修士課程の修了の要件は、大学院修士課程に2年以上在籍し、所定の在学年限を満了し、別表2の定めるところにより、所要の授業科目について所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文についての審査及び試験に合格した者に対し、研究科教授会の議を経て、修了を認定する。

(単位の計算方法)

第31条 各授業科目の単位数は1単位の履修時間を教室内および教室外を合わせて45時間とし、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義および演習については15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習および実技については30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。各授業の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(単位の授与)

第32条 授業科目を履修した場合に、成績の評価を行い、合格した者には所定の単位を与える。

2 前項に規定する成績の評価は、試験、論文、報告書その他の方法によって行う。

3 第28条第3項の規定による方法で履修し修得した単位は、20単位を超えない範囲で修了の要件として認定することができる。

(学修の評価)

第33条 授業科目の成績は試験その他の成績により担当教員が判定する。

2 成績判定はA+(100~90点)・A(89~80点)・B(79~70点)・C(69~60点)・D(60点未満)・O(認定)・X(不認定)の評価で表し、A+・A・B・C・Oを合格、D・Xを不合格とする。

3 やむを得ぬ事情で前条の試験を受けなかった者には、研究科教授会の議を経て学長が承認したときに追試験を行うことがある。

4 不合格科目については一定期間を経た後、再試験を行うことができる。

5 学修の評価に関して必要な事項は別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第34条 教育上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に他の大学の大学院において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学院に入学した後の本大学院において修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により本大学院において修得したものとみなす単位は、15単位を超えないものとする。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第35条 教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生に当該他の大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、15単位を超えない範囲で修了の要件となる単位として認めることができる。

3 前項及び第34条第2項で修得したものとみなすことができる単位数は、合わせて20単位を超えないものとする。

(授業科目の履修方法等)

第36条 授業科目の履修方法に関し必要な事項は、別に定める。

第7章 学位

(学位)

第37条 第30条において、修了を認められた者には、修士(健康情報学)の学位を授与する。

2 修士の学位の授与に関し必要な事項は、別に定める。

第8章 入学金及び授業料等

(授業料等)

第38条 授業料等は、別に定める金額を毎年前後2期に分けて徴収する。

- 2 徴収時期は前期分(4月～9月の分)は4月中、後期分(10月～翌年3月の分)は10月中とし、それぞれ年額の2分の1を徴収する。

(退学、停学、休学時の授業料等)

第39条 退学の場合は該当期分の授業料等を徴収する。

- 2 停学を命ぜられたときはその期間中も授業料等を徴収する。
- 3 休学の期間は授業料等を徴収しない。
- 4 休学の期間の在籍料は別に定める。

(授業料未納時の扱い)

第40条 授業料等を所定の期間内に納めないときは、講義その他の課程に出席または図書の見学・学内施設を利用することができない。

(入学検定料および入学金)

第41条 入学志願者は、別に定める検定料を納めなければならない。

- 2 入学手続きにあたっては、別に定める入学金を納めなければならない。

(入学金・授業料等の扱い)

第42条 既納の入学金・授業料等は返付しない。ただし、入学手続き後本大学院所定の期日までに入学辞退を申し出た者については、入学金を除く学納金を返付することがある。

第9章 科目等履修生、聴講生、大学院研究生、外国人留学生及び長期履修学生

(科目等履修生)

第43条 本大学院の学生以外の者で、本大学院所定の授業科目中、一又は複数の授業科目を履修し、単位を取得しようとする者がある場合は、本大学院の教育に支障のない限りにおいて、選考のうえ、学長が科目等履修生として入学を許可することができる。

- 2 科目等履修生の入学資格は、第14条に定める資格を有する者とする。
- 3 科目等履修生は、履修した授業科目につき第32条及び第33条を準用し、単位を与えることができる。
- 4 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第44条 本大学院の授業科目を希望する者があるときは、本大学院の教育に支障のない限りにおいて、選考のうえ、学長が聴講生として入学を許可することができる。

- 2 聴講生に対しては、当該授業科目の試験を行わない。
- 3 聴講生に関し必要な事項は、別に定める。

(大学院研究生)

第45条 本大学院において特定の専門事項について研究しようとする者があるときは、本大学院の教育に支障のない限りにおいて、選考のうえ、学長が大学院研究生として入学を許可することができる。

2 大学院研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第46条 外国人で、本大学院において教育を受ける目的で入国し、本大学院に入学を志願する者があるときは、選考のうえ、学長が外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

(長期履修)

第47条 第11条第1項ただし書に規定する標準修業年限を3年または4年とする学生(以下「長期履修学生」という。)の認定は、学生の申出により学生の研究意欲等を総合的に判断して行うものとする。

2 長期履修学生に関し必要な事項は、別に定める。

第10章 懲戒及び賞

(懲戒)

第48条 本大学院の規則に違反し、または学生としての本文に反する行為をした者は、研究科教授会の議を経て学長はこれを懲戒する。

(懲戒の種類)

第49条 懲戒の種類は譴責・停学・退学とする。

2 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込がないと認められる者
- (3) 正当な理由がなく出席が常でない者
- (4) 学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

(賞)

第50条 学生で品行方正・学術優秀な者または学生の模範となるべき行いをした者は、研究科教授会の議を経て学長はこれを賞する。

第11章 学則の改廃

(学則の改廃)

第51条 この学則の改廃は、研究科教授会の意見を聴いて学長が承認し、理事会が行う。

附 則

この学則は、令和7年4月1日から施行する

別表第一

健康情報学研究科健康情報学専攻

専門教育科目

区分 学科	授業科目		単位数		卒業要件 単位数	備考
			必修	選択		
健康情報学 研究科	健康情報学 分野	健康情報学	2		30単位	必修科目18 単位, 専門教育科 目 健康科学分 野から選択 必修4単位, 情報科学分 野から選択 必修4単位, 総合分野か ら選択必修 4単位以上 修得するこ と
		健康データサイエンス	2			
		健康情報産業論	2			
	健康科学 分野	食生活と栄養		2		
		地域医療と健康管理 身体運動と健康 健康心理学		2 2 2 2		
情報科学 分野	プログラミングと応用 情報メディアとシステム技術 人工知能特論 情報教育特論		2 2 2 2			
総合 分野	専門社会調査演習 質的調査演習 健康データ解析演習 メディア文化と表現 モデル化とシミュレーション		2 2 2 2 2			
研究 指導 科目	知的財産権と研究倫理 科学論文作成法 健康情報学演習1 健康情報学演習2 健康情報学演習3 健康情報学演習4	2 2 2 2 2				

名古屋文理大学大学院健康情報学研究科 研究科教授会規程（案）

（目的）

第1条 この規程は、名古屋文理大学大学院 学則に基づき名古屋文理大学大学院健康情報学研究科教授会の運営等について定める。

（構成）

第2条 研究科教授会は、学長及び教授・准教授をもって組織する。但し、学長が必要と認めるとき、専任の助教・その他の教職員を加えることができる。

（審議事項）

第3条 研究科教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- （1） 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- （2） 学位の授与に関する事項

2 研究科教授会は、前項に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める次に掲げるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- （1） 教育研究の基本方針に関する事項
- （2） 教育課程の編成に関する事項
- （3） 学術研究の推進に関する事項
- （4） 学生の資格認定および身分に関する事項
- （5） 学生の厚生補導および賞罰に関する事項
- （6） 学則その他重要な規則等の制定および改廃に関する事項

3 学長は、前項に規定する事項のうち特に必要と認める事項については、研究科教授会を招集し審議のうえ、決定する。

（招集及び議事）

第4条 研究科教授会は、学長が招集し議長となる。

- 2 学長支障あるときは、健康情報学研究科長（以下「研究科長」という。）がこれを代行する。
- 3 学長が適当であると認めるときは、事案の概要を書面又は電磁的方法をもって研究科教授会構成員に送付し、その意見を徴することができる。

（開催）

第5条 研究科教授会は、原則として毎月1回開催する。

- 2 前項にかかわらず、学長が必要と認めるとき、または構成員の3分の1以上の要求があったとき、学長はすみやかに研究科教授会を招集する。

（議事録）

第6条 研究科教授会の議事は議事録に記載するものとする。

(事務)

第7条 研究科教授会に関する事務は、教学部が行う。

(改廃)

第8条 この規程の改廃については、研究科教授会の議を経て、学長が決定するものとする。

附則

この規程は令和7年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

(名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科健康情報学専攻)

目次

1. 設置の趣旨及び必要性.....	2
2. 修士課程までの構想か、又は博士課程の設置を目指した構想か.....	5
3. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称.....	5
4. 教育課程の編成の考え方及び特色.....	6
5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件.....	7
6. 基礎となる学部との関係.....	10
7. 取得可能な資格	10
8. 入学者選抜の概要.....	11
9. 教育研究実施組織の編成の考え方及び特色.....	13
10. 研究の実施についての考え方、体制、取組.....	14
11. 施設・設備等の整備計画.....	14
12. 管理運営	15
13. 自己点検・評価	16
14. 認証評価	17
15. 情報の公表	17
16. 教育内容等の改善のための組織的な研究等.....	18

1. 設置の趣旨及び必要性

(1)設置の趣旨

名古屋文理大学（以下、「本学」という。）は「自由と責任を重んじ、学問を通して知識・技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。」を立学の精神として平成 11（1999）年に開学し、現在は健康生活学部と情報メディア学部を有し、「食と栄養と情報」の分野で、立学の精神を受け継いだ教育・研究を行っている。

健康生活学部と情報メディア学部の 2 学部は、同じキャンパス内で相互に交流しながら運営されており、教育課程の面でも、各学部の専門科目を除く基礎教育科目の多くを全学共通の科目としている。特に、名古屋文理大学「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」は全学部で共通の必修科目として構成され、令和 3（2021）年には、この全学共通プログラムが文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されている。

また、本学は「食」と「栄養」と「情報」の分野に専門知識と技能をもつ人材を多数送り出すと同時に、学内に地域連携センター、基礎教育センター、図書情報センター、食と栄養研究所を設置・運営して、地域に根ざした実践的な教育・研究活動によって地域に貢献する高等教育機関としての役割を担っている。また、令和 6 年度には本学の所在地である稲沢市にある高齢者に対する医療的知識や専門職を有する稲沢市民病院とお互いの専門性を活かした教育連携を予定している。

近年、データサイエンティスト・AI 人材など、Society5.0 に向けて「情報科学」に根ざした高度情報人材の育成が求められると同時に、愛知県を含む東海圏でも少子高齢化が進んでおり、人々の健康寿命の維持に向けた高度な栄養管理、そして持続可能なビジネスモデルを含む高度な食環境の実現のために、データサイエンスや AI を応用した科学的で新しい「健康科学」が必要となっている。

そのため、これまでの「食と栄養と情報」の教育に根ざし、「健康情報学」の発展を通して地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育の能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的をした、大学院「健康情報学研究科」修士課程の設置を目指している。

(2)設置の必要性

経済産業省が 2019 年に行った IT 人材需給に関する調査では、「2030 年に IT 人材が 45 万人不足する」という試算が出されている。特に、高度な先端 IT 人材や AI 人材が大幅に不足すると予測されており、先端 IT 人材 27 万人、AI 人材 12 万人不足との試算も出されている。また、数理・データサイエンス・AI、さらには情報メディア技術による高度なデジタルコミュニケーションの可能性が広がる中、我が国では、国家戦略として様々な重点施策が進

められている。第6期の科学技術基本計画においては、第5期に引き続き、我が国が目指す社会として Society5.0 が掲げられ、それは AI や IoT・ロボットなどを活用して、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合するものである。さらに統合イノベーション戦略推進会議で策定された AI 戦略 2019 では、「人・産業・地域・政府全てに AI」を適切に活用することがうたわれており、そのために数理・データサイエンス・AI 教育の強化、情報技術の進歩と応用をさらに高度で適切なものとするべく、IT 人材育成が求められている。特に健康社会を実現するのに不可欠な医療・福祉・食品産業の現場では DX の推進ができる人材が求められている。

また、少子高齢化の進展は労働人口の減少と経済的低迷を招来し、健康医療福祉分野においては国民一人ひとりの財政負担の増大や医療福祉を担う人材不足など、深刻な影響が出始めている。健康で活力ある地域社会を維持するという観点からは、一次予防の重要性がこれまで以上に高まっている。現在及び将来にわたって活力ある健康長寿社会を実現するためには、情報技術をはじめとする様々な技術や健康科学の知見を駆使して健康医療福祉に係る業務の負担を軽減し、効率的に受益者のニーズに応える必要がある。

情報科学の技術だけでも健康科学の知識だけでもなく、情報技術と健康科学の素養を併せ持ち、地域社会における健康・福祉・医療の問題の解決にあたることのできる人材、そのような意味での高度情報人材が求められており、「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することが地域社会に貢献できることから本研究科を計画した。

(3) 大学院修士課程の教育研究上の目的

・教育研究上の目的

健康情報学研究科（以下、「本研究科」という。）では「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的とする。

・養成する人材像

高齢化の進展により一次予防の重要性が高まっており、情報技術をはじめとする様々な技術を駆使して活力ある健康長寿社会を実現するために、健康科学と情報科学の素養を併せ持った高度情報人材が求められている。

本研究科では「情報科学」の知識を「健康科学」に応用し、また、「情報」の技術を活用して地域の「健康」増進に貢献する、「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成する。

・ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

健康情報学研究科では、「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成するという目的を踏まえて、基準となる単位を修得することにより、以下に示す資質・能力を身につけ、学位論文の審査に合格した者には修了を認定し、修士（健康情報学）の学位を授与

する。

1. 地域社会における健康分野の諸課題に対して、高度な情報科学の知識・技術を応用することができる。
2. 地域社会における健康分野の諸課題に対して、高度な専門的知見から解決策を導き、研究成果をもって社会に発表し貢献することができる。
3. 地域社会における健康分野の諸課題に対して、自ら主体的に課題を発見し、関連する分野の専門家と協力して問題解決をはかることができる。
4. 地域社会における健康分野の諸課題に対して、積極的に課題に取り組み、高度な情報科学の知識・技術を応用し、意欲的に問題解決をはかる態度を身につけている。

・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科ではディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するために、次のようにカリキュラムを編成する。

1. 健康情報学分野では地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有するために必要な知識と能力を身につけるため、すべての科目を主要授業科目とし必修科目として配置する。
2. 健康科学分野、情報科学分野及び総合分野においてはそれぞれの専門的な理論と知識を修得するため、学生の研究計画に照らし合わせ、各分野の必要要件を満たして選択できるように配置する。
3. 研究指導科目では健康科学と情報科学のそれぞれの領域において修得した理論と知識を基盤とし科学的研究方法と研究姿勢及び研究課題の解決に応用する力を修得できるようにすべての科目を必修科目として配置する。

・アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本研究科では、次のような人を求める。

1. 「情報科学」に関する基礎的な学力・技術・知識がある。
2. 人間の持続的な「健康」の維持への興味・関心がある。
3. 自らが主体的に問題を発見し、課題を解決する意欲がある。

上記のディプロマ・ポリシーを達成するために、カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーを定めるとともに、養成する人材像を含めて相互に関連する一貫した教育体制を構築する。

【資料 1：3 ポリシーと育成する人材像との関連】

(4) 修了後の進路や人材需要の見通し

地域の「健康」増進に貢献する健康を応用分野とする高度情報人材の育成を目指しており、

修了後は情報技術者やデータサイエンティスト、健康・医療・分析機関の IT エンジニア、食品・健康産業の DX 推進担当など医療・福祉・食品・情報産業で活躍できると期待している。また、本学をはじめとした大学教員や研究者を目指す学生もいると期待している。

また、企業の採用ニーズ調査からも修了後の人材需要はあることが確認できた。

【資料 2：出口ニーズ調査資料】

2. 修士課程までの構想か、又は博士課程の設置を目指した構想か

本研究科は、「健康情報学」の発展を通して地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的としている。目的を実現するため、当面は修士課程において、健康を応用分野とする高度情報人材の育成を実現することを目指す。

博士課程の設置については、現時点では目指していないが、今後の「健康情報学」分野の教育研究に対する社会ニーズのさらなる高度化や、修士課程教育の内容に対するニーズの高度化及び多様化の進展状況、修了生が社会で求められるスキルのさらなる高度化の状況や学生の要望、地域社会の要請等を見極め、必要性が高いと認められれば、博士課程の可能性を検討したい。

3. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

(1) 大学院の名称

本大学院は名古屋文理大学に設置するものであることから、名称を名古屋文理大学大学院とする。なお、大学院名称の英訳は、「Nagoya Bunri University Graduate School」とする。

(2) 研究科及び専攻の名称

本研究科及び専攻は情報科学分野と健康科学分野のそれぞれの領域において専門的な知識を修得し、これらを基盤とすることから名称を「健康情報学研究科健康情報学専攻」とする。

研究科名：健康情報学研究科 (Graduate School of Health Informatics)

専攻名：健康情報学専攻 (Master Course of Health Informatics)

(3) 学位の名称

授与する学位の名称は修士（健康情報学）とし英訳は Master of Health Informatics と

する。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

本研究科では「新時代の大学院教育－国際的に魅力のある大学院教育の構築に向けて－」（平成17年9月5日 中央教育審議会答申）を踏まえ、高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成に焦点をあて、養成する人材像やディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程を編成する。

(1) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科ではディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するために、次のようにカリキュラムを編成する。

1. 健康情報学分野では地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有するために必要な知識と能力を身につけるため、すべての科目を主要授業科目とし必修科目として配置する。
2. 健康科学分野、情報科学分野及び総合分野においてはそれぞれの専門的な理論と知識を修得するため、学生の研究計画に照らし合わせ、各分野の必要要件を満たして選択できるように配置する。
3. 研究指導科目では健康科学と情報科学のそれぞれの領域において修得した理論と知識を基盤とし科学的研究方法と研究姿勢及び研究課題の解決に応用する力を修得できるようにすべての科目を必修科目として配置する。

(2) 教育課程の編成の特色

本研究科は、高齢化の進展により一次予防の重要性が高まっている現在において、情報技術をはじめとする様々な技術を駆使して活力ある健康長寿社会を実現するために、健康科学と情報科学の素養を併せ持ち、地域社会における健康分野の諸課題の解決にあたることのできる高度情報人材を育成することを目的とした科目を配置する。

また、フードビジネスに関する知見や健康社会の実現には健康がどのようにイメージされているか把握するための哲学分野の科目など、情報科学の健康分野への具体的な応用の道筋が描けるように科目を配置している。

「健康情報学分野」

地域社会の健康課題を情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有するために必要な知識と能力を身につけるために「健康情報学」2単位、「健康データサイエンス」2単位、「健康情報産業論」2単位の3科目を配置し、すべての科目を主要授業科目とし必

修科目としている。

「健康科学分野、情報科学分野、総合分野」

健康科学分野、情報科学分野及び総合分野においてはそれぞれの専門的な理論と知識を修得するため、以下の科目を選択必修科目として配置する。

- ・健康科学分野（以下の4科目うち2科目4単位以上の単位修得が必要。）
「食生活と栄養」2単位、「地域医療と健康管理」2単位、「身体運動と健康」2単位、「健康心理学」2単位。
- ・情報科学分野（以下の4科目うち2科目4単位以上の単位修得が必要。）
「プログラミングと応用」2単位、「情報メディアとシステム技術」2単位、「人工知能特論」2単位、「情報教育特論」2単位。
- ・総合分野（以下の5科目うち2科目4単位以上の単位修得が必要。）
「専門社会調査演習」2単位、「質的調査演習」2単位、「健康データ解析演習」2単位、「メディア文化と表現」2単位、「モデル化とシミュレーション」2単位。

「研究指導科目」

研究指導科目では健康科学と情報科学のそれぞれの領域において修得した理論と知識を基盤とし科学的研究方法と研究姿勢を修得できるよう以下の科目を必修科目として配置し、研究指導教員の指導に基づき、修士論文の作成を行う。

「知的財産権と研究倫理」2単位、「科学論文作成法」2単位、「健康情報学演習1」2単位、「健康情報学演習2」2単位、「健康情報学演習3」2単位、「健康情報学演習4」2単位。

【資料3：授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との対応表】

5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

(1)教育方法

本研究科では「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究の目的としている

そのために必要な知識と能力を身につけるため、主要授業科目として健康情報学分野の「健康情報学」「健康データサイエンス」「健康情報産業論」を必修科目として配置している。

また、健康科学分野、情報科学分野、それぞれの領域において専門的な理論と知識を、研究指導科目である「健康情報学演習」を通じて科学的研究方法と研究姿勢を修得し、同時に

コミュニケーション力と実践力を身につけ、学生自身のキャリア形成に繋がるよう支援する。

(2)履修指導

履修指導については、入学後の履修ガイダンスを経て、研究指導教員の指導のもと学生の個々の関心やこれまでの経験、修了後の進路等を踏まえて、履修科目を決定する。

また、学生の個別な事情（職業を有している、育児介護の事情を有している等）により、標準年限を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を修了できる長期履修制度を導入する。

【資料4：時間割（案）】

【資料5：履修モデル（案）】

(3)研究指導の方法

本研究科では、研究指導のための授業科目として「健康情報学演習1」「健康情報学演習2」「健康情報学演習3」「健康情報学演習4」「知的財産権と研究倫理」「科学論文作成法」を配置し、研究指導教員による入学から修了までの継続的な研究指導体制を整える。さらに学生の研究計画に対応するため個別指導を中心として修士の学位にふさわしいレベルの論文を作成できるように研究指導を行う。

具体的には入学時に提出する研究計画書に基づき、研究指導教員による個別の履修相談を行ったうえで、地域の健康課題や問題意識を確認しながら研究の指導にあたる。

また、研究計画の進捗状況を確認するため、1年後期に中間発表会を課すことで複数の研究指導教員や学生との議論から研究の水準を高めていく。最終学年末には作成した修士論文について修士論文審査会にて発表する。

【研究指導スケジュール】

【1年前期】

学生は研究指導教員の資料に基づき、教員と面談を行い、研究指導教員希望票を提出し、研究科教授会の承認を経て、研究指導教員を決定する。

学生が研究したい課題を計画し研究指導教員に研究課題と研究計画を提出する。研究指導教員は、提出された研究課題と研究計画について、定期的に研究方法の基本的事項についての助言を行い、研究計画書の作成方法等を指導する。

【1年後期】

学生が研究課題を明確化し研究計画書を提出できるよう研究指導教員は指導する。学生は、中間発表会において研究計画の進捗状況等の発表を行う。

指導教員は中間発表会の結果に基づいて研究計画の修正について指導を行う。

【2年前期】

学生は研究計画書を提出し、指導教員の指導・助言を受け研究計画の進捗状況の確認を行いながら研究を進めていく。

研究指導教員は、研究計画の進行を適時確認し、研究や論文作成の指導・助言を行う。

【2年後期】

学生は研究指導教員から必要な指導を受け修士論文をまとめ、修士論文審査会へ提出する。

学生は修士論文審査会において論文審査及び最終試験を受ける。

研究指導教員は研究結果の分析から研究成果を論理的かつ系統的に考察できるように指導するとともに、修士論文の提出に向けた論文作成、修士論文審査会における審査の指導を行う。

【資料6：研究指導スケジュール（案）】

(4) 論文審査体制

研究科運営委員会において学生の修士論文の審査を行い、委員のうちから主査1名、副査2名（以下、審査担当者という。）を配置する。なお、審査の厳格性の観点により、研究指導教員は主査を務めず、副査までとする。

また、審査担当者は学位申請された修士論文を「修士論文の審査基準」に基づいて各自が独立して審査し最終試験を実施する。審査担当者は、その評価結果を「学位論文審査報告書」にまとめ研究科運営委員会へ報告する。

審査の透明性を確保するために、研究科運営委員会は会議を開催し各審査担当者から報告された「学位論文審査報告書」について内容の確認・検討を行い取りまとめ、研究科教授会へ提出し、当該報告に基づき合格の可否を審議し、最終判定案を学長に報告する。

(5) 修士論文に関する審査基準

修士の学位を受ける者は、本研究科のディプロマ・ポリシーが求める学力、能力、資質を満たすものと認められる必要がある。

修士論文の審査基準の目安を以下のとおり定める。

- ・問題意識が明確で、テーマの選択が適切であり、社会的及び学術的な意義が認められる。
- ・研究方法が目的達成のために適切に行われ、データ・資料などを適切に収集・処理している。
- ・研究目的に沿った分析や結果を示している。
- ・必要な文献を用いて考察を深めて研究が行われている。
- ・論文構成が的確で、一貫性や論理性のある議論が展開されている。
- ・倫理的配慮を持って研究に臨んでいる。

(6) 成績評価

成績評価方法に関しては学生に対しその基準をシラバスに明示するとともに、初回の授業の際に説明を行う。

試験等の評価は100点を満点とし、90点以上を「A+」、80点以上90点未満を「A」、70点以上80点未満を「B」、60点以上70点未満を「C」、60点未満を「D」とし、C以上を合格とする。

(7) 修了要件

修士（健康情報学）の学位を受ける者は、ディプロマ・ポリシーに基づき、当該専門分野における学力、能力、資質を満たすと認められる必要がある。そのため、本研究科に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文についての審査及び最終試験に合格することにより修士（健康情報学）の学位を得ることができる。

6. 基礎となる学部との関係

本研究科は情報メディア学部と健康生活学部を基礎として設置するものである。2学部において、「食と栄養と情報」の分野で、立学の精神を受け継いだ教育・研究を行っている。また、地域に根ざした健康と食生活に貢献する管理栄養士、健康な生活に貢献する食品産業、そして情報技術を身につけたIT人材の育成に貢献してきた。

今回の研究科設置に関しては2学部を基礎に「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的としている。

【資料7：基礎となる学部との関係図】

7. 取得可能な資格

本研究科では、社会調査士の資格を有する者が、一般社団法人社会調査協会が認定する「専門社会調査演習」「質的調査演習」「健康データ解析演習」を履修し、社会調査データを用いた修士論文を公表し、修士課程を修了することにより専門社会調査士の資格を取得することができる。

専門社会調査士

- 1) 民間資格
- 2) 資格取得可能
- 3) 修了要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が修了の必須条件

ではない

8. 入学者選抜の概要

(1) 基本方針

本研究科は「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的としている。そのため、本研究科では教育研究の目的に沿った学生を受け入れるため、アドミッション・ポリシーを策定し、これに基づいて一般選抜試験、社会人選抜試験を行う。

(2) アドミッション・ポリシー

本研究科では、次のような人を求める。

1. 「情報科学」に関する基礎的な学力・技術・知識がある。
2. 人間の持続的な「健康」の維持への興味・関心がある。
3. 自らが主体的に問題を発見し、課題を解決する意欲がある。

(3) 出願要件

本大学院に出願できる者は以下の入学資格を満たす者又は満たす見込みの者である。

【入学資格】

本大学院に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 1) 大学を卒業した者
- 2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
- 3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
- 4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
- 5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- 6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国におい

て履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを
含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者

7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

8) 文部科学大臣の指定した者

9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であった、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者

10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

(4) 選抜試験の方法

選抜試験については、アドミッション・ポリシーに基づき、本研究科の教育を受けるにふさわしい能力と適性を備えた人物であるかを合理的に判断するために以下の試験を行う。

【一般選抜試験】

- ・ 学力試験：英語及び専門科目(健康科学分野及び情報分野より出題)
学力試験にてアドミッション・ポリシー1・3を判断する。
- ・ 面接(口述試験) 面接にてアドミッション・ポリシー1・2・3を判断する。

【社会人選抜試験】

- ・ 小論文 小論文にてアドミッション・ポリシー1・3を判断する。
- ・ 面接(口述試験) 面接にてアドミッション・ポリシー1・2・3を判断する。

受験者には、入学願書に卒業校の成績証明書、研究計画書、卒業研究の趣旨もしくは既発表論文を添付させる。これらの提出書類は、面接試験を実施するうえでの参考書類とする。

(5) 選抜試験の判定方針

選抜試験は、アドミッション・ポリシーを有している人物であることを学力試験(社会人選抜は小論文)、面接(口述試験)及び提出書類により判定する。

(6) 入学者選抜体制

入学者選抜試験に関しては、研究科長を委員長とする研究科運営委員会にて審議を行う。

9. 教育研究実施組織の編制の考え方及び特色

(1) 教育編成組織の考え方

本研究科では、「情報科学」の知識を「健康科学」に応用し、情報の技術を活用し地域の健康増進に寄与する「健康を応用分野とする高度情報人材」の育成を目指しており、「情報科学」並びに「健康科学」の教育研究業績を有する教員あるいは育成に意欲的な教育研究業績を有する教員を配置している。開設時は、教授 6 名、准教授 1 名の合計 7 名の専任教員で構成する。

(2) 教員配置の適正化

大学院教育の専門性の基礎となる『健康情報学分野』科目には、本学の教授の職位にある専任教員を配置している。また、研究指導科目には修士論文作成の研究指導ができる大学院設置基準第 9 条 1 項を満たす教授あるいは准教授を配置する。大学院を担当する全専任教員は学部教育も行っており、学部教育と大学院教育で担当する仕事量を勘案し、可能な限り学部教育の負担を最小限に抑えるよう対応する。

(3) 教員組織と年齢構成

本研究科の専任教員は 7 名であり、内訳は教授 6 名、准教授 1 名である。専任教員全員が博士の学位を有する。

完成年度末の専任教員の年齢構成は 65～70 歳 1 名、60～64 歳 4 名、50 歳代 1 名、30 歳代 1 名である。

また、教員の定年は「滝川学園就業規則」第 12 条第 1 項において、満 60 歳に達した年の年度末をもって退職すると定めているが、同規則第 12 条第 1 項及び同条第 3 項により 65 歳もしくは 70 歳まで継続雇用を可能としている。さらに、職務の特殊性や職務遂行上の特別の理由から、同規則を令和 6 年 4 月 1 日に次のとおり改正する。同規則に「学長の職にある者は、定年年齢を定めず、学長の任期によるものとする」並びに「学校、学部、学科等を設置する際に任用する教員が、定年年齢を超えているとき、又は設置が完了する前に定年年齢を超えるときは当該の学校、学部、学科等の設置が完了する年度末を限度として契約により在職させることができる」旨の条文を追加し、設置時点の教員組織が完成年度末まで維持されるが、完成年度以降についても研究業績や研究指導実績のほかに年齢構成を踏まえた教員採用計画を策定し、教育研究体制の継続的な向上を図る。

教員採用計画は以下のとおりである。

令和 9 年度末に教授 1 名が 70 歳に達し退職するため、専門領域において研究指導のできる 60 歳未満の教員を公募により採用する計画である。さらに令和 14 年度末にも教授 2 名が 70 歳に達し退職するため、同様に専門領域において研究指導のできる 60 歳未満の教員を公募により採用する計画である。

採用予定年度	採用予定者数
令和 10 年度	1 名
令和 15 年度	2 名

【資料 8：滝川学園就業規則(抜粋)】

10. 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学では全専任教員に対して研究室が用意されており、研究に取り組む環境が整っている。また、週 1 日は「研究日」が設定されている。各教員は、「教員の研究活動について(申合せ)」に基づき、前年度 11 月に「研究/研修実施計画書」及び「研究/研修予算申請書」を提出することにより、個人研究/研修予算が提供されることとなっている。また、当該年度末には、「研究/研修結果報告書」を提出することにより、年度内の研究成果報告を行っている。研究活動として、教授、准教授、助教には「教員の研究活動について(申合せ)」に基づいて、個人研究費を配分している。

食と栄養研究所では、嘱託職員 1 名を配置し研究の活性化のため企業、団体が主催する外部研究資金の公募情報をメールにて配信するとともに、外部資金に応募した教員には採択の可否に関わらず研究経費の追加配分を行い研究活動について支援している。

本大学院においても同様の支援を行っていく。

11. 施設・設備等の整備計画

本学では平成 11 (1999) 年度の開学以来、教育研究の施設の整備を積極的に行っており、教育研究のために必要な校地、運動場、校舎等は十分に整備されている。

学内には無線 LAN のアクセスポイントを各所に設置し、IT 環境も整備されている。

設置する大学院については、既存の校地、校舎等を有効に活用することとしている。

(1)校地、運動場の整備計画

本学は愛知県西部に位置する稲沢市にあり、名鉄国府宮駅から徒歩 15 分の所にある。キャンパス周辺は閑静な住宅地や公園、美術館があり研究に集中できる環境である。校舎敷地の面積は 25,250 m²あり、教育・研究のための校舎敷地は十分に確保されている。運動用設備として運動場、体育館があり、授業及び学生の課外活動を中心に利用している。また、学生が交流、休息等に利用するのに適切な空地がある。

(2)校舎等の整備計画

本学の施設は本館、北館、FLOS 館、図書館、体育館が配置されている。校舎の総面積は 16,559 m²あり、教育研究に必要となる教室の内訳は、講義室 20 室、演習室 25 室、実験実習室 34 室である。

大学院においては学部の既存校舎を有効的に活用するが、収容定員 10 名分の大学院生共同研究室を 1 室 (63 m²) 整備する。共同研究室には机、椅子、ロッカー等を配備し、学修環境の充実を図っていく。

大学院の授業で使用する講義室、演習室については学部と共有になるが、十分に確保されており、学部と重複しないよう時間割を作成する。

【資料 9：大学院生共同研究室図面】

(3)図書館の整備計画

本学の図書館は 1974.65 m²の面積を持ち、閲覧座席 143 席、収容可能冊数 91,000 冊となっている。図書は 79,214 冊、学術雑誌 (電子ジャーナル含む) 235 種、視聴覚資料 1,195 点を所蔵している。蔵書は図書館システムより Web 上から蔵書検索や貸出予約等を行うことができる。

また、ラーニングコモンズとして利用できるグループ閲覧室では移動可能な机を配備し人数や目的に合ったレイアウトができ、学生が活発にグループディスカッションやグループワークができるように整備されている。

今回の大学院設置に当たってはこれまで整備してきた図書等を有効的に共有していくとともに研究を行うために必要な図書 75 冊を整備する計画である。

【資料 10：学術雑誌一覧】

【資料 11：購入図書一覧】

12. 管理運営

本大学院には、健康情報学研究科教授会 (以下、「研究科教授会」という。) を置き、研究科の教育・研究に関する事項を審議する。また、研究科教授会の下に、研究科運営委員会を設置する。

(1)研究科教授会

「研究科教授会」は、健康情報学研究科に所属する専任教員をもって構成し、原則として月 1 回開催し、以下の事項等を審議する。

- 1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

- 2) 学位の授与に関する事項
- 3) 教育研究の基本方針に関する事項
- 4) 教育課程の編成に関する事項
- 5) 学術研究の推進に関する事項
- 6) 学生の資格認定及び身分に関する事項
- 7) 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- 8) 学則その他重要な規則等の制定及び改廃に関する事項

【資料 12：名古屋文理大学大学院教授会規程(案)】

(2) 研究科教授会の下部組織としての各種委員会

本研究科の専任教員のすべてが情報メディア学部及び健康生活学部の専任であることから、教員の委員会活動における負担軽減と学部との機能的な連携を図るために、学部に設置されている委員会と大学院の各種委員会で共有して活動できるものは共有することとする。ただし、研究科特有の事項を効率的に審議・運営するために、学部とは別途に研究科運営委員会を研究科教授会の下に置くものとする。

研究科運営委員会では以下事項等を審議する。

- 1) 研究科の教育課程に関する事項
- 2) 研究科の学位審査、学位授与に関する事項
- 3) 研究科の入学に関する事項

13. 自己点検・評価

本学では、「名古屋文理大学 自己点検評価規程」を定め、その第 1 条において「教育研究水準の向上と活性化を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、名古屋文理大学学則第 3 条第 1 項の規定に基づき、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行う。」及び第 1 条の 2 において「この規程は、本学の自己点検評価制度についての必要事項を定める」と定め、毎年度の自己点検・評価活動に全学的に取り組んでいる。

内部質保証のための組織として、学長の下に「自己点検評価委員会」を設置している。

「自己点検評価委員会」は学長を委員長とし、副学長、学部長、教学部長、学科長、附属センター長、事務局長、事務部長、その他学長が必要と認めた者で構成されており、「学部長・部長会」のメンバーと重なる。大学全体及び学部・学科、各部署での項目について「自己点検評価委員会」において審議検討し、自己点検・評価結果を得ており、その都度、「教授会」に報告されている。重要な改善点等があれば「学園会議」に諮り、最終的に「理事会」において審議し大学の方針を決定している。

認証評価機関(公益財団法人 日本高等教育評価機構)による大学評価基準に準拠した毎年度の「自己点検評価書」の作成、及び中期計画「BSP-15」の項目に基づく自己点検評価を実施することにより改善に繋げている。

大学院においても、以上の既存取組に従い、上記メンバーに研究科長を加え、自己点検・評価を行う。

【資料 13：令和 4 年度自己点検評価書】

14. 認証評価

本学は、公益財団法人 日本高等教育評価機構に加盟しており、令和 3 年度大学機関別認証評価の結果、大学評価基準に適合していると認定されている。大学院においても認証評価は、教育・研究等の質的水準の向上を図るための方向性や管理・運営面での改善等に取り組む貴重な機会であると捉えており、今後も継続的な受審を予定している。

15. 情報の公表

学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づいて、本学では、教職員及び学生の個人情報の保護に配慮しながら、大学の概要、教育研究活動の情報、学修上の情報、自己点検・評価報告書等を含むその他の情報を本学ホームページで積極的に公開している。

大学院設置に当たり、学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づいて、以下のような情報の公表を予定している。

ホームページでの情報公開

(ホームページアドレス：<https://www.nagoya-bunri.ac.jp/about/information/>)

- 1) 本大学院研究科の理念・目的・目標等に関すること
- 2) 大学院の教育研究上の基本組織に関すること
- 3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- 4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- 5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- 6) 学修の成果に係る評価及び修了の認定に当たっての基準に関すること
- 7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- 8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- 9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- 10) 学位論文に係わる評価にあたっての基準
- 11) その他の情報
学則、財務情報、事業計画・事業報告、自己点検評価書、設置認可申請書

16. 教育内容等の改善のための組織的な研究等

教育内容等の改善のための FD 活動は、「自己点検評価委員会」「学科教員会議」「教務委員会」「授業評価委員会」を中心に取り組んでおり、主な取り組みとして、毎年夏に行われる法人全体での「夏期拡大 FD・SD」、3月の大学での「FD・SD フォーラム」がある。また、「学科教員会議」及び「教務委員会」による継続的なカリキュラムの点検とシラバスの改善、「授業評価委員会」が中心になって実施している授業評価アンケートの活用がある。

夏期に法人全体で行われる「夏期拡大 FD・SD」では、教員・職員が協働して全学的な問題を検討する機会を持っている。また、大学の「FD・SD フォーラム」は、「自己点検評価委員会」が企画し、毎年3月に実施しており、教員全員参加となっている。

【資料 14：令和2年度～令和5年度の FD・SD 実施状況】

授業評価アンケートの実施は、学生から客観的に評価された結果をもとに授業の改善、教育内容の点検を行い、教育の改善に結びつけるのが目的である。授業評価アンケートは、「卒業演習」等の演習系科目を除く、すべての講義と実験実習で実施している。

授業評価アンケートの基礎集計作業、及び学生による自由記述一覧の作成作業は第三者に委託して一括して行われ、その結果が授業担当教員にフィードバックされる。それに基づいて、授業担当教員は結果の総括と、具体的な授業改善策の提案を含め、どのように授業改善に生かしていくかを検討し「総括と意見」を作成する。教員の「総括と意見」の記述項目は、次の3項目である。

「担当教員による総括と意見、担当科目間での比較検討」

「授業内容の向上・改善のために行っている具体的な方策とその効果」

「次年度の授業の目標、及び授業内容の向上のために実施予定の方策」

各科目の基礎集計表及び「総括と意見」をまとめ、学期ごとに「授業評価アンケート結果報告書」を作成し学内で公開しているとともに、その要約を大学の Web サイトに掲載している。

大学院においても、以上の既存取組に従い、FD 活動を実施する。

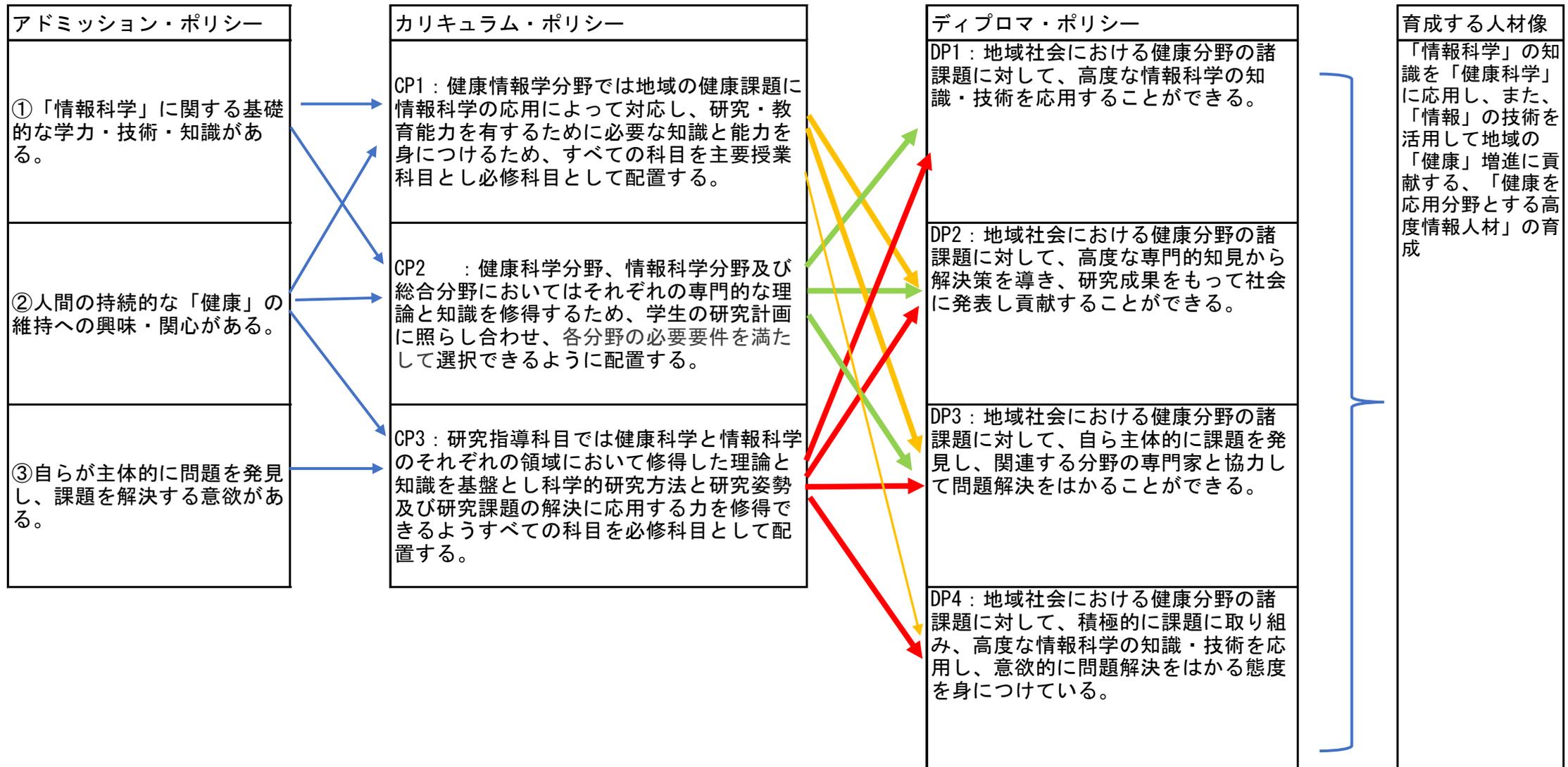
設置の趣旨等を記載した書類

(名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科健康情報学専攻)

資料目次

資料 1 : 3 ポリシーと育成する人材像との関連	2
資料 2 : 出口ニーズ調査資料	3
資料 3 : 授業科目とディプロマ・ポリシー (学位授与方針) との対応表	24
資料 4 : 時間割 (案)	25
資料 5 : 履修モデル (案)	27
資料 6 : 研究指導スケジュール (案)	29
資料 7 : 基礎となる学部との関係図	30
資料 8 : 滝川学園就業規則 (抜粋)	31
資料 9 : 大学院共同研究室図面	33
資料 10 : 学術雑誌一覧	34
資料 11 : 購入図書一覧	39
資料 12 : 名古屋文理大学大学院教授会規程 (案)	41
資料 13 : 令和 4 年度自己点検評価報告書	43
資料 14 : 令和 2 年度～令和 5 年度の FD・SD 実施状況	50

【資料1】 3つのポリシーと育成する人材像との関連



【資料2】

名古屋文理大学 大学院
健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）
設置構想についてのアンケート調査
【人材需要アンケート調査】
報告書

令和6年2月23日

株式会社高等教育総合研究所

目次

1.	調査の概要	2
2.	集計結果	3
3.	集計結果のポイント	8
4.	集計結果の分析	12
	添付資料	13
	名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）	
	・ 概要説明リーフレット	
	・ 人材需要アンケート調査用紙	
	・ 人材需要アンケート調査 WEB フォーム	

1. 調査の概要

調査目的	本調査は、名古屋文理大学が2025（令和7）年4月に設置構想中の「大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）」（以下、当該研究科と記す）における人材需要の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	当該研究科の修了生の採用が期待される愛知県を中心とした企業・団体等の計1,098件を対象とした。
調査内容	<ul style="list-style-type: none">● 問1～3：回答企業・団体等の基本情報（所在地、業種、従業員数）● 問4：当該研究科に対する社会的ニーズ● 問5：当該研究科の修了生に対する採用の意向● 問6：採用可能人数（単年度）● 問7：自由記述 以上、選択肢式の間1～6と自由記述の間7からなる。 （最後に、企業・団体等の名称を問うているが、これは省略する）
調査時期	2024（令和6）年1月～2024（令和6）年2月
調査方法	調査対象先の人事・採用担当者宛に依頼状、概要説明リーフレット、アンケート調査用紙1部、返送用封筒を送付した。ご協力いただける場合は、アンケート調査用紙またはWEBフォームにより回答を得た。
回収件数	有効回答数 149件（回収率13.6%）
調査結果	採用意向：「採用したい」36件（24.2%）、「採用を検討したい」92件（61.7%） 採用可能人数（単年度）：127人

2. 集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。そのため必ずしも 100.0%と一致しない。

問1 貴社の業種についてお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

No	選択項目	回答数	構成比
1	情報・通信業	20	13.4%
2	放送、新聞、出版業	0	0.0%
3	広告業・広告代理業	0	0.0%
4	製造業	23	15.4%
5	飲食業・宿泊業	0	0.0%
6	医療・福祉	20	13.4%
7	サービス業	16	10.7%
8	農・林・漁・鉱業	1	0.7%
9	卸売・小売業	20	13.4%
10	金融業、保険業	1	0.7%
11	電気、ガス、熱供給、水道業	0	0.0%
12	建設業	16	10.7%
13	不動産業、賃貸業	0	0.0%
14	運輸業	8	5.4%
15	官公庁・自治体・公共団体	11	7.4%
16	学校・学習支援業	4	2.7%
17	その他	7	4.7%
	無回答・無効回答	2	1.3%
合計		149	100.0%

問2 貴社の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

No	選択項目	回答数	構成比
1	北海道	0	0.0%
2	青森県	0	0.0%
3	岩手県	0	0.0%
4	宮城県	0	0.0%
5	秋田県	1	0.7%
6	山形県	0	0.0%
7	福島県	0	0.0%
8	茨城県	0	0.0%
9	栃木県	0	0.0%
10	群馬県	0	0.0%
11	埼玉県	0	0.0%
12	千葉県	0	0.0%
13	東京都	3	2.0%
14	神奈川県	0	0.0%
15	新潟県	0	0.0%
16	富山県	0	0.0%

17	石川県	0	0.0%
18	福井県	0	0.0%
19	山梨県	0	0.0%
20	長野県	0	0.0%
21	岐阜県	18	12.1%
22	静岡県	0	0.0%
23	愛知県	109	73.2%
24	三重県	17	11.4%
25	滋賀県	0	0.0%
26	京都府	0	0.0%
27	大阪府	0	0.0%
28	兵庫県	0	0.0%
29	奈良県	0	0.0%
30	和歌山県	0	0.0%
31	鳥取県	0	0.0%
32	島根県	0	0.0%
33	岡山県	0	0.0%
34	広島県	0	0.0%
35	山口県	0	0.0%
36	徳島県	0	0.0%
37	香川県	0	0.0%
38	愛媛県	0	0.0%
39	高知県	0	0.0%
40	福岡県	0	0.0%
41	佐賀県	0	0.0%
42	長崎県	0	0.0%
43	熊本県	0	0.0%
44	大分県	0	0.0%
45	宮崎県	0	0.0%
46	鹿児島県	0	0.0%
47	沖縄県	0	0.0%
	無効回答	1	0.0%
合計		149	100%

問3 貴社の従業員数（正規社員数）についてお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	50人未満	42	28.2%
2	50～99人	25	16.8%
3	100～299人	41	27.5%
4	300～499人	17	11.4%
5	500～999人	12	8.1%

6	1000～2999 人	7	4.7%
7	3000～4999 人	0	0.0%
8	5000 人以上	4	2.7%
	無効回答	1	0.7%
合計		149	100%

問 4 2025 年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」（修士課程）（仮称）が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われるか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	ニーズは高い	24	16.1%
2	ニーズはある程度高い	102	68.5%
3	ニーズはあまりない	15	10.1%
4	ニーズはない	5	3.4%
	無効回答	3	2.0%
合計		149	100%

問 5 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」（修士課程）（仮称）を修了した学生を採用したいと思いませんか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	36	24.2%
2	採用を検討したい	92	61.7%
3	採用しない	19	12.8%
	無効回答	2	1.3%
合計		149	100%

※問 6 は、問 5 で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」と回答した 128 件が対象である。

問 6 単年度で採用可能と思われる人数は何人ですか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	1 人	35	27.3%
2	2 人	14	10.9%
3	3 人	7	5.5%
4	4 人	2	1.6%
5	5 人以上	7	5.5%
	無効回答	63	49.2%
合計		128	100%

問 7 2025 年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称)について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

長寿大国の日本において健康は切っても切り離せない要素だと思います。同時に少子高齢化が進み学生数が減少していく中で貴校の上記、学問を専攻する方は今後貴重な人材になるでしょう。弊社で活かせるかは別ですが
能動的、困難に立ち向かえる子を採用したいです。プログラミングを通じた論理的な思考が出来る子を求めます
SE,PG 募集のニーズが世の中で高まっております。
当社の事業とは関係性が低いと思う学科だと思います。
個人的な意見になりますが弊社は食品製造業のため、健康科学と情報科学について詳しい方がいたいただけるとより良い商品等の企画や開発ができそうだと思います
知的障害の方の高齢化に顕著になっており、その中で ICT を通じた健康管理が重要だと思います。ある程度理病状の状況を踏まえた研究をしていただけると助かります
知的障害者福祉関係の施設に就職を希望していただける学生さんがいるか不安
健康経営が注目される中、企業と健康の観点での研究に期待したい。
10～15 年後を見据えた医療を取り巻く諸問題と最近の知見に精通した方、開業医の役割の変化に対応できる方を育ててほしい。小規模事業所の裏方、経営戦略を任せられる方を育ててほしい
弊社は技術系アウトソーシング業を営んでおり、既に多くの貴学 OB の社員が現場で活躍しております。 今回新設を予定されている健康情報分野において、弊社でも学生の方に期待している①情報科学②持続的な健康③コミュニケーションと実践力を掲げられており、弊社での活躍を十分に計算で出来るものと確信しております。
健康に関する知識は、働く上で役立つため
社会的に健康に関するニーズは高まっており、企業としても健康に関する専門知識をもった学生には興味があります
食と健康とのつながり
弊社では身体を使う仕事や、拘束時間が長くなることがあるため、健康診断はもちろん毎年受けますが、それ以上に社員の健康について会社で何かしてあげられることがあれば実施していきたいと考えています。 貴学で学んだことを弊社や運送業界の発展のために知識をお借りしたいです。 また、情報・IT などに関しても今後の業界の発展のために必須な知識だと思います。 貴校の学生様が様々な業界で活躍されることを期待しています。
卒業した大学や学部にとらわれず、人柄や人間性に優れた人材を採用したいと考えています。
高齢社会となってきた世の中の中でどれだけ健康で長期間働けるかを考えそれを推奨していけるのか企業目線で考えられる人材は今後必要になると考えます。
衛生管理に関する知識を持った人材を期待する。
データサイエンティストとしての実績の中でも、医療系に特化していることの強みが活きていると魅力的。
弊社においては、情報科学分野であれば、機械を数値制御にて自動加工のためのプログラミングにて活躍できると期待しています。
障害者分野につきましては、「8050」もしくは「8060」という親と子の自宅での介護への課題があります。健康にその人らしい生活を親も子どもも営んでいくことが大切です。その中で「健康」に着目した目線での支援が必要になってくると考えています。
資格取得など、目指すものが具体的にあると、企業としては、採用に積極的になれると思います。

<p>金属製品の製造業を行っています 業界では少子化と高齢化が進んでいることで、労働人口の減少となっています。 製造業では、高齢者でも長く働くことのできる環境整備もなされていますが、健康であることが大切であると切に思います。我々製造業に向けても、どうすれば健康状態を維持し、長く働くことができるのかを浸透させるためにも同校のような学科、人材は必要とされるのではないかと考えます。ただ製造業においては、健康の専門場所となるとなかなか難しいので、他の業務をやりながら社内研修を行ったりとできればより需要が深まるのではないかと考えます</p>
<p>本園は保育士、幼稚園教諭免許が必要であるため、教職課程がある学校、専門学校あるいは、学部のある大学であることが必要です。</p>
<p>弊社事業とは健康という切り口では接点は薄いですが、今後、社会的に人的投資を拡大する中で、従業員の心身の健康を会社が把握するために種々データ活用していくことはスタンダードになっていくと考えられる。また、様々なデータを分析し、活用するスキルはどのような分野の事業でも必要とされていくと思うので、カリキュラムの中で、前提としてそのペースを学べる場所は、データドリブン人材の育成機能としておおいに期待している。</p>
<p>弊社では採用したいと考えても、学生の視点からは弊社が魅力的に映らないのではないかとと思う。また、弊社にとってその学問領域がどのように有益なのか、活用できるかが全く見当もつかない。</p>
<p>身体は資本と言われているように何をすることも心と身体のバランスが必要になってくると思われま す。色々な角度から物事を考え夢を実現していける様に学べる場所を提供してもらえ研究科を設ける事は未来の希望の裾野だと感じます。ぜひ明るい希望を持った学生を育てて社会の力になってもらえることを期待します。</p>
<p>弊社が健康寿命を伸ばすことを目的にしているため、期待値は高く 今後 HP 制作や、マーケティングを社内人材で行いたいと考えているため需要があると感じました。</p>
<p>正直に申し上げますと、弊社においては「健康」分野に関わる業務は現在はありません。そのため「情報」分野での期待値が大きくなると思います。</p>
<p>グローバルな潮流から 10 年程度のスパンでの国内外における生活志向、そこから求められる食品の面での健康機能性と、需給バランスから見た持続可能な食のビジネスモデル構築を研究、検証いただき、分析結果を開示いただきたく存じます。</p>
<p>必修科目にて、プログラミング等の情報科目を学ばれるとのことで、弊社業務に生きるのではないかと期待しております。</p>
<p>弊社が専門とする分野であるため、即戦力として期待いたします。</p>
<p>本校は商業実務の専修学校ですので、健康分野での採用は今のところございませんが、高等学校教員免許の情報等を取得されていれば採用させていただく可能性もあると思います。</p>
<p>健康情報は建設業とかけはなれているので、採用は結びつかない</p>

※原文ママ。「特になし」等は割愛した。

3. 集計結果のポイント

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。そのため必ずしも 100.0%と一致しない。

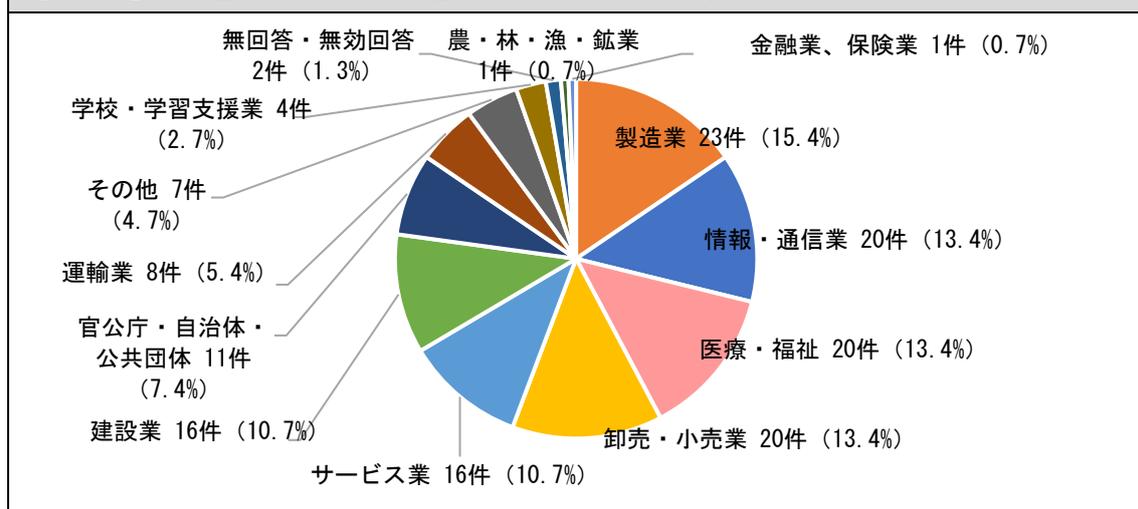
- 愛知県を所在地とする企業等が全体の 73.2%、岐阜県を所在地とする企業が全体の 12.1%、三重県を所在地とする企業が全体の 11.4%となった。

名古屋文理大学が 2025（令和 7）年 4 月に設置構想中の「大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）（仮称）」についての人材需要アンケート調査において、有効回答 149 件の集計を行った。

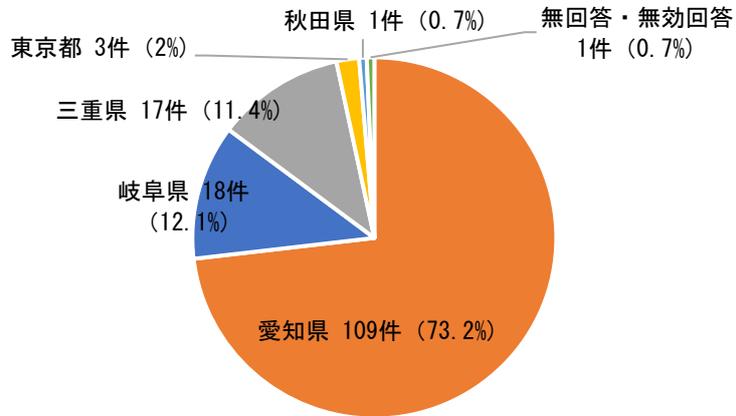
その結果、企業・団体等の所在地の内訳は、「愛知県」が 109 件（73.2%）、「岐阜県」が 18 件（12.1%）、三重県が 17 件（11.4%）となり、業種については、「製造業」が 23 件（15.4%）、情報・通信業、医療・福祉、卸売・小売業がいずれも 20 件（13.4%）であった。

また、従業員の人数については、回答の多い順に、「50 人未満」が 42 件（28.2%）、「100～299 人」が 41 件（27.5%）、「50～99 人」が 25 件（16.8%）、「300～499 人」が 12 件（8.1%）、「500～999 人」が 12 件（8.1%）、「1000～2999 人」が 7 件（4.7%）、「5000 人以上」が 4 件（2.7%）であった。

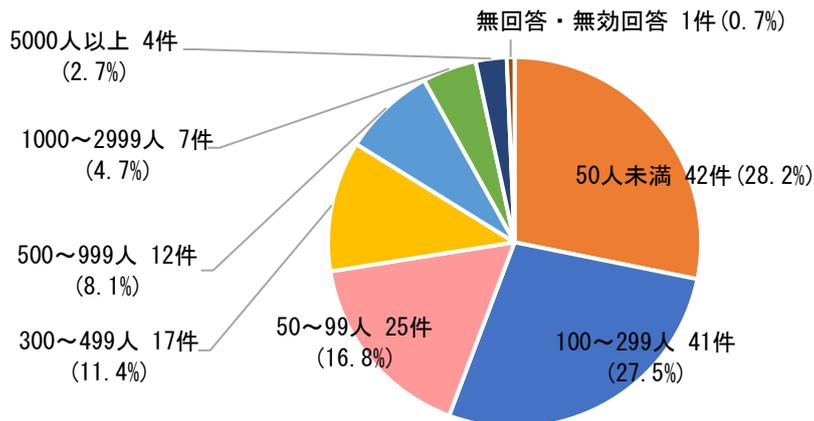
【グラフ】回答企業・団体等の業種について<問1の結果より>



【グラフ】 回答企業・団体等の所在地について<問2の結果より>



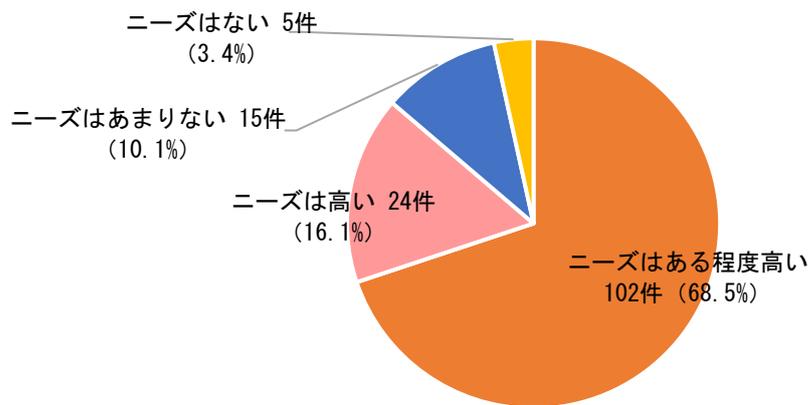
【グラフ】 回答企業・団体等の従業員数について<問3の結果より>



● 「ニーズは極めて高い」、「ニーズはある程度高い」との回答は、合計で全体の 8 割を超える結果となった。

当該研究科に対する社会的ニーズについての質問では、「ニーズは高い」が 24 件(16.1%)、「ニーズはある程度高い」が 102 件 (68.5%)、「ニーズはあまりない」が 15 件 (10.1%)、「ニーズはない」が 5 件 (3.4%) であった。

【グラフ】 当該研究科に対する社会的ニーズについて<問 4 の結果より>

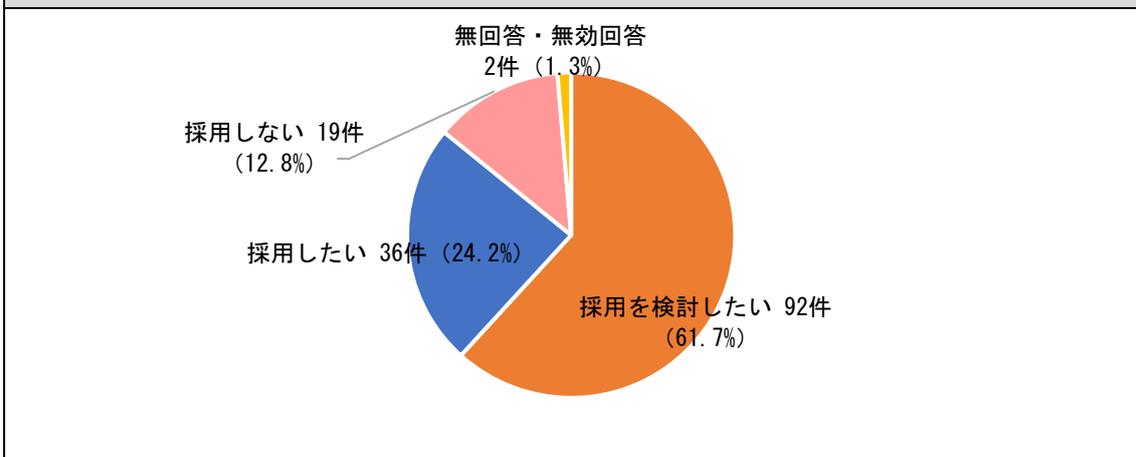


● 採用可能人数は、予定している入学定員 10 名を大幅に上回る 127 人であった。

当該研究科の修了生に対する採用の意向については、「採用したい」が 36 件 (24.2%)、「採用を検討したい」が 92 件 (61.7%) で、85%以上の企業・団体等が採用意欲を示す結果となった。

また、この 128 件の企業・団体等から示された具体的な採用可能人数 (単年度) は、「1 人」が 35 件 (27.3%) と最も多く、次いで「2 人」が 14 件 (10.9%)、「3 人」が 7 件 (5.5%)、「5 人以上」が 7 件 (5.5%)、「4 人」が 2 件 (1.6%) の順となっている。

【グラフ】当該研究科の修了生に対する採用の意向について<問 5 の結果より>



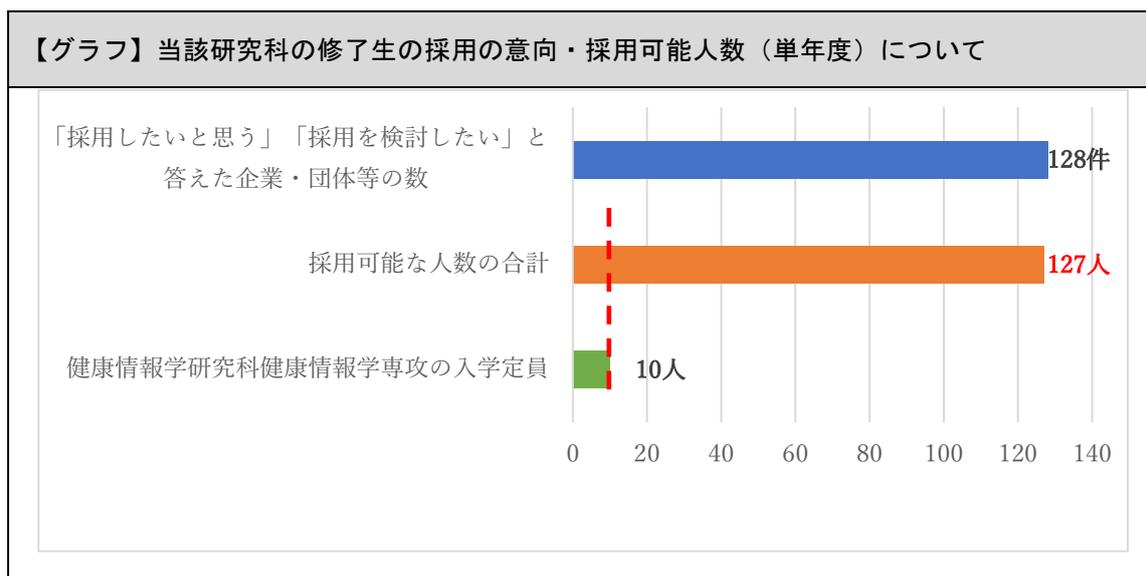
【表】採用可能人数 (単年度) について<問 6 の結果より>

No	選択項目		回答数	構成比
1	1 人		35	27.3%
2	2 人		14	10.9%
3	3 人		7	5.5%
4	4 人		2	1.6%
5	5 人以上	内訳	5 人 (2 件)	5.5%
			人数記載なし (※5 人と して計算) (5 件)	
	無回答・無効回答		63	49.2%
合計			128	100.0%

4. 集計結果の分析

当該研究科の修了生を「採用したいと思う」「採用を検討したい」と回答した企業・団体等 128 件（問 5）の単年度の採用可能人数（問 6）の結果は、以下の通りである。

【表】採用可能人数（単年度）について<問 6 の結果より>				
No	選択項目		回答数	採用可能人数 （単年度）
1	1 人		35	35 人
2	2 人		14	28 人
3	3 人		7	21 人
4	4 人		2	8 人
5	5 人以上	内 訳	5 人（2 件）	35 人
			無回答（※5 人として計算）（5 件）	
7	無効回答		63	0 人
合計			128	127 人



当該研究科の修了生を「採用したい」「採用を検討したい」と回答した企業・団体等の採用可能人数（単年度）が 127 人であった。これは、予定する入学定員の 10 人を大幅に上回る回答結果である。

以上より、名古屋文理大学が 2025（令和 7）年 4 月に設置構想中の「大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）（仮称）」の人材需要の見通しは問題なしと判断できる。

以上

添付資料

名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（仮称）

- ・ 概要説明リーフレット
- ・ 人材需要アンケート調査用紙
- ・ 人材需要アンケート調査 WEB フォーム

情報科学×健康科学——健康を応用分野とする高度情報人材を育成する



名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (仮称) (修士課程2年制)

名称	名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (仮称) (修士課程2年制)
開設時期	令和7 (2025) 年 4月
入学定員 (収容定員)	10名 (20名)
取得学位	修士 (健康情報学)
修業年限	2年
開設場所	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地

本研究科の特色

本研究科では、「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的としています。

そのために必要な知識と能力を身につけるための主要授業科目を必修科目として配置します。「情報科学」分野と「健康科学」分野のそれぞれの領域において専門的な理論と知識を修得し、これらを基盤として「健康情報学演習」を通じて、「情報科学」と「健康科学」における科学的研究方法と研究姿勢を修得し、同時にコミュニケーション力と実践力を身に付け、学生自身のキャリア形成に繋がります。

アドミッションポリシー

本研究科では、次のような人を求めます。

- ①「情報科学」に関する基礎的な学力・技術・知識がある。
- ②人間の持続的な「健康」の維持への興味・関心がある。
- ③自らが主体的に問題を発見し、課題を解決する能力がある。

養成する人材像

「情報科学」の知識を「健康科学」に応用し、また、「情報」の技術を活用して地域の「健康」増進に貢献する、「健康を応用分野とする高度情報人材」の育成を目指します。

基礎力 専門的な理論と知識を修得
情報科学 × 健康科学

実践力 科学的研究方法と研究姿勢を修得
健康情報学

地域の「健康」増進に貢献する
健康を応用分野とする
高度情報人材の育成

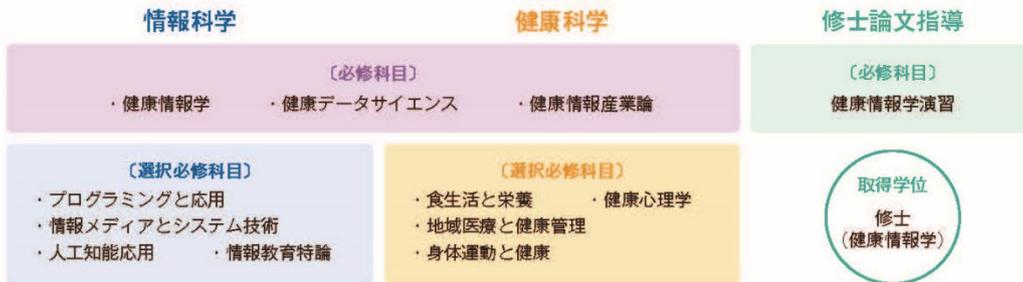
(想定される進路)

医療・福祉・食品・情報産業界 など

- 情報技術者・データサイエンティスト
- 健康・医療・分析機関のITエンジニア
- 食品・健康産業のDX推進担当者
- 大学教員(助手)

◎上記の内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

 **カリキュラム** (構想・検討中)



 **初年度納入金**

入学金	授業料	その他(教育充実費)	初年度納入金 合計
200,000円	600,000円	100,000円	900,000円

※上記金額は2025年度予定のものです。 ※別途諸経費が必要な場合があります。 ※傷害保険料等を除きます。

 **他大学との納入金比較**

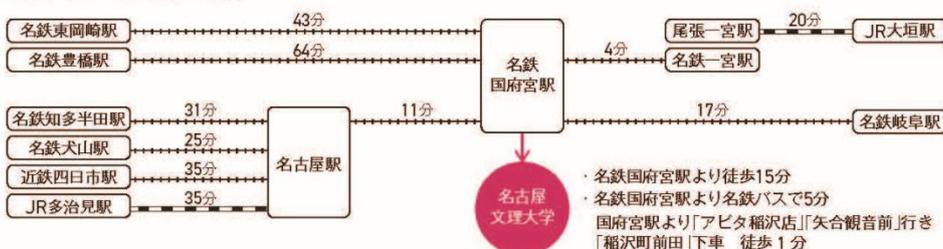
大学院名・研究科・専攻名	所在地	入学金	授業料	その他(教育充実費)	初年度納入金 合計
愛知淑徳大学大学院 文化創造研究科 情報デザイン・システム専修	愛知県長久手市片平 二丁目9	180,000	1,100,000	100,000	1,380,000
愛知工業大学 経営情報科学研究科	名古屋市千種区自由ヶ丘 2丁目49-2	130,000	730,000	230,000	1,090,000
岐阜聖徳学園大学大学院 経済情報研究科	岐阜県岐阜市中鶯 一丁目38番地	300,000	700,000	360,000	1,360,000
南山大学大学院 理工学研究科 データサイエンス専攻	名古屋市昭和区山里町18	300,000	654,000	105,000	1,059,000
名城大学大学院 都市情報学研究科	名古屋市天白区塩釜口 一丁目501番地	130,000	640,000	220,000	990,000
大同大学大学院 情報学研究科	名古屋市南区滝春町10-3	150,000	535,800	305,000	990,800
中京大学大学院 工学研究科情報工学専攻	豊田市貝津町床立101	200,000	505,000	345,000	1,050,000

※上記金額は各大学ホームページ掲載情報(2024年度予定)より引用しています。 ※各大学とも、別途諸経費が必要な場合があります。
※傷害保険料等を除きます。 ※名城大学大学院、中京大学大学院は実験実習費を含みます。

 **アクセス**

※所要時間は最速です。乗り換え時間は含みません。

名古屋駅から名鉄特急で11分



◎上記の内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

名古屋文理大学大学院
「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称・設置構想中)
設置構想についての採用意向アンケート調査
(対象：人事採用担当者の皆様)

名古屋文理大学は、2025年4月に大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)を新設することを構想しています。本学は、このアンケート調査を通して将来卒業生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。なお、回答結果は名古屋文理大学大学院の設置構想に係る統計資料としてのみ活用します。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人・企業が識別できる情報として公表されることはありません。何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

※このアンケート調査は、名古屋文理大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

※概要およびこのアンケートに記載されている「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)に関する事項は予定であり、内容が変更になる可能性があります。

問1 貴社の業種についてお答えください。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="radio"/> 情報・通信業 | <input type="radio"/> 放送、新聞、出版業 |
| <input type="radio"/> 広告業・広告代理業 | <input type="radio"/> 製造業 |
| <input type="radio"/> 飲食業・宿泊業 | <input type="radio"/> 医療・福祉 |
| <input type="radio"/> サービス業 | <input type="radio"/> 農・林・漁・鉱業 |
| <input type="radio"/> 卸売・小売業 | <input type="radio"/> 金融業、保険業 |
| <input type="radio"/> 電気、ガス、熱供給、水道業 | <input type="radio"/> 建設業 |
| <input type="radio"/> 不動産業、賃貸業 | <input type="radio"/> 運輸業 |
| <input type="radio"/> 官公庁・自治体・公共団体 | <input type="radio"/> 学校・学習支援業 |
| <input type="radio"/> その他 | |

問2 貴社の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

- | | | | | | | |
|---------------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 茨城県 | <input type="radio"/> 新潟県 | <input type="radio"/> 静岡県 | <input type="radio"/> 奈良県 | <input type="radio"/> 徳島県 | <input type="radio"/> 熊本県 |
| <input type="radio"/> 青森県 | <input type="radio"/> 栃木県 | <input type="radio"/> 富山県 | <input type="radio"/> 愛知県 | <input type="radio"/> 和歌山県 | <input type="radio"/> 香川県 | <input type="radio"/> 大分県 |
| <input type="radio"/> 岩手県 | <input type="radio"/> 群馬県 | <input type="radio"/> 石川県 | <input type="radio"/> 三重県 | <input type="radio"/> 鳥取県 | <input type="radio"/> 愛媛県 | <input type="radio"/> 宮崎県 |
| <input type="radio"/> 宮城県 | <input type="radio"/> 埼玉県 | <input type="radio"/> 福井県 | <input type="radio"/> 滋賀県 | <input type="radio"/> 島根県 | <input type="radio"/> 高知県 | <input type="radio"/> 鹿児島県 |
| <input type="radio"/> 秋田県 | <input type="radio"/> 千葉県 | <input type="radio"/> 山梨県 | <input type="radio"/> 京都府 | <input type="radio"/> 岡山県 | <input type="radio"/> 福岡県 | <input type="radio"/> 沖縄県 |
| <input type="radio"/> 山形県 | <input type="radio"/> 東京都 | <input type="radio"/> 長野県 | <input type="radio"/> 大阪府 | <input type="radio"/> 広島県 | <input type="radio"/> 佐賀県 | |
| <input type="radio"/> 福島県 | <input type="radio"/> 神奈川県 | <input type="radio"/> 岐阜県 | <input type="radio"/> 兵庫県 | <input type="radio"/> 山口県 | <input type="radio"/> 長崎県 | |

問3 貴社の従業員数(正規社員数)についてお答えください。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

- | | | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="radio"/> 50人未満 | <input type="radio"/> 50人以上99人 | <input type="radio"/> 100人~299人 | <input type="radio"/> 300人~499人 |
| <input type="radio"/> 500人~999人 | <input type="radio"/> 1,000人~2,999人 | <input type="radio"/> 3,000人~4,999人 | <input type="radio"/> 5,000人以上 |

【人材需要アンケート調査用紙 2/2】

問4以降は別紙・名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称)の概要資料をご参照の上、ご回答ください。

問4 2025年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称)が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

ニーズは高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない ニーズはない

問5 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称)を修了した学生を採用したいと思いませんか。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

採用したい ⇒ 問6へ 採用を検討したい ⇒ 問6へ 採用しない ⇒ 問7へ

問6 単年度で採用可能と思われる人数は何人ですか。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

1人 2人 3人 4人 5人以上 [] 人

問7 2025年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称)について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

問8 よろしければ貴社名をお教えてください。なお、こちらはどの企業にご返送いただいたかを把握するためのみの質問であり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはありません。(ゴム印の押印でも結構です)

アンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。



名古屋文理大学大学院

「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程) (仮称・設置構想中)

設置構想についての採用意向アンケート調査

名古屋文理大学は、2025年4月に大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)を新設することを構想しています。本学は、このアンケート調査を通して将来卒業生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。なお、回答結果は名古屋文理大学大学院の設置構想に係る統計資料としてのみ活用します。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人・企業が識別できる情報として公表されることはありません。何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

※このアンケート調査は、名古屋文理大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※概要およびこのアンケートに記載されている「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)に関する事項は予定であり、内容が変更になる可能性があります。

このアンケートへの回答は1回までの制限を設けています。回答時にご注意ください。

問1 貴社の業種についてお答えください。（あてはまるもの1つを選んでください） **必須**

選択してください

問2 貴社の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つを選んでください） **必須**

選択してください

問3 貴社の従業員数（正規社員数）についてお答えください。（あてはまるもの1つを選んでください） **必須**

選択してください

【人材需要アンケート調査(WEB フォーム) 3/3】

概要をご確認いただけましたか。 **必須**

確認した

問4 2025年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程) (仮称) が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つを選んでください) **必須**

ニーズは高い

ニーズはある程度高い

ニーズはあまりない

ニーズはない

問5 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程) (仮称) を修了した学生を採用したいと思いませんか。(あてはまるもの1つを選んでください) **必須**

採用したい

採用を検討したい

採用しない

問7 2025年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程) (仮称) について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。 **任意**

問10 差し支えなければ、貴社・貴機関名をお教えてください。 **任意**

送信

【資料3】 授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との対応表

- DP1 地域社会における健康分野の諸課題に対して、高度な情報科学の知識・技術を応用することができる。
- DP2 地域社会における健康分野の諸課題に対して、高度な専門的知見から解決策を導き、研究成果をもって社会に発表し貢献することができる。
- DP3 地域社会における健康分野の諸課題に対して、自ら主体的に課題を発見し、関連する分野の専門家と協力して問題解決をはかることができる。
- DP4 地域社会における健康分野の諸課題に対して、積極的に課題に取り組み、高度な情報科学の知識・技術を応用し、意欲的に問題解決をはかる態度を身につけている。

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		ディプロマ・ポリシー ◎特に関連する ○関連する			
			必修	選択	DP1	DP2	DP3	DP4
健康情報 学分野	健康情報学	1 前	2			○	◎	○
	健康データサイエンス	1 後	2		○	◎		
	健康情報産業論	2 前	2			◎	○	
健康科学 分野	食生活と栄養	1 前		2		◎		
	地域医療と健康管理	1 後		2		○	◎	○
	身体運動と健康	2 前		2		◎	○	
	健康心理学	2 後		2		○	◎	○
情報科学 分野	プログラミングと応用	1 前		2	◎	○	○	
	情報メディアとシステム技術	1 後		2	◎	○	○	
	人工知能特論	2 前		2	◎			
	情報教育特論	2 後		2		○	○	◎
総合分野	専門社会調査演習	1 前		2		○	◎	○
	質的調査演習	1 後		2		○	◎	
	健康データ解析演習	2 前		2	○	◎		
	メディア文化と表現	1 前		2			◎	○
	モデル化とシミュレーション	1 後		2	◎	○		
研究指導 科目	知的財産権と研究倫理	1 前	2			○	◎	
	科学論文作成法	2 前	2			◎	○	
	健康情報学演習 1	1 前	2		◎			
	健康情報学演習 2	1 後	2			◎	○	
	健康情報学演習 3	2 前	2			○	◎	
	健康情報学演習 4	2 後	2			○	○	◎

【資料4】 大学院時間割（案）（1年次）

1年次前期

時限	月	火	水	木	金
1時限 9：00～ 10：30					
2時限 10：40～ 12：10					
3時限 13：00～ 14：30					
4時限 14：40～ 16：10		メディア文化と表現 落合洋文・青山太郎 C304			健康情報学 落合洋文・長谷川聡 他 C304
5時限 16：20～ 17：50	食生活と栄養 小田裕昭 C304	専門社会調査演習 中村麻理 C304	プログラミングと応用 長谷川聡 N101情報実習室	知的財産権と研究倫理 世良清 C304	健康情報学演習1 落合洋文 他 C101演習室 他

※時間割は履修生の状況により、変更する可能性がある。

1年次後期

時限	月	火	水	木	金
1時限 9：00～ 10：30					
2時限 10：40～ 12：10					
3時限 13：00～ 14：30					
4時限 14：40～ 16：10					モデル化とシミュレーション 落合洋文・本多一彦 C304
5時限 16：20～ 17：50	健康データサイエンス 後藤千穂 C304	質的調査演習 中村麻理 C304	情報メディアとシステム技術 田近一郎・森博 N101情報実習室	地域医療と健康管理 遠藤 英俊 C304	健康情報学演習2 落合洋文 他 C101演習室 他

※時間割は履修生の状況により、変更する可能性がある。

大学院時間割案（案）（2年次）

2年次前期

時限	月	火	水	木	金
1時限 9：00～ 10：30					
2時限 10：40～ 12：10					
3時限 13：00～ 14：30					
4時限 14：40～ 16：10	科学論文作法 落合洋文 C304				身体運動と健康 國友宏渉・関豪 C304
5時限 16：20～ 17：50	健康情報産業論 吉田洋 C304	健康情報学演習3 落合洋文 他 C101演習室	人工知能特論 池坊繁屋 C304		健康データ解析演習 栗木清典 C304、C107情報実習室

※時間割は履修生の状況により、変更する可能性がある。

2年次後期

時限	月	火	水	木	金
1時限 9：00～ 10：30					
2時限 10：40～ 12：10					
3時限 13：00～ 14：30					
4時限 14：40～ 16：10					
5時限 16：20～ 17：50	健康心理学 山田ゆかり・山本ちか C304	健康情報学演習4 落合洋文 他 C101演習室 他	情報教育特論 御家 雄一 C304		

【資料5】履修モデル（案）（標準修業年限）

●必修 ○選択

科目 区分	授業科目の名称	単位 数	履修年次				修了 単位数
			1年次		2年次		
			前期	後期	前期	後期	
健康情報学 分野	健康情報学	2	●				3科目 6単位
	健康データサイエンス	2		●			
	健康情報産業論	2			●		
健康科学 分野	食生活と栄養	2	○				2科目 4単位
	地域医療と健康管理	2		○			
	身体運動と健康	2					
	健康心理学	2					
情報科学 分野	プログラミングと応用	2	○				2科目 4単位
	情報メディアとシステム技術	2		○			
	人工知能特論	2					
	情報教育特論	2					
総合 分野	専門社会調査演習	2	○				2科目 4単位
	質的調査演習	2					
	健康データ解析演習	2			○		
	メディア文化と表現	2					
	モデル化とシミュレーション	2					
研究指導 科目	知的財産権と研究倫理	2	●				6科目 12単位
	科学論文作成法	2			●		
	健康情報学演習 1	2	●				
	健康情報学演習 2	2		●			
	健康情報学演習 3	2			●		
	健康情報学演習 4	2				●	
計						30単位	

履修モデル（案）（長期履修）

●必修 ○選択

科目 区分	授業科目の名称	単位数	履修年次								修了単 位数
			1年次		2年次		3年次		4年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
健康情報学 分野	健康情報学	2	●								3科目 6単位
	健康データサイエンス	2		●							
	健康情報産業論	2					●				
健康科学 分野	食生活と栄養	2	○								2科目 4単位
	地域医療と健康管理	2		○							
	身体運動と健康	2									
	健康心理学	2									
情報科学 分野	プログラミングと応用	2	○								2科目 4単位
	情報メディアとシステム技術	2		○							
	人工知能特論	2									
	情報教育特論	2									
総合 分野	専門社会調査演習	2			○						2科目 4単位
	質的調査演習	2									
	健康データ解析演習	2							○		
	メディア文化と表現	2									
	モデル化とシミュレーション	2									
研究指導 科目	知的財産権と研究倫理	2	●								6科目 12単位
	科学論文作成法	2					●				
	健康情報学演習 1	2			●						
	健康情報学演習 2	2				●					
	健康情報学演習 3	2							●		
	健康情報学演習 4	2								●	
計										30単位	

【資料6】 研究指導スケジュール（案）

年次	時期	内容等	
1 年次	前期	学生	研究指導教員の資料に基づき、教員と面談を行い、研究指導教員希望票を提出し、研究科教授会の承認を経て、研究指導教員を決定する。 研究したい課題を計画し研究指導教員に研究課題と研究計画を提出する。
		教員	提出された研究課題と研究計画について、定期的に研究方法の基本的事項についての助言を行い、研究計画書の作成方法等を指導する。
	後期	学生	研究課題を明確化し研究計画書を提出できるよう研究指導教員から指導を受け、中間発表会において研究計画の進捗状況等の発表を行う。 中間発表会の結果に基づいて指導教員の指導により研究計画の修正を行う。
		教員	学生が研究課題を明確化し研究計画書を提出できるよう指導を行う。 中間発表会の結果に基づいて学生に研究計画の修正について指導を行う。
2 年次	前期	学生	研究計画書を提出し、研究指導教員の指導助言を受けながら研究計画の進捗状況を確認し、指導・助言を受けながら研究を進める。
		教員	学生の研究計画の進行を適時確認し、研究や論文作成の指導・助言を行う。
	後期	学生	研究指導教員から必要な指導を受け修士論文をまとめ、修士論文審査会へ提出する。 修士論文審査会において論文審査及び最終試験を受ける。
		教員	学生に研究結果の分析から研究成果を論理的かつ系統的に考察できるように指導するとともに、修士論文の提出に向けた論文作成、修士論文審査会における審査の指導を行う。

【資料7】 基礎となる学部との関係図

大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻

教育研究上の目的

本研究科では「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的とする。



○健康生活学部

・健康栄養学科（教育研究上の目的）

健康栄養学科は、人々の健康の維持・増進、疾病の予防と治療を目的として、様々なライフステージや臨床的要請に対応した栄養学の幅広い知識と技術を身につけ、的確な指導と教育を通して人々の健康な生活に貢献しうる管理栄養士を育成する

・フードビジネス学科（教育研究上の目的）

フードビジネス学科は、食品の製造－流通－消費の過程に関わる知識や、多様な食生活や食文化に関わる幅広い知識を学修し、高度な専門知識を備えた人材となるため、体系的にフードビジネスの専門知識を身につけ、食品製造業、食品流通業、外食産業などのフードビジネスの各分野で活躍できる応用力、実践力のある人材を育成する

○情報メディア学部

・情報メディア学科（教育研究上の目的）

情報メディア学科は、幅広い情報を自在に取り扱える能力を身につけ、社会で求められる問題解決能力、企画・立案能力、文化創造力を養う。情報システムの仕組みや特性を理解し、それらが持つ文化・社会への影響に十分配慮しながら、情報システムの構築やコンテンツの創造、企画・コミュニケーションに関わる総合的な能力の育成をめざす。

【資料8】学 校 法 人 滝 川 学 園 就 業 規 則 (抜粋)

第1条～第7条 (略)

第 8 条 教職員は業務上の必要により、配置転換（同一事業場内での担当業務等の変更）、転勤（勤務地の変更を伴う所属部門の変更）、職種変更、出向（在籍のまま他の学校法人、企業等へ出向）、転籍を命ぜられることがある。

- 2 前項に定める配置転換、転勤、職種変更、出向の場合、正当な理由なくこれを拒むことはできない。
- 3 出向に係る取扱いについては、「学校法人滝川学園出向規程」で定める。出向先での労働条件、出向期間、復職条件等は、別に定める出向規程による。
- 4 本条第1項に定める他の学校法人、企業等への転籍を求める場合、原則として本人の同意を得て行うものとする。

第9条～第11条 (略)

第12条 教職員は満60歳に達した年の年度末をもって定年退職とする。
ただし、本人が希望し、第13条で規定する解職事由に該当しない場合には、満65歳に達する年度の末日まで契約により継続雇用するものとする。

- 2 理事長が教授職で業務上の都合により特に必要があると認めたものについては、上記年齢を超え満70歳に達する年の年度末を限度として契約により引き続き在職させることができる。この職を特任教授という。
- 3 第1項にかかわらず、教授職において、本人が希望のうえ、学長が本人の教育研究活動が顕著であると推薦し、理事長が認めたものについては、満70歳に達する年の年度末を限度として契約により引き続き在職させることができる。
- 4 第1項、第2項および第3項の契約は個別に締結するものとする。
- 5 事務員の役職定年は満60歳とし、役職定年に達した年の年度末をもって当該役職の任務を解く。役職定年に関する事項については別に定める。
- 6 学長の職にある者は、定年年齢を定めず、学長の任期によるものとする。
- 7 学校、学部、学科等を設置する際に任用する教員が、第1項、第2項および第3項に規定する年齢を超えているとき、又は設置が完了する前に第1項、第2項および第3項に規定する年齢を超えるときは当該の学校、学部、学科等の設置が完了する年度末を定年年齢とする。

第13条 次の各号の一に該当するときは30日前に予告するか30日分の平均給与を支給して教職員を解職する。

- 1 精神または身体の障害により業務に堪えないと認めるとき
- 2 やむを得ない業務上の都合によるとき
- 3 第8条第2項に反するとき

第14条以下 (略)

附 則

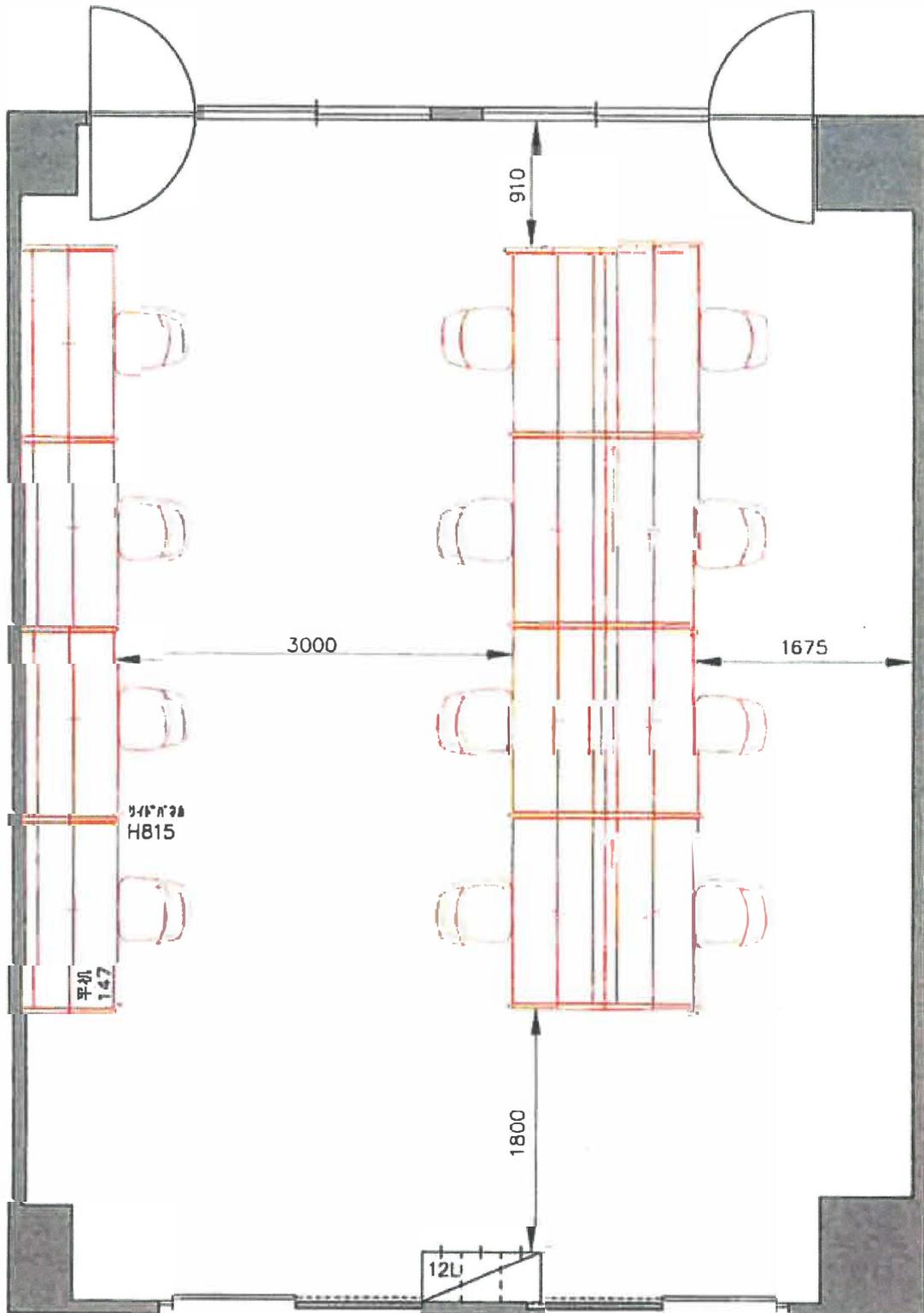
1 本規則は昭和41年4月1日から施行する

2～33 (略)

34 令和5年4月1日改正

35 令和6年4月1日改正

【資料9】 大学院生共同研究室見取り図



【資料10】 学術雑誌一覧

学術雑誌 235種 (和雑誌155 種、洋雑誌80種)

区分	No	雑誌名
学術雑誌 (和雑誌)	1	数学
学術雑誌 (和雑誌)	2	Journal of the Mathematical Society of Japan
学術雑誌 (和雑誌)	3	数理科学
学術雑誌 (和雑誌)	4	数学セミナー
学術雑誌 (和雑誌)	5	情報処理
学術雑誌 (和雑誌)	6	情報処理学会論文誌
学術雑誌 (和雑誌)	7	電子情報通信学会誌
学術雑誌 (和雑誌)	8	電子情報通信学会論文誌D
学術雑誌 (和雑誌)	9	コンピュータ・ソフトウェア
学術雑誌 (和雑誌)	10	オペレーションズ・リサーチ
学術雑誌 (和雑誌)	11	オフィス・オートメーション
学術雑誌 (和雑誌)	12	Harvard Business Review (DIAMONDハーバート・ビジネス)
学術雑誌 (和雑誌)	13	JMAジャーナル マネジメント21
学術雑誌 (和雑誌)	14	企業診断
学術雑誌 (和雑誌)	15	マーケティングジャーナル
学術雑誌 (和雑誌)	16	産業経理
学術雑誌 (和雑誌)	17	会計・監査ジャーナル②
学術雑誌 (和雑誌)	18	工場管理
学術雑誌 (和雑誌)	19	戦略コンピュータ(事務管理)
学術雑誌 (和雑誌)	20	労務研究
学術雑誌 (和雑誌)	21	会計
学術雑誌 (和雑誌)	22	経済月報
学術雑誌 (和雑誌)	23	日本経済指標
学術雑誌 (和雑誌)	24	Journal of information processing
学術雑誌 (和雑誌)	25	科学技術文献速報(管理・システム技術編)
学術雑誌 (和雑誌)	26	経済学文献季報
学術雑誌 (和雑誌)	27	科学
学術雑誌 (和雑誌)	28	事務と経営
学術雑誌 (和雑誌)	29	コンピュータピア
学術雑誌 (和雑誌)	30	保健の科学
学術雑誌 (和雑誌)	31	Newton
学術雑誌 (和雑誌)	32	English Express
学術雑誌 (和雑誌)	33	企業会計
学術雑誌 (和雑誌)	34	統計月報
学術雑誌 (和雑誌)	35	人工知能学会誌
学術雑誌 (和雑誌)	36	Computer Today
学術雑誌 (和雑誌)	37	一橋ビジネスレビュー (ビジネスレビュー)
学術雑誌 (和雑誌)	38	法学セミナー
学術雑誌 (和雑誌)	39	教育と情報
学術雑誌 (和雑誌)	40	経済セミナー
学術雑誌 (和雑誌)	41	品質管理 (クオリティマネジメント)
学術雑誌 (和雑誌)	42	科学技術文献速報. 物理・応用物理編
学術雑誌 (和雑誌)	43	ESP : economy, society, policy
学術雑誌 (和雑誌)	44	電子情報通信学会論文誌D-II
学術雑誌 (和雑誌)	45	Journal of the Physical Society of Japan
学術雑誌 (和雑誌)	46	教育科学 数学教育
学術雑誌 (和雑誌)	47	週刊 東洋経済
学術雑誌 (和雑誌)	48	フィナンシャル・レビュー
学術雑誌 (和雑誌)	49	日本銀行調査月報 (日本銀行月報)
学術雑誌 (和雑誌)	50	金融経済統計月報 (経済統計月報)
学術雑誌 (和雑誌)	51	電子情報通信学会技術研究報告. ET, 教育工学
学術雑誌 (和雑誌)	52	日本物理学会誌
学術雑誌 (和雑誌)	53	旬刊 商事法務

区分	No	雑誌名
学術雑誌 (和雑誌)	54	経済研究
学術雑誌 (和雑誌)	55	思想
学術雑誌 (和雑誌)	56	教職課程
学術雑誌 (和雑誌)	57	電子情報通信学会論文誌. A
学術雑誌 (和雑誌)	58	日本経営学会誌
学術雑誌 (和雑誌)	59	法律時報
学術雑誌 (和雑誌)	60	科学朝日
学術雑誌 (和雑誌)	61	地質学雑誌
学術雑誌 (和雑誌)	62	薬学雑誌
学術雑誌 (和雑誌)	63	月刊言語
学術雑誌 (和雑誌)	64	アジア経済
学術雑誌 (和雑誌)	65	判例リマークス
学術雑誌 (和雑誌)	66	世界経済評論
学術雑誌 (和雑誌)	67	英語教育
学術雑誌 (和雑誌)	68	Open design
学術雑誌 (和雑誌)	69	Unix User
学術雑誌 (和雑誌)	70	映像情報メディア学会誌
学術雑誌 (和雑誌)	71	日本音響学会誌
学術雑誌 (和雑誌)	72	時事英語研究
学術雑誌 (和雑誌)	73	Interface
学術雑誌 (和雑誌)	74	国際商業
学術雑誌 (和雑誌)	75	流通研究
学術雑誌 (和雑誌)	76	マーケティング・サイエンス
学術雑誌 (和雑誌)	77	英語青年
学術雑誌 (和雑誌)	78	ジュリスト (含別冊)
学術雑誌 (和雑誌)	79	こころの科学
学術雑誌 (和雑誌)	80	体育の科学
学術雑誌 (和雑誌)	81	化学と教育
学術雑誌 (和雑誌)	82	日本労働研究雑誌
学術雑誌 (和雑誌)	83	史学雑誌
学術雑誌 (和雑誌)	84	臨床栄養
学術雑誌 (和雑誌)	85	栄養学雑誌
学術雑誌 (和雑誌)	86	学校給食
学術雑誌 (和雑誌)	87	公衆衛生
学術雑誌 (和雑誌)	88	食生活研究
学術雑誌 (和雑誌)	89	食と健康
学術雑誌 (和雑誌)	90	食品衛生学雑誌
学術雑誌 (和雑誌)	91	糖尿病
学術雑誌 (和雑誌)	92	日本公衆衛生雑誌
学術雑誌 (和雑誌)	93	日本家政学会誌
学術雑誌 (和雑誌)	94	HACCP
学術雑誌 (和雑誌)	95	栄養と料理
学術雑誌 (和雑誌)	96	日本栄養士会雑誌 (栄養日本)
学術雑誌 (和雑誌)	97	食生活
学術雑誌 (和雑誌)	98	食品衛生研究
学術雑誌 (和雑誌)	99	食品工業
学術雑誌 (和雑誌)	100	食品と科学
学術雑誌 (和雑誌)	101	蛋白質・核酸・酵素
学術雑誌 (和雑誌)	102	週刊エコノミスト
学術雑誌 (和雑誌)	103	厨房
学術雑誌 (和雑誌)	104	日本栄養・食糧学会誌
学術雑誌 (和雑誌)	105	日本臨床栄養学会雑誌
学術雑誌 (和雑誌)	106	ヘルスケア・レストラン
学術雑誌 (和雑誌)	107	メニューアイデア
学術雑誌 (和雑誌)	108	食の科学
学術雑誌 (和雑誌)	109	MdN

区分	No	雑誌名
学術雑誌 (和雑誌)	110	Sound designer
学術雑誌 (和雑誌)	111	Web designing
学術雑誌 (和雑誌)	112	美術手帖
学術雑誌 (和雑誌)	113	ILLUSTRATION
学術雑誌 (和雑誌)	114	最新医学
学術雑誌 (和雑誌)	115	Adiposcience
学術雑誌 (和雑誌)	116	実験医学
学術雑誌 (和雑誌)	117	月刊食堂
学術雑誌 (和雑誌)	118	CAFERES (カフェ&レストラン)
学術雑誌 (和雑誌)	119	フードビズ (FOOD BIZ)
学術雑誌 (和雑誌)	120	認知科学
学術雑誌 (和雑誌)	121	栄養生理研究会報
学術雑誌 (和雑誌)	122	日本畜産学会報
学術雑誌 (和雑誌)	123	日本家禽学会報
学術雑誌 (和雑誌)	124	全栄施協月報
学術雑誌 (和雑誌)	125	国民生活
学術雑誌 (和雑誌)	126	ビデオサロン
学術雑誌 (和雑誌)	127	画像ラボ
学術雑誌 (和雑誌)	128	Software Design
学術雑誌 (和雑誌)	129	企業と広告
学術雑誌 (和雑誌)	130	広告
学術雑誌 (和雑誌)	131	宣伝会議
学術雑誌 (和雑誌)	132	CM NOW
学術雑誌 (和雑誌)	133	CM INDEX
学術雑誌 (和雑誌)	134	栄養教諭
学術雑誌 (和雑誌)	135	電通報
学術雑誌 (和雑誌)	136	切抜き速報 教育版
学術雑誌 (和雑誌)	137	CG WORLD
学術雑誌 (和雑誌)	138	教職課程
学術雑誌 (和雑誌)	139	教員養成セミナー
学術雑誌 (和雑誌)	140	飲食店経営
学術雑誌 (和雑誌)	141	シナリオ
学術雑誌 (和雑誌)	142	食品と開発
学術雑誌 (和雑誌)	143	化学と生物
学術雑誌 (和雑誌)	144	FOOD Style 21
学術雑誌 (和雑誌)	145	税経通信
学術雑誌 (和雑誌)	146	料理王国
学術雑誌 (和雑誌)	147	cafe sweets
学術雑誌 (和雑誌)	148	月刊専門料理
学術雑誌 (和雑誌)	149	公務員試験受験ジャーナル
学術雑誌 (和雑誌)	150	キネマ旬報
学術雑誌 (和雑誌)	151	Sound & Recording
学術雑誌 (和雑誌)	152	NHKラジオ ラジオ英会話 テキスト
学術雑誌 (和雑誌)	153	NHKラジオ ラジオ英会話 CD
学術雑誌 (和雑誌)	154	NHKラジオ ラジオビジネス英語 テキスト
学術雑誌 (和雑誌)	155	NHKラジオ ラジオビジネス英語 CD
学術雑誌 (洋雑誌)	156	Communications of the ACM
学術雑誌 (洋雑誌)	157	IBM Journal of Research and Development
学術雑誌 (洋雑誌)	158	IEEE Transactions on Computers
学術雑誌 (洋雑誌)	159	The Computer Journal
学術雑誌 (洋雑誌)	160	Computing Reviews
学術雑誌 (洋雑誌)	161	Journal of the Association for Computing Machinery
学術雑誌 (洋雑誌)	162	The Administrative Science Quarterly
学術雑誌 (洋雑誌)	163	The Academy of Management journal
学術雑誌 (洋雑誌)	164	The accounting review
学術雑誌 (洋雑誌)	165	Journal of accounting research

区分	No	雑誌名
学術雑誌 (洋雑誌)	166	Journal of marketing
学術雑誌 (洋雑誌)	167	Harvard business review
学術雑誌 (洋雑誌)	168	ACM transactions on programming languages and systems
学術雑誌 (洋雑誌)	169	Journal of accountancy
学術雑誌 (洋雑誌)	170	The Academy of Management review
学術雑誌 (洋雑誌)	171	American sociological review
学術雑誌 (洋雑誌)	172	The American economic review
		Journal of economic literature
		The Journal of economic perspectives
		American economic journal. Microeconomics
		American economic journal. Macroeconomics
		American economic journal. Economic policy
		American economic journal. Applied economics
		AEA papers and proceedings
		The American economic review. Insights
学術雑誌 (洋雑誌)	173	Journal of management
学術雑誌 (洋雑誌)	174	The economic journal
学術雑誌 (洋雑誌)	175	Journal of business finance & accounting
学術雑誌 (洋雑誌)	176	Financial management
学術雑誌 (洋雑誌)	177	Issues in accounting education
学術雑誌 (洋雑誌)	178	IIE transactions
学術雑誌 (洋雑誌)	179	ACM transactions on modeling and computer simulation
学術雑誌 (洋雑誌)	180	OOPS messenger
学術雑誌 (洋雑誌)	181	Current Contents on CD-ROM
学術雑誌 (洋雑誌)	182	Progress of theoretical physics
学術雑誌 (洋雑誌)	183	Chemical abstracts
学術雑誌 (洋雑誌)	184	Business history review
学術雑誌 (洋雑誌)	185	Journal of business venturing
学術雑誌 (洋雑誌)	186	Regional studies
学術雑誌 (洋雑誌)	187	Foreign affairs
学術雑誌 (洋雑誌)	188	The Developing economies
学術雑誌 (洋雑誌)	189	Econometrica
		Theoretical economics
		Quantitative economics
学術雑誌 (洋雑誌)	190	The journal of political economy
学術雑誌 (洋雑誌)	191	IMF staff papers
学術雑誌 (洋雑誌)	192	Accountancy
学術雑誌 (洋雑誌)	193	Strategic finance (Management Accounting)
学術雑誌 (洋雑誌)	194	Psychological review
学術雑誌 (洋雑誌)	195	Language learning
学術雑誌 (洋雑誌)	196	ELT journal
学術雑誌 (洋雑誌)	197	The journal of Japanese studies
学術雑誌 (洋雑誌)	198	U.S. news and World report
学術雑誌 (洋雑誌)	199	Nature
学術雑誌 (洋雑誌)	200	Science
学術雑誌 (洋雑誌)	201	Scientific American.
学術雑誌 (洋雑誌)	202	National geographic
学術雑誌 (洋雑誌)	203	IEEE transactions on image processing
学術雑誌 (洋雑誌)	204	Dr. Dobb's journal
学術雑誌 (洋雑誌)	205	IEEE transactions on knowledge and data engineering
学術雑誌 (洋雑誌)	206	IEEE transactions on software engineering
学術雑誌 (洋雑誌)	207	IEEE transactions on pattern analysis and machine intelligence
学術雑誌 (洋雑誌)	208	Journal of leisure research
学術雑誌 (洋雑誌)	209	Behaviour
学術雑誌 (洋雑誌)	210	IEEE transactions on education
学術雑誌 (洋雑誌)	211	Management accounting quarterly

区分	No	雑誌名
学術雑誌 (洋雑誌)	212	IEEE transactions on signal processing
学術雑誌 (洋雑誌)	213	Cognitive science
学術雑誌 (洋雑誌)	214	IEEE Transactions Signal Processing Lerrers
学術雑誌 (洋雑誌)	215	Computing in science & engineering
学術雑誌 (洋雑誌)	216	The econometrics journal
学術雑誌 (洋雑誌)	217	The American journal of clinical nutrition
学術雑誌 (洋雑誌)	218	Journal of nutrition education and behavior
学術雑誌 (洋雑誌)	219	The lancet
学術雑誌 (洋雑誌)	220	Promotion & education
学術雑誌 (洋雑誌)	221	Journal of epidemiology
学術雑誌 (洋雑誌)	222	The British journal of nutrition
学術雑誌 (洋雑誌)	223	Journal of nutrition
学術雑誌 (洋雑誌)	224	Nutrition research reviews
学術雑誌 (洋雑誌)	225	The Proceedings of the Nutrition Society
学術雑誌 (洋雑誌)	226	Asian-Australasian journal of animal sciences
学術雑誌 (洋雑誌)	227	The journal of poultry science
学術雑誌 (洋雑誌)	228	Animal science journal
学術雑誌 (洋雑誌)	229	World's poultry science journal
学術雑誌 (洋雑誌)	230	European journal of clinical nutrition
学術雑誌 (洋雑誌)	231	Food management
学術雑誌 (洋雑誌)	232	Journal of food service
学術雑誌 (洋雑誌)	233	Health education & behavior
		Pedagogy in health promotion
学術雑誌 (洋雑誌)	234	Health education research
学術雑誌 (洋雑誌)	235	Acoustical science and technology

【資料11】購入図書一覧

No.	商品名	出版社	購入年度
1	MBAが考えるヘルスケア経営:その戦力と組織	中央経済社	令和6年度
2	ヘルスケア・イノベーション:ヘルスケア産業における新規事業成功要因の分析	同友館	令和6年度
3	3つの視点で会社がわかる「有報」の読み方(第3版)	中央経済社	令和6年度
4	Pythonではじめる 会計データサイエンス	中央経済社	令和6年度
5	Healthcare Disrupted: Next Generation Business Models and Strategies	Wiley	令和6年度
6	ジェンダーで学ぶメディア論	世界思想社	令和6年度
7	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	岩波書店	令和6年度
8	未来社会と「意味」の境界:記号創発システム論/ネオ・サイバネティクス/プラグ	勁草書房	令和6年度
9	新基礎情報学:機械をこえる生命	NTT出版	令和6年度
10	基礎情報学のフロンティア:人工知能は自分の世界を生きられるか?	東京大学出版会	令和6年度
11	人間非機械論:サイバネティクスが開く未来	講談社	令和6年度
12	より良い世界のためのデザイン	新曜社	令和6年度
13	現代思想	青土社	令和6年度
14	ユリイカ	青土社	令和6年度
15	Artificial Intelligence: A Modern Approach, 4th Edition	Pearson	令和6年度
16	学術論文の作法:論文の構成・文章の書き方・研究倫理	成文堂	令和6年度
17	人にやさしいモノづくりの技術:人間生活工学の考え方と方法	丸善出版	令和6年度
18	技術者・研究者のための技術者倫理のキホン	秀和システム	令和6年度
19	科学者の不正行為:捏造・偽造・盗用	丸善出版	令和6年度
20	人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック	慶應義塾大学出版会	令和6年度
21	若き科学者へ	みすず書房	令和6年度
22	コピーペしないレポートから始まる研究倫理:その一線、越えたらアウトです!	ライフサイエンス出版	令和6年度
23	責任ある研究のための発表倫理を考える	東北大学出版会	令和6年度
24	はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ:研究計画から論文作成まで	東京図書	令和6年度
25	大学と社会を結ぶ科学コミュニケーション	九州大学出版会	令和6年度
26	科学技術社会と大学の倫理	東信堂	令和6年度
27	13歳からの研究倫理:知っていこう!科学の世界のルール	科学同人	令和6年度
28	インターネットの光と影 被害者・加害者にならないための情報倫理入門	北大路書房	令和6年度
29	知的財産 理工系の基礎	丸善出版	令和6年度
30	18歳からはじめる知的財産法	法律文化社	令和6年度
31	AI時代の知的財産・イノベーション	日科技連出版社	令和6年度
32	ヘルスデータサイエンス入門 —医療・健康データの活用を目指して—	朝倉書店	令和6年度
33	データサイエンス大系 データサイエンス入門 第2版	学術図書出版社	令和6年度
34	ロスマンの疫学 第2版	篠原出版新社	令和6年度
35	疫学:新型コロナ論文で学ぶ基礎と応用	勁草書房	令和6年度
36	健康・医療の情報を読み解く 第2版 健康情報学への招待	丸善出版	令和6年度
37	機械学習のエッセンス 実装しながら学ぶPython,数学,アルゴリズム	SBクリエイティブ	令和7年度
38	指標・特徴量の設計から始めるデータ可視化学入門	ソシム	令和7年度
39	人工知能プログラミングのための数学がわかる本	KADOKAWA	令和7年度
40	データ分析のための数理モデル入門 本質をとらえた分析のために	ソシム	令和7年度
41	本質を捉えたデータ分析のための分析モデル入門 統計モデル、深層学習、強化学習等 用途・特徴から原理まで一気通貫!	ソシム	令和7年度

No.	商品名	出版社	購入年度
42	Pythonではじめる数理最適化: ケーススタディでモデリングのスキルを身につけよう	オーム社	令和7年度
43	[第3版]Python機械学習プログラミング 達人データサイエンティストによる理論と実践	インプレス	令和7年度
44	クリティカル・ワード: 文学理論: 読み方を学び文学と出会いなおす	フィルムアート社	令和7年度
45	クリティカル・ワード: メディア論: 理論と歴史からいまが学べる	フィルムアート社	令和7年度
46	これからのメディア論	有斐閣	令和7年度
47	メディア論の冒険者たち	東京大学出版会	令和7年度
48	利益相反とは何か: どうすれば科学研究に対する信頼を取り戻せるのか	筑波大学出版会(発売: 丸善)	令和7年度
49	研究者の省察	近代科学社	令和7年度
50	研究者・技術者のための文書作成・プレゼンメソッド	日本評論社	令和7年度
51	教師がまとめる研究論文: 量的研究・質的研究・アクションリサーチ	鳳書房	令和7年度
52	良心から科学を考える: パンデミック時代への視座	岩波書店	令和7年度
53	教育を読み解くデータサイエンス: データ収集と分析の論理	ミネルヴァ書房	令和7年度
54	科学技術と人間のかかわり 2	大阪大学出版会	令和7年度
55	年報知的財産法 2023—2024特集: 人工知能をめぐる著作権法上の課題	日本評論社	令和7年度
56	知的財産法の挑戦 2	弘文社	令和7年度
57	知的財産法 第5版	弘文社	令和7年度
58	知的財産 知的財産権 知的財産戦略	同文館出版	令和7年度
59	知的財産入門 第4版	発明推進協会	令和7年度
60	知的財産法 第9版	有斐閣	令和7年度
61	代替医療解剖	新潮文庫	令和7年度
62	健康情報は8割疑え!: 京大医学部のヘルスリテラシー教室	法研	令和7年度
63	学問と裁判: 裁判所・都立大・早稲田大の倫理を問う	同時代社	令和8年度
64	研究倫理の確立を目指して: 国際動向と日本の課題	東北大学出版会	令和8年度
65	質的研究の考え方: 研究方法論からSCATによる分析まで	名古屋大学出版会	令和8年度
66	知ってますか? 理系研究の“常識”: 研究・論文・プレゼンの作法	森北出版	令和8年度
67	役員・経営者のための知的財産Q&A	中央経済社	令和8年度
68	実務家のための知的財産権判例70選 2021年度版	発明推進協会	令和8年度
69	知的財産契約の実務 理論と書式 特許編	商事法務	令和8年度
70	実務家のための知的財産権判例70選 2020年度版	発明推進協会	令和8年度
71	知的財産契約の実務 理論と書式 先端技術・情報編	商事法務	令和8年度
72	実務家のための知的財産権判例70選 2019年度版	発明推進協会	令和8年度
73	実務家のための知的財産権判例70選 2018年度版	発明推進協会	令和8年度
74	年報知的財産法 2022—2023特集: 仮想空間(メタバース)の技術・創作の現状と知的財産法	日本評論社評論社	令和8年度
75	知財相談ハンドブック 第4版	大阪弁護士協同組合	令和8年度

【資料 12】名古屋文理大学大学院健康情報学研究科 研究科教授会規程（案）

（目的）

第1条 この規程は、名古屋文理大学大学院 学則に基づき名古屋文理大学大学院健康情報学研究科教授会の運営等について定める。

（構成）

第2条 研究科教授会は、学長及び教授・准教授をもって組織する。但し、学長が必要と認めるとき、専任の助教・その他の教職員を加えることができる。

（審議事項）

第3条 研究科教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- （1） 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- （2） 学位の授与に関する事項

2 研究科教授会は、前項に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める次に掲げるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- （1） 教育研究の基本方針に関する事項
- （2） 教育課程の編成に関する事項
- （3） 学術研究の推進に関する事項
- （4） 学生の資格認定および身分に関する事項
- （5） 学生の厚生補導および賞罰に関する事項
- （6） 学則その他重要な規則等の制定および改廃に関する事項

3 学長は、前項に規定する事項のうち特に必要と認める事項については、研究科教授会を招集し審議のうえ、決定する。

（招集及び議事）

第4条 研究科教授会は、学長が招集し議長となる。

- 2 学長支障あるときは、健康情報学研究科長（以下「研究科長」という。）がこれを代行する。
- 3 学長が適当であると認めるときは、事案の概要を書面又は電磁的方法をもって研究科教授会構成員に送付し、その意見を徴することができる。

（開催）

第5条 研究科教授会は、原則として毎月1回開催する。

- 2 前項にかかわらず、学長が必要と認めるとき、または構成員の3分の1以上の要求があったとき、学長はすみやかに研究科教授会を招集する。

（議事録）

第6条 研究科教授会の議事は議事録に記載するものとする。

(事務)

第7条 研究科教授会に関する事務は、教学部が行う。

(改廃)

第8条 この規程の改廃については、研究科教授会の議を経て、学長が決定するものとする。

附則

この規程は令和7年4月1日から施行する。

令和4年度自己点検評価書

基準項目	評価の視点	評価コメント	今後の対策・方針
基準1 使命・目的など 領域：使命・目的、教育目的		<p>大学は、知の拠点であり、知識基盤社会の重要な社会的インフラストラクチャーとして高い公共性を有する機関です。このため、個々の大学は、社会基盤としての共通性を有しています。他方、多様な価値の創出が求められる現代社会においては、個々の大学が個性と特長を持つことが、多様な教育研究の成果の創出につながります。これらのことから、個々の大学は、その使命・目的（建学の精神等を踏まえた大学の将来像又は達成しようとする社会的使命・目的）を定め、これを社会に表明する必要があります。本基準はそのことを確認するものです。各大学は、教育研究、社会貢献などの使命・目的を明確に定めるとともに、教育目的（教育プログラムごとの人材養成に関する目的）を学則等において明確に定め、①ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）②カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）③アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に反映するとともに、使命・目的に整合した教育研究組織を構築し、計画的に使命・目的及び教育目的を実現していくことが求められます。大学の使命・目的及び学部の教育目的等は、大学の教育研究のあり方のみでなく、大学経営と大学の活動全体の基本軸となるものです。その内容が、大学の活動全体に確実に反映されるための学内体制の確立が不可欠です。</p>	
1-1 使命・目的及び教育目的の設定	1-1-①意味・内容の具体性と明確性	意味、内容はビジョン2012としてHPに示しており、学則などで明文化している。	
	1-1-②簡潔な文章化	立学の精神について、簡潔な文書で解釈指針を示している。	
	1-1-③個性・特色の明示	入学時に、「立学の精神」の授業内、学生便覧、本学HP、学生食堂ラウンジで周知しており、個性、特色を明示している。	
	1-1-④変化への対応	大学の使命・目的、及び教育目的は立学の精神を基本としており普遍的な性格を持っているが、学園の変化に対応して定期的な見直しが必要である。必要に応じて、使命・目的及び教育目的の見直しを行っている。	ビジョンの定期的見直し
1-2 使命・目的及び教育目的の反映	1-2-①役員、教職員の理解と支持	理事・評議員については、「立学の精神」「ビジョン2012」「BSP-15」などの成文化、実行案または、解釈文・広報文の作成において、常に報告、審議するとともに理解と支持を得ている。教職員については、「立学の精神」「ビジョン2012」「BSP-15」などについて、教授会、学園会議、学部長・部長会、教職員全体会議などで意見聴取や報告などを行い、理解・支持を得ている。新任教職員については、新任研修時に「立学の精神」から始まる本学の使命・目的について理事長・学長から説明が行われ、理解と支持を得ている。	
	1-2-②学内外への周知	入学時、全入学生に対し講義時間を設け本学の「立学の精神」を理事長より説明している。学生便覧や本学HPでも「立学の精神」は学内外へ周知されている。	
	1-2-③中長期的な計画への反映	大学の使命・目的は「立学の精神」とともに、「ビジョン2012」としてまとめられ、明記されている。大学の中長期計画「BSP-15」第3期5か年計画に反映されている。	
	1-2-④三つのポリシーへの反映	「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」の三つのポリシーは「立学の精神」をもとに作成されており、「ビジョン2012」に示される本学の使命・目的をそれぞれ反映している。	三つのポリシーの定期的な見直しと「立学の精神」との整合性のチェック
	1-2-⑤教育研究組織の構成との整合性	「ビジョン2012」の中の10項目にまとめられた将来像の中で「人づくり」を第一の項目に挙げている。教育課程の中でも少人数クラスで実施する「ゼミ教育」「卒業研究」を重視し、個に対応したきめ細やかな教育や基礎学力を高める教育組織体制を構築・整備している。	教育組織体制の有効性の検証（卒業時学生アンケート調査、学修成果への効果のアセスメント）

令和4年度自己点検評価書

基準項目	評価の視点	評価コメント	今後の対策・方針
基準2 学生 領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応		教育機関としての大学は、その使命・目的を実現するために必要な規模の学生を受入れ、その成長を促進し、社会で活躍することができるための専門的知識・能力を授けることが求められます。本基準は、そのことを実現するための組織的環境を「学生」の観点から確認するものです。大学が学生を受入れるに当たっては、教育目的に基づいたアドミッション・ポリシーを策定し、それに基づく入学者選抜を適正に行うことが必要です。そして、大学は、入学後に学生が成長できるための必要な学修環境を整備し、学生生活の安定を図り、組織的な学修支援に取り組むとともに、社会的・職業的な自立のための指導を通じて、自らのキャリアを形成していくことができる力を備えた学生の育成に努めなければなりません。それらの実現のためには、学生の意見・要望を的確に把握し、それを活用していくことも必要です。	
2-1 学生の受入れ	2-1-①教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知	文科省の方針や最新の学修内容等に合わせた明確な最新のアドミッション・ポリシーを策定、周知している。本学HPで公開し、三つのポリシーの冊子を作成している。受験生にとって理解しやすい表現を心掛け、高校訪問、受験生向け進学相談会、高校教員対象大学説明会、オープンキャンパスにて配布し、高校教員、受験生、保護者への周知を徹底した。	
	2-1-②アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者受け入れとなるよう、継続して検証している。学校推薦型選抜推薦入試(公募・指定校)、総合型選抜(高大接続入試、A0入試、特別入試)のすべての入試で志望理由書(A0入試はエントリーシート)の提出を出願条件としている。 1年生に外部アセスメントを導入して入学者の学生像を把握した。	
	2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持	高校生全体の希望分野における生活科学系の低迷や新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、一般選抜において受験生の動きの変化(年内入試への前倒し、一般選抜での併願校減少等)により、令和5年度入試では健康生活学部が定員未充足となっている。情報メディア学部は定員充足している。 食・栄養分野全体の希望者減少傾向が継続しているため、今後も3学科の定員充足と定員の適正化に努める。	定員充足の対策
2-2 学修支援	2-2-①教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備	指導教員制、オフィスアワーの設定、GPAの活用、退学者、留年者への指導、保護者への成績通知、1年生保護者会の実施などを行っている。 地域連携センター等の組織的協力による産官学連携事業やその他事務部門協力で学生の学修成果の向上に努めている。 障がい学生支援に関する指針(ガイドライン)が定められており、学生からの支援要請は各部署が連携して対応している。 教務委員会、教学課において厳格なシラバスの点検を行っている。 令和4年度よりディプロマサプリメントを導入を実施した。	
	2-2-②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実	SA研修会を年2回実施しており、研修方法については教務委員会等による組織的な対応を検討している。 SAをはじめとするチュードントジョブの体制が、ある程度整っており、これらを経験する学生は学修内容の深い理解とともに、さらなる学修への動機付けとなっている。	
2-3 キャリア支援	2-3-①教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備	1DAYインターンシップを実施する企業が増加したため、就業体験型インターンシップとの違いについてガイダンスを実施した。 2名の有資格者を中心に就職活動に悩む学生を対象に精力的に面談を行い、学生の就活を活性化した。未内定者はマンツーマンサポートを通して、内定獲得まで徹底的にサポートした。また学内に採用担当者を招聘し、個別企業説明会を15回開催し就職希望者全員が内定取得できる環境を整えた。 健康栄養学科では、臨地実習、地域連携活動などによって実践の場を設けることにより、学生が専門職に就くための意欲向上を図っている。 フードビジネス学科では、1年時キャリアガイダンスに企業人の招聘を行い、就業意識を高めるほか、各授業内でもこれらの知識が実業においてどのように生かされるのかを教授している。 情報メディア学科では、演習授業のほか、学生プロジェクト活動などを通じて多様な人との共同作業により社会的・職業的自立が促されている。 教育課程内では主に就職委員の教員によるキャリアデザインⅠ、Ⅱの講義を必修科目として実施している。インターンシップを授業科目に設け学生に積極的に履修させている。4年の指導教員が就職活動をサポートしている。	さらなる社会的自立を促す支援を検討
2-4 学生サービス	2-4-①学生生活の安定のための支援	学内奨学金も制度上は充実しているが、学生の申請する機会を増やすため、名古屋文理大学第一種奨学金の家計基準の見直しを行った。また、名古屋文理大学第三種奨学金については同窓会の援助により対象者を拡充した。 日本学生支援機構奨学金の申請支援、各種学内奨学金の付与、クラブ活動支援、大学祭支援などを積極的に行っている。 看護師、心理相談員を配置している。 学生からの意見・要望を聞く手段として学生食堂および大学HP上に学生意見箱を設置しており、学生からの意見については、関連部署に伝えるとともに学生に回答している。 車通学を希望する学生に対して、安全運転講習会を前期・後期それぞれで実施した。 課外活動支援の一環としてクラブ援助金審査会を実施した。	

令和4年度自己点検評価書

基準項目	評価の視点	評価コメント	今後の対策・方針
2-5 学修環境の整備	2-5-①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理	<p>本学の現有する校地、校舎については大学設置基準を十分に満たしており、体育館、図書館を含む5つの校舎には、一般教室、演習室、各種実験室・実習室が配置され適切な学習環境が整備されている。</p> <p>学内の施設設備の安全、維持管理については専門業者による保守点検を行っており、昇降機保守点検、電気工作物保守管理、空調機設備保守管理などの各種保守点検を適時実施している。また、施設設備面で不備が生じた場合は関連業者と連携をとり、修理等の対応を迅速に行っている。</p> <p>学内が無人的際の安全管理について機械警備を導入し、部外者の侵入や設備関係の異常が発生した際には警備会社に対応することとなっている。</p> <p>学内の照明LED化は令和2年度の本館教室棟、令和3年度の図書館1・3階、本館ソフィアホール、北館1・2階に続いて令和4年度には北館3・4階を実施し、順次進めている。</p> <p>平成27(2015)年に竣工したFLOS館以外の建物は老朽が目立つようになり、施設の改修や実習関連機器の更新を計画的に行う必要性がある。</p>	実習関連機器の更新を検討。
	2-5-②実習施設、図書館等の有効活用	<p>授業で使用している情報実習室の時間割を作成・掲示し、空き時間を分かりやすくすることで自習利用を促している。</p> <p>図書館2階閲覧机に仕切りをつけ個人ブース化し、集中して学修できる環境を提供している。</p> <p>図書館では例年同様、様々な企画を行い、学生の学修環境を整備している。</p> <p>学内施設の有効活用については、各種団体からの要望による学会、講習会、認定試験の会場として、状況が許す限り使用を認め活用している。</p> <p>本館や北館、FLOS館のオープンスペースの活用は進んでいるが、図書館の開館時間や有資格者の配置について検討が必要となる。</p>	
	2-5-③バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性	<p>体育館以外の4つの建物にはエレベータが設置されており上部フロアへの移動が可能である。また、各建物の出入口にはスロープが設置されており、障害者の方に対する配慮はなされているが、体育館や個別の教室等においては十分とはいえず改善の余地がある。令和5年度には本館ソフィアホールに階段昇降機の設置を計画するなど検討のうえ年次計画して進めていく。</p>	ソフィアホール、体育館、実験・実習施設のバリアフリー化
	2-5-④授業を行う学生数の適切な管理	<p>受講者の多い授業科目については増ゴマをしている。受講者の少ない講義、ゼミは閉講としている。新型コロナウイルス感染症対策を実施しているため、受講者は80名程度を限度としている。</p>	
2-6 学生の意見・要望への対応	2-6-①学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用	<p>授業評価アンケート、卒業時アンケート、ループリック、少人数教育などにより意見を随時取り入れている。指導教員を配置して、学生の意見や要望を把握して対応している。</p> <p>対面授業の再開により授業内、授業外での学生とのコミュニケーションを緊密にし、意見を聴取している。</p> <p>学生満足感調査、卒業時アンケート調査、外部アセスメントテストなどを実施し、主要な会議体で検討している。検討結果を本学ウェブサイトで公表している。卒業時アンケートの回収率は85%以上となっている。</p> <p>カリキュラム改善に資するべく、学生代表に意見聴取を行っている。主な聴取事項は、現行カリキュラムに関する意見、新設してほしい科目、カリキュラムツリーの順番の適切性等である。</p>	
	2-6-②心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用	<p>心理相談会議を実施し、心理相談員と意見交換をしている。学内の奨学金制度は適切に運営されている。校医、看護師により医務室だよりが定期的に発行され、心身に関する注意喚起を行っている。</p>	
	2-6-③学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用	<p>授業評価アンケートの回答率向上が課題である。</p> <p>学生満足感調査を毎年実施し、自己点検評価委員会、教学課内で検討を行っている。</p>	授業評価アンケートの回答率向上のための施策検討・導入

令和4年度自己点検評価書

基準項目	評価の視点	評価コメント	今後の対策・方針
基準3 教育課程 領域：卒業認定、教育課程、学修成果		大学の機能の中核である学修の柱となるのは教育課程です。大学は、その使命・目的を踏まえて、学部・学科・研究科等ごとの教育目的を明確に定めるとともに、これを実現するための方策として、三つのポリシーを定めることが必要になります。その中でも、単位授与や卒業・修了の認定基準を定めて、これを厳正に運用するとともに、教育課程の編成と実施に反映させる必要があります。また、教授方法の開発や学修成果の点検・評価結果のフィードバックを通じて、大学の教育を可視化し、外部からの評価を受けながら、更なる教育課程、教育内容・方法及び学修指導等の改善を不断に図っていくことが、教育の質を高めるために不可欠なことです。	
3-1 単位認定、卒業認定、修了認定	3-1-①教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知	学長を中心とした自己点検評価委員会、学部長部長会で検討・評価を行っている。 カリキュラム改編時に合わせて、随時ディプロマ・ポリシーの見直しを行っている。	
	3-1-②ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知	学長を中心とした自己点検評価委員会、学部長部長会で検討・評価を行っている。 単位認定、進級及び卒業要件は適切に定め厳正に運用している。	
	3-1-③単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用	認定は、基準に沿って厳正に行われている。	
3-2 教育課程及び教授方法	3-2-①カリキュラム・ポリシーの策定と周知	カリキュラム・ポリシーがカリキュラム改編時に策定され周知されている。	
	3-2-②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性	学長を中心とした自己点検評価委員会、学部長部長会で検討・評価を行っている。 一貫性のあるポリシーとして策定されている。	
	3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	学長を中心とした自己点検評価委員会、学部長部長会で検討・評価を行っている。 新しいカリキュラム・ポリシーに沿って新カリキュラムを策定、体系的に編成されている。	
	3-2-④ 教養教育の実施	教務委員会内に教養教育のWGを設置した。語学の選択肢を広げるため韓国語Ⅰ・Ⅱが開講されており、履修者数も適切である。海外研修を単位化した。MDASHプログラム（数理・データサイエンス・AI教育プログラム）リテラシーレベルが認定され、全学に導入されている。	
	3-2-⑤教授方法の工夫・開発と効果的な実施	健康栄養学科では、実践的な管理栄養士養成のため、全教員が授業のレベルアップと地域貢献活動を積極的に行っている。 フードビジネス学科では、産官学連携を積極的に推進し、実社会で即戦力となるような学生を育成する体制が整っている。 情報メディア学科では、科目の一部に遠隔授業を導入しており、教授法の工夫により高い満足度を維持している。 ティーチングポートフォリオの導入を検討している。	
3-3 学修成果の点検・評価	3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	アセスメント・ポリシーを作成済み。点検・評価の実効性については継続して要検討。 学長を中心とした教学マネジメント体制を構築し、全学部等の取り組みについて3つのポリシーを踏まえた適切性に係る点検・評価の状況を活用している。	アセスメント・ポリシーは作成しており、点検・評価の実効性については継続して要検討。
	3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	試験終了後成績フィードバック期間を設け、その内容を教務委員会、学科会議で検討している。	

令和4年度自己点検評価書

基準項目	評価の視点	評価コメント	今後の対策・方針
基準4 教員・職員 領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援		教員と職員は、言うまでもなく大学の活動を支える中核的存在であり、組織の整備と個人の職能開発の両面が求められます。前者においては、学長が適切にリーダーシップを発揮できる環境を整え、教学の運営体制を中心しつつ、権限を適切に分散し責任と役割を明確にした教学マネジメントを構築し、教員と職員をそれぞれに適材適所で配置してこれを十全に機能させること、後者においては、教育内容・方法等の改善のためのFDや大学運営に必要な資質・能力の向上のためのSDを通じた教員・職員の個々の職能開発を効果的に行うことが、大学の諸活動の成果を高める支えになります。教員の仕事と職員の仕事を原理的に分けて考えず「教職協働」を図ることで、効果的に大学を運営することも、今日ではますます重要になっています。また、教員の研究活動を適切に支援することも、教育と研究を主な役割とする大学にとっては不可欠なことです。 なお、この基準における「職員」は、事務職員のほか、教授等の教員や学長等の大学執行部、技術職員等も含まれます。	
4-1 教学マネジメントの 機能性	4-1-①大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮	学部長・部長会、学科会議、教務委員会を中心とした各種委員会が適切に機能している。自己点検評価委員会、SD・FD会議、教授会などで学長のリーダーシップが発揮できる体制は整備されている。	
	4-1-②権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築	教学マネジメント・ポリシーに沿って、教学マネジメントを構築している。教授会などの組織上の位置づけ及び役割を明確にしている。教授会などに意見を聴くことを必要とする教育研究に関する重要な事項について学長が定め、周知している。その他、学部長・部長会、学科教員会議、教務委員会を中心とした各種委員会など、大学の意思決定及び教育マネジメントについて適切に運営されている。	
	4-1-③職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性	運営組織規程により事務分掌を定め役割を明確にしている。教学課内でも各職員の分担を決めて業務を遂行している。	
4-2 教員の配置・職能開発等	4-2-①教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置	教員採用は「公募」を原則とし、現状は専任教員の採用人事は公募または私募により行っている。教員の採用は概ね順調に進んでいるが、本学での育成については丸合教員につながる研究成果の蓄積が不十分である。非常勤教員については、副学長、学科長からの推薦により、教学部長が面接を行っている。昇任人事は研究業績等を点数化し公正に行われている。学生数の増加、また教員の入れ替えなどに伴い、新規教員の増員が求められる。	医師教員など教員配置の検討
	4-2-②FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施	年2回定期的にFDを行っている。また、定期的なFDに加え、毎年度、名古屋キャンパスと合同で教員向け「ICT活用教育講習会」を実施している。令和4年度は「臨地実習指導（健康栄養学科）」と「数理・データサイエンス教育（基礎教育センター）」の2本の動画を作成し講習会を実施した。産官学連携を積極的に推進し、実社会で即戦力となるような学生を育成する体制が整っている。	
4-3 職員の研修	4-3-①SD (Staff Development) をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み	全教職員を対象とする夏期拡大FD・SDを開催し、研究、入試改革、財務、中長期計画の方向性をテーマとした報告、協議を行った。公認会計士を招聘し、公的研究費の不正使用の防止および改正個人情報保護法について専門的知見をふまえた研修を行った。全専任教職員を対象とする「アサーティブ・コミュニケーション研修」を行った。昇進・昇格者を対象に「評価者研修」を行った。教学課職員を外部の研修会に参加させ、教育活動の適切な運営を図った。	
4-4 研究支援	4-4-①研究環境の整備と適切な運営・管理	研究所設立の際の機器備品の整備や、外部資金に基づく間接経費を利用した学内募集、及び学内研究費などを通じて、学内の研究環境はある程度整備できつつある。研究所に非常勤スタッフが配置され、環境整備が進んだ。これまで研究委員長が担当していた、研究報告書の取りまとめや、外部資金募集のアナウンス、研究業績データベースの作成を依頼できるようになった。研究所の開設時に研究のための専用室が設けられ、大学での使用をさらに促すことと、使い勝手を改善することが望まれる。教員には研究日、学外研修制度があり、研究時間の環境は整備されている。一部の研究機器の更新が必要となっている。食と栄養研究所の外部に対する活動実績や所報も検討課題である。	事務部門の配置の検討 教員の時間的、予算的な研究支援体制
	4-4-②研究倫理の確立と厳正な運用	研究倫理は確立している。所属するすべての研究者（本学を本務とするもの）に対して、研究倫理教育の受講について、規定で義務付けており、e-learningシステムにより、全研究者が研究倫理教育を受講済みである。	全学部学生の研究倫理教育の検討
	4-4-③研究活動への資源の配分	最低限の予算的な資源は配分されているが、教育・研究以外の業務に各種資源が取られており、研究活動は十分ではない。もし資金を獲得できても時間が割けないと考え、外部資金への申請を躊躇させる状況にも繋がっている。	研究活動への人的、時間的な資源の配分の検討

令和4年度自己点検評価書

基準項目	評価の視点	評価コメント	今後の対策・方針
基準5 経営・管理と財務 領域：経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計		大学の使命・目的及び教育目的を達成するためには、法人全体の中長期的な計画を策定し、計画の実施に必要な環境・条件を整えらるとともに、計画に沿って事業の意思決定から執行までを検証していかなければなりません。本基準でいう経営・管理と財務とは、主に法人の運営及び財務活動をいいます。大学に対する社会からの要請などにより、情勢の変化に対応した経営の規律と誠実性、大学の使命・目的の達成に向けての理事会の機能、法人及び大学の管理運営の円滑化と相互チェック機能の強化などがますます重要になってきています。学校法人制度の基本理念である自主性と公共性、安定性と継続性を守る上で、財務の役割は重要です。大学独自の使命・目的及び教育目的の実現を目指す中長期計画も、適切な財務計画と一体になって初めて実効性を持ち得ます。大学が社会的な信頼を得て着実な発展を遂げるために、財務基盤の確立と適正な会計処理は避けて通れないことです。	
5-1 経営の規律と誠実性	5-1-①経営の規律と誠実性の維持	文理中長期戦略プランBSP-15第Ⅲ期計画（2022～2026年度）に伴う財務計画を策定した。	
	5-1-②使命・目的の実現への継続的努力	立学の精神・使命目的に沿っての文理中長期戦略プランBSP-15を単年度の事業計画に落とし、各種課題に取り組んでいる。未達のものについては、継続して取り組むこととしている。	
	5-1-③環境保全、人権、安全への配慮	授業終了後すみやかに電気を消すなど節電を行っている。 法令改正に伴い、個人情報の保護に関する規程および公益通報に関する規程の改正を行った。	個人情報ならびに人権保護に努める。
5-2 理事会の機能	5-2-①使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性	令和4年度は、理事会6回、評議員会3回を開催した。理事、評議員の出席状況は良好であり、欠席者においては、事前に審議事項に関する意思表示を得て、議決数を確保している。 理事、評議員は寄附行為に則り適正に選出をおこない、理事、評議員の定数を満たしている。	
5-3 管理運営の円滑化と相互チェック	5-3-①法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化	法人（管理部門）と大学（教学部門）の連携については、学部長・部長会議や学園会議を通じて意思疎通をはかっている。 理事会審議事項に関する最終意見を学園会議の主たる議事とし、理事長の諮問機関として機能している。 教授会に法人の事務局長、大学の事務部長が参加し、必要な報告が行われている。	
	5-3-②法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性	相互チェックが機能していることが、外からみて分かりやすい仕組み作りが必要と思われる。 監事ならびに評議員は寄附行為に則り適正に選出をおこない、定数を満たしている。 監事は、会計監査人と連携し、学内業務と財産の状況を監査している。 評議員会においては、寄附行為に則り組織されている。予算、事業計画および人事等の重要案件については評議員会への諮問のうち、理事会で議決している。	私立学校法改正への対応
5-4 財務基盤と収支	5-4-①中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立	学園全体の資金収支は黒字、事業活動収支はマイナス3,300万円となった。 人件費比率54.6% 教研費比率33.8% 管理経費比率13.2%。 BSP-15第Ⅲ期計画にもとづく財務計画を策定している。 保護者会を開催し、保護者への寄付金募集活動を行った。	適正な財務比率の達成
	5-4-②安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保	寄附金募集活動の充実のため、特定公益増進法人の指定に加えて税額控除対象法人の指定を受けている。 令和4年度は寄附金募集リーフレットを作成し、目標とする寄附者数および寄附金額を達成した。 継続的な入学定員確保、短期大学の財務状況の改善が課題である。	
5-5 会計	5-5-①会計処理の適正な実施	監事および会計監査人の監査を受け、適正に執行している。 会計年度終了後、2ヶ月以内に資産総額変更登記をおこない、文部科学省に報告している。	
	5-5-②会計監査の体制整備と厳正な実施	5-5-①に同じ KAM（監査上の主要な検討事項）についても積極的に開示することが望ましい。	

令和4年度自己点検評価書

基準項目	評価の視点	評価コメント	今後の対策・方針
基準6 内部質保証 領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル		自主性・自律性を重視する大学の本質に照らし、大学の質保証は、基本的に大学の責任で行うことが求められます。そのため、評価機構では、自主性・自律性の裏付けを伴う継続的な自己点検・評価を通じて行う内部質保証を重点評価項目として位置付けています。内部質保証を効果的に実施していく上で、恒常的な組織体制を整備するとともに、その責任体制が明確になっていることが必要です。また、内部質保証は、学部・学科や研究科による三つのポリシーを起点とする教育の質保証と中長期的な計画を踏まえた大学全体の質保証の双方にわたって実施されるとともに、改善・改革のための営みとして行われることも大切です。加えて、認証評価などの外部質保証の結果を踏まえ、大学全体の改善につなげる仕組みとして内部質保証を機能させていくことも重要です。	
6-1 内部質保証の組織体制	6-1-①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	教務委員会内に教育の質保証のWGを設置し活動している。自己点検評価委員会、IR委員会、学部長部長会において三ポリシーの点検評価を実施している。 評価の指標に外部アセスメント、ディプロマサプリメントを導入した。 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立している。	
6-2 内部質保証のための自己点検・評価	6-2-①内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有	外部評価基準に沿った自己点検・評価を実施している。 年度毎に、本学独自の「自己点検評価報告書」を作成してHPに情報公開し学内外に告知している。全教職員が共通理解をもち、教育研究、大学運営の改善・向上に努めている。	
	6-2-②IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析	IR企画課でデータの収集と分析が蓄積され、定期的に行っているIR委員会ではデータ、分析結果を検討している。IR委員会での検討結果は、自己点検評価委員会で審議、報告され、教授会、各委員会で共有され、改善に生かされている。	外部アセスメントの活用
6-3 内部質保証の機能性	6-3-①内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性	IR委員会での検討結果は、自己点検評価委員会で審議、報告され、自己点検評価委員会のメンバーである学部長・学科長から学科教員会議、または各委員会に課題が伝達され、具体的な改善について検討し、実行している。教授会、各委員会でさらにデータの分析が行われ、改善に生かされている。PDCAサイクルの仕組みが確立し、機能している。	

【資料14】 令和2年度～令和5年度のFD・SD実施状況

夏期拡大FDSD

年度	日程	テーマ
令和2年度	令和2年8月25日	教育の自己点検評価と改善
令和3年度	令和3年9月8日	名古屋文理大学の改組転換に向けて（次期中長期計画の方向性）
令和4年度	令和4年9月8日	短大の改組、およびリモート教育における教育の質保証
令和5年度	令和5年8月17日	名古屋文理の新たな教育の推進

FD・SDフォーラム

年度	日程	テーマ
令和2年度	令和3年3月18日	遠隔授業（オンライン授業）と教育
令和3年度	令和4年3月28日	コロナ禍における名古屋文理の教育
令和4年度	令和5年3月23日	高大連携と情報教育の推進
令和5年度	令和6年3月21日	大学院「健康情報学研究科」の発足（仮）

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 新設組織の概要	P 2
① 新設組織の概要	P 2
② 新設組織の特色	P 2
(2) 人材需要の社会的な動向等	P 2
① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	P 2
② 中期的な 18 歳人口等の入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	P 3
③ 新設組織の主な学生募集地域	P 3
④ 既設組織の定員充足の状況	P 3
(3) 学生確保の見通し	P 4
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	P 4
ア 既設組織における取組とその目標	P 4
イ 新設組織における取組とその目標	P 5
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	P 5
② 競合校の状況分析	P 5
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	P 5
イ 競合校の入学志願動向等	P 6
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等	P 8
エ 学生納付金等の金額設定の理由	P 8
③ 先行事例分析	P 9
④ 学生確保に関するアンケート調査	P 9
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	P12
(4) 新設組織の定員設定の理由	P12

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科健康情報学専攻	5	10	愛知県稲沢市稲沢町前田 365 番地

②新設組織の特色

名古屋文理大学大学院健康情報学研究科（以下は「本研究科」という。）は「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的とする。教育課程においては、高齢化の進展により一次予防の重要性が高まっている現在において、情報技術をはじめとする様々な技術を駆使して活力ある健康長寿社会を実現するために、健康科学と情報科学の素養を併せ持ち、地域社会における健康分野の諸課題の解決にあたることのできる高度情報人材を育成することを目的とした科目を配置する。修了後は情報技術者やデータサイエンティスト、健康・医療・分析機関の IT エンジニア、食品・健康産業の DX 推進担当など医療・福祉・食品・情報産業で活躍ができると期待している。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

経済産業省が 2019 年に行った IT 人材需給に関する調査では、「2030 年に IT 人材が 45 万人不足する」という試算が出されている。特に、高度な先端 IT 人材や AI 人材が大幅に不足すると予測されており、先端 IT 人材 27 万人、AI 人材 12 万人不足との試算も出されている。また、数理・データサイエンス・AI、さらには情報メディア技術による高度なデジタルコミュニケーションの可能性が広がる中、我が国では、国家戦略として様々な重点施策が進められている。第 6 期の科学技術基本計画においては、第 5 期に引き続き、我が国が目指す社会として Society5.0 が掲げられ、AI や IoT・ロボットなどを活用して、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合するものである。さらに統合イノベーション戦略推進会議で策定された AI 戦略 2019 では、「人・産業・地域・政府全てに AI」を適切に活用することがうたわれており、そのために数理・データサイエンス・AI 教育の強化情報技術の進歩と応用をさらに高度で適切なものとするべく、IT 人材育成が求められている。

特に健康社会を実現するのに不可欠な医療・福祉・食品産業の現場では DX の推進ができる人材が不足しており IT 人材が求められている。

少子高齢化の進展は労働人口の減少と経済的低迷を招来し、健康医療福祉分野においては国民一人ひとりの財政負担の増大や医療福祉を担う人材不足など、深刻な影響が出始めている。健康で活力ある地域社会を維持するという観点からは、一次予防の重要性がこれまで以上に高まっており、現在及び将来にわたって活力ある健康長寿社会を実現するために

は、情報技術をはじめとする様々な技術や健康科学の知見を駆使して健康医療福祉に係る業務の負担を軽減し、効率的に受益者のニーズに応える必要がある。

そのため、情報科学の技術だけでも健康科学の知識だけでもなく、情報技術と健康科学の素養を併せ持ち、地域社会における健康・福祉・医療の問題の解決にあたることのできる人材、そのような意味での高度情報人材が求められており、「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することが地域社会に貢献できることから本研究科を計画した。

②中期的な 18 歳人口等の入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

我が国の 18 歳人口は、文部科学省「学校基本調査」によると、減少傾向が続いており、令和 5(2023)年から令和 17 (2035) 年までの 12 年間で 12.7 万人ほど減少し、97 万人ほどになり、令和 4 (2022) 年と比べると 88.4%になると予測されている。

また、東海地区（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）においても 18 歳人口は減少し、令和 17 (2035) 年には 令和 5 (2023) 年に比べて 18,000 人程度（13.5%）減少するとの推計が出ている。本学が位置する愛知県においては令和 17 (2035) 年には 令和 5 (2023) 年に比べて 6,100 人程度（8.9%）減少すると予測されている。

しかしながら、東海地区の大学進学における地元残留率は令和 5 (2023) 年は 50.2%であり、平成 26 (2014) 年の 48.0%から上昇している。また、愛知県の令和 5 (2023) 年の地元残留率は 72.1%となっている。本学の入学者の多くは地元残留率が高い東海地区出身者である。そのため、本学が位置する愛知県は 18 歳人口の減少が全国的に比べると緩やかであり地元残留率が高いため、本学においては地元志向性や分野特性を生かすことにより、大学の入学者確保は可能と判断する。なお設置を予定している名古屋文理大学大学院健康情報学研究所の入学生は本学の学部卒業生を想定しており、学部在学中に在學生へ早期に大学院進学広報を行うことにより、定員を確保できると判断する。

【資料 1：リクルート進学総研 マーケットリポート 2023-18 歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向 東海版】

③新設組織の主な学生募集地域

本研究科の入学者の多くは基礎の学部である健康生活学部と情報メディア学部の卒業生を想定している。健康生活学部と情報メディア学部の入学者の多くは愛知県、岐阜県である。そのため、学生募集地域は東海地区（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）を想定し、学生募集活動を行う。

【資料 2：新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）】

④既設組織の定員充足の状況

健康生活学部健康栄養学科（以下、健康栄養学科という。）の直近 5 年間（平成 31 年度～令和 5 年度）の入学定員充足率は 0.88 倍～1.16 倍（平均：1.01 倍）である。入学定員は 80

名で直近5年間の平均入学者は80名である。直近5年間の志願者数は平均241名である。健康栄養学科は管理栄養士養成課程であり、栄養士免許及び管理栄養士国家試験受験資格を取得することができる。管理栄養士への学びは需要もあるため、入学定員は充足できる見通しである。

健康生活学部フードビジネス学科（以下、フードビジネス学科という。）の直近5年間（平成31年度～令和5年度）の入学定員充足率は0.69倍～1.03倍（平均：0.83倍）である。入学定員は70名で直近5年間の平均入学者は58名である。直近5年間の志願者数は平均102名である。フードビジネス学科は近隣に同様の教育課程の大学がないため、教育内容の広報を強化することにより、入学定員の確保に努める。

情報メディア学部情報メディア学科（以下、情報メディア学科という。）の直近5年間（平成31年度～令和5年度）の入学定員充足率は1.08倍～1.24倍（平均：1.17倍）であり、入学定員（100名）を安定的に確保しており、平均117名の入学者数で推移している。情報メディア学科における直近5年間の志願者数は平均530名であり、実志願者数でも平均400名程あり、安定的に志願者を確保しており、引き続き情報分野への学びの需要も高く、入学定員を充足できる見通しである。

【資料3：既設学科等の収容定員の充足状況（別紙2の1）、既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近5年間）健康栄養学科（別紙2の2-1）、フードビジネス学科（別紙2の2-2）、情報メディア学科（別紙2の2-3）】

(3) 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学は認知度の維持拡大のための広報を継続している。また、Web 広報の強化も継続実施し、メディアミックスによる動画配信、SNS 広告の効果測定に基づき効率の良い広報により、志願者数アップを目指している。広報の一つとして、本学ホームページや各種受験業者媒体への資料請求者に対して、大学案内等、募集資料を送付しており、その過程でオープンキャンパス（年間7回）への参加、出願の促進をしている。それら広報の効果もあり、令和4年度入試と令和5年度入試における各学科のオープンキャンパス参加者数は、前年対比で増加傾向である。また、オープンキャンパス参加からの受験率については、健康生活学部健康栄養学科（以下、健康栄養学科という。）は29.8%から27.1%と下がったが、受験者数と入学者数ともに増えた。健康生活学部フードビジネス学科（以下、フードビジネス学科という。）は28.3%から43.8%と受験率は上がり、受験者数と入学者数ともに増えた。情報メディア学部情報メディア学科（以下、情報メディア学科という。）は、オープンキャンパス参加者は微増したものの、受験率は30.2%から22.8%と下がったが、定員充足率は100%を超えている。資料請求数においても前年対比で健康栄養学科、フードビジネス学科ともに増加、

受験率・入学率も上昇し、広報の取組みが実を結んでいる。情報メディア学科の定員充足率は100%だが、前年対比で資料請求数が落ちているので、より良い広報を選択しながら資料請求数を上げていき、そこからの受験率を高め、入学生に繋げていくことで継続的な定員充足に努める。

【資料4：既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績（別紙3）】

イ 新設組織における取組とその目標

本研究科の入学者は基礎の学部となる情報メディア学部と健康生活学部の卒業生を想定している。そのため、学部在学中の早期に大学院の情報を提供するとともに、学内にてガイダンスを実施し、大学院進学希望者を把握し個別対応を行い、定員確保に努める。また、学部在学学生以外の大学院進学希望者にも本学ホームページに大学院の情報を掲載し、いつでも閲覧でき資料請求ができる体制を整えることで、定員確保に努める。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

健康栄養学科、フードビジネス学科、情報メディア学科で取り組んでいるオープンキャンパスの令和4年度入試と令和5年度入試の平均入学率は24.7%であり、資料請求においては平均入学率10.1%である。

大学院設置構想に係るアンケートでは在学学生29名、卒業生9名、社会人121名が受験意思を示している。オープンキャンパスの参加者は在学学生と卒業生を想定している。資料請求においては在学学生、卒業生、社会人、他大学の学生からの請求を見込んでいる。それぞれの平均入学率や東海地区の私立競合校の定員充足状況から5名の入学者を見込んでいる。

②競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

競合校として、学校種、定員規模、所在地、学力層の類似性のある他大学院から、学問分野として、本学が設置する健康情報学と一概に合致する研究科は見られないが、情報科学をカリキュラムとして開講している6校、管理栄養士を養成する学部の卒業生の進学先となっている大学院で栄養学・健康科学をカリキュラムとして開講している5校の計11校について状況分析を行った（表1）。

なお、愛知工業大学大学院経営情報科学研究科（M）の入学定員が40名と本学と比べ多いが、他の類似性がある為、比較対象として分析を行った。また、愛知淑徳大学大学院文化創造研究科（M）については、情報デザイン・システム専修が設置されているが、1専攻を募集単位として6専修に区分されている為、1専修との比較が困難である為、ここでは比較対象外とした。

表1 競合校

大学院名等	所在地	入学定員	収容定員
愛知工業大学大学院 経営情報科学研究科 (M)	愛知県名古屋市	40 人	80 人
岐阜聖徳学園大学大学院 経済情報研究科 (M)	岐阜県岐阜市	10 人	20 人
南山大学大学院 理工学研究科 データサイエンス専攻 (M)	愛知県名古屋市	10 人	20 人
名城大学大学院 都市情報学研究科 (M)	愛知県名古屋市	6 人	12 人
大同大学大学院 情報学研究科 (M)	愛知県名古屋市	6 人	12 人
中京大学大学院 工学研究科 情報工学専攻 (M)	愛知県豊田市	8 人	16 人
名古屋学芸大学大学院 栄養科学研究科 (M)	愛知県日進市	5 人	10 人
椋山女学園大学大学院 生活科学研究科 食品栄養科学専攻 (M)	愛知県名古屋市	6 人	12 人
至学館大学大学院 健康科学研究科 (M)	愛知県大府市	10 人	20 人
愛知学院大学大学院 心身科学研究科 健康科学専攻 (M)	愛知県日進市	10 人	20 人
愛知みずほ大学大学院 人間科学研究科 心身健康科学専攻 (M)	名古屋市瑞穂区	15 人	30 人

上記の競合校と本研究科を比較分析すると、競合校は主に、情報科学、情報工学、経済学または栄養学・健康科学を特色とした学問分野であるが、本研究科では「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを特色としており、他とは差別化した学問分野、教育課程であることから優位性が高いと言える。

また、後述する本研究科の学費は、他大学院に対する一定の競争力を保持するとともに、本学の既存学部との整合性にも鑑みた設定とし、競合校と比べ低額に設定している点も優位性が高いと言える。

イ 競合校の入学志願動向等

アに挙げた競合校の過去3年間の入学志願動向等を以下に示す(表2)。

この11校の入学定員充足率では、充足率をある程度安定して満たしているのは、愛知工

業大学大学院（3年間の入学者数平均31人、入学定員充足率1.13）、令和5年度に開設された南山大学大学院（入学者数9人、入学定員充足率0.9）、大同大学大学院（3年間の入学者数平均4人、入学定員充足率0.72）、中京大学大学院（3年間の入学者数平均8人、入学定員充足率0.96）、名古屋学芸大学大学院（3年間の入学者数平均8人、入学定員充足率1.67）、至学館大学大学院（3年間の入学者数平均12人、入学定員充足率1.23）と、情報科学系が4校、栄養学・健康科学系が2校の6校である。岐阜聖徳学園大学大学院（3年間の入学者数平均1人、入学定員充足率0.10）、名城大学大学院（3年間の入学者数平均2人、入学定員充足率0.31）、相山女学園大学大学院（3年間の入学者数平均1人、入学定員充足率0.22）、愛知学院大学大学院（3年間の入学者数平均3人、入学定員充足率0.33）、愛知みずほ大学大学院（3年間の入学者数平均3人、入学定員充足率0.20）の5校については、入学定員充足率は低くなっている。

上記の11校の入学定員充足率の現状を鑑みると、充足率をある程度安定して満たしている研究科はあるものの、本学において設置構想中の研究科の入学定員充足に向けた対応や取り組みが大きな課題になると言える。

そこで、競合校の入学志願動向等、学生確保に関するアンケート調査結果を踏まえ、教育研究体制や社会的ニーズ、教育の質保証を総合的に勘案し、安定して学生の確保が可能である入学定員5名とした。

表2 競合校の過去3年間の入学志願動向等

大学院名等	年度	入学定員 (人)	志願者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 充足率
愛知工業大学大学院 経営情報科学研究科 (M)	令和3	18	—	—	36	2.00
	令和4	43	—	—	32	0.74
	令和5	40	—	—	26	0.65
岐阜聖徳学園大学大学院 経済情報研究科 (M)	令和3	10	—	—	1	0.10
	令和4	10	—	—	2	0.20
	令和5	10	—	—	0	0.00
南山大学大学院 理工学研究科 データサイエンス専攻 (M)	令和3	令和5年度開設				
	令和4					
	令和5	10	—	—	9	0.90
名城大学大学院 都市情報学研究科 (M)	令和3	8	—	—	1	0.10
	令和4	6	—	—	3	0.50
	令和5	6	—	—	2	0.33
大同大学大学院 情報学研究科 (M)	令和3	6	—	—	6	1.00
	令和4	6	—	—	3	0.50
	令和5	6	—	—	4	0.67
中京大学大学院 工学研究科 情報工学専攻 (M)	令和3	8	8	7	6	0.75
	令和4	8	6	6	6	0.75
	令和5	8	13	13	11	1.38
名古屋学芸大学大学院	令和3	5	10	9	9	1.80

栄養科学研究科 (M)	令和4	5	6	6	6	1.20
	令和5	5	10	10	10	2.00
椋山女学園大学大学院 生活科学研究科 食品栄養科学専攻 (M)	令和3	6	2	2	2	0.33
	令和4	6	1	1	1	0.17
	令和5	6	2	1	1	0.17
至学館大学大学院 健康科学研究科 (M)	令和3	10	11	11	11	1.10
	令和4	10	17	—	14	1.40
	令和5	10	12	12	12	1.20
愛知学院大学大学院 心身科学研究科 健康科学専攻 (M)	令和3	10	2	2	2	0.20
	令和4	10	4	4	4	0.40
	令和5	10	4	4	4	0.40
愛知みずほ大学大学院 人間科学研究科 心身健康科学専攻 (M)	令和3	15	—	—	7	0.47
	令和4	15	—	—	0	0.00
	令和5	15	2	2	2	0.13

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

イで記載した通り、11校の競合校における入学定員充足率の現状を鑑みると、充足率がある程度安定して満たしている研究科はあるものの、入学定員充足に向けた対応や取り組みが大きな課題になっていると言える。

本研究科では「健康情報学」を基盤とし、他の大学院とは差別化した学問分野、教育課程を開設し本学独自の特色としている点、及び本研究科の学費は、競合校と比べ低額に設定している点は競合校と比べ優位性が高いと言える。

また、競合校では、入学定員を5名～43名で設定しているが、本研究科では、入学定員を5名としており、他とは比べ同数（1校）または少ない人数を設定している。これは、後述する、特に学生確保に重要となる本学在学学生への入学意向アンケート調査において、令和7（2025）年度に本大学院に進学を強く希望する者は7名となっている点からも、入学定員5名とすることにより長期的に安定した学生の確保が可能であると言える。

以上のことから、**本研究科が予定する入学定員の5名の確保は十分に可能であると判断する。**

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本研究科の学生納付金は、入学金200,000円、授業料600,000円、教育充実費100,000円であり、2年間総額で1,600,000円（初年度900,000円）と設定している。

この学生納付金の設定は、競合校と比較すると愛知みずほ大学大学院よりは高い設定ではあるが、他10校の大学院と比べると安価である（表3）。「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」という目的達成のため、本学が提供する教育内容並びに学修環境等に関し、妥当な金額として社会から理解を得られると考えている。

表3 学生納付金

大学院名等	入学金	授業料	その他 (教育充実費)	初年次納付金 合計
名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 (M)	200,000	600,000	100,000	900,000
愛知工業大学大学院 経営情報科学研究科 (M)	130,000	730,000	230,000	1,090,000
岐阜聖徳学園大学大学院 経済情報研究科 (M)	300,000	700,000	360,000	1,360,000
南山大学大学院 理工学研究科 データサイエンス専攻 (M)	300,000	654,000	105,000	1,059,000
名城大学大学院 都市情報学研究科 (M)	130,000	640,000	220,000	990,000
大同大学大学院 情報学研究科 (M)	150,000	535,800	305,000	990,800
中京大学大学院 工学研究科 情報工学専攻 (M)	200,000	505,000	345,000	1,050,000
名古屋学芸大学大学院 栄養科学研究科 (M)	100,000	765,000	190,000	1,055,000
椋山女学園大学大学院 生活科学研究科 食品栄養科学専攻 (M)	200,000	500,000	311,750	1,011,750
至学館大学大学院 健康科学研究科 (M)	200,000	510,000	270,000	980,000
愛知学院大学大学院 心身科学研究科 健康科学専攻 (M)	220,000	660,000	153,800	1,033,800
愛知みずほ大学大学院 人間科学研究科 心身健康科学専攻 (M)	200,000	410,000	150,000	760,000

③先行事例分析

該当なし

④学生確保に関するアンケート調査

名古屋文理大学大学院が令和7(2025)年度に設置構想中の「健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程(仮称)」における学生確保の見通しを計る為、令和6年1月から2月にかけて、本研究科に令和7(2025)年度入学対象となる「名古屋文理大学情報メディア学部／健康生活学部」に在学する学部3年生、「名古屋文理大学情報メディア学部／健康生活学

部の令和元年度～令和4年度の卒業生」、及び「東海4県（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）の社会人（22～60歳）」の3種類の「設置構想についての入学意向アンケート調査」を実施した（資料5）。

なお、本アンケート調査の実施時点では入学定員（収容定員）10名（20名）となっているが、本アンケート調査及び他大学院の状況の結果を踏まえ、入学定員（収容定員）5名（10名）と変更しており、この変更による本アンケート調査結果は有効である。

【資料5：名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）設置構想に関する在学生／卒業生／社会人アンケート調査【学生確保の見通し調査】報告書】

④-1 在学生への入学意向アンケート調査

本学学部生への入学意向アンケート調査では、令和7（2025）年度に大学院進学が見込まれる「名古屋文理大学情報メディア学部／健康生活学部」に在学する学部3年生」を調査対象として実施した（表4）。

表4 在学生への入学意向アンケート調査の概要

調査名	名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称・設置構想中） 設置構想についてのアンケート調査」
調査対象	名古屋文理大学情報メディア学部／健康生活学部」に在学する学部3年生（2025（令和7）年度に大学院進学が見込まれる学年）
調査内容	全10問で選択肢式
調査時期	2024（令和6）年1月
調査方法	名古屋文理大学の教職員が在学生にアンケート用紙を配布し、任意で回答を求めた。
回収件数	有効回答数：207件

調査の結果、「大学院進学」（問4）かつ「私立」（問5）かつ興味のある学問分野「情報工学、情報科学、栄養学、健康科学のいずれか」（問6）かつ「第一志望として受験する」（問8）かつ「入学する」（問9）かつ入学を希望する時期「2025年4月」（問10）と回答した者は7名であった。

④-2 卒業生への入学意向アンケート調査

本学卒業生への入学意向アンケート調査では、令和7（2025）年度に大学院進学が見込まれる「名古屋文理大学情報メディア学部／健康生活学部の令和元年度～令和4年度の卒業生」を調査対象として実施した（表5）。

表5 卒業生への入学意向アンケート調査の概要

調査名	名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称・設置構想中） 設置構想についてのアンケート調査」
調査対象	名古屋文理大学情報メディア学部／健康生活学部（当該研究科の基礎となる学部）の2019（令和元）～2022（令和4）年度の卒業生 921人
調査内容	全 12 問で選択肢式
調査時期	2024（令和6）年1～2月
調査方法	卒業生の住所にアンケート用紙を郵送して依頼した。紙と WEB のいずれかを任意で選択してもらい回答を得た。
回収件数	有効回答数：38件（回収率4.1%）

調査の結果、「(大学院進学に) 興味がある」(問 6) かつ「私立」(問 7) かつ興味のある学問分野「情報工学、情報科学、栄養学、健康科学のいずれか」(問 8) かつ「第一志望として受験する」(問 10) かつ「入学する」(問 11) かつ入学を希望する時期「2025 年 4 月」(問 12) と**回答した者は 3 名**であった。

④-3 社会人への入学意向アンケート調査

社会人への入学意向アンケート調査では、令和 7（2025）年度に大学院進学が見込まれる「東海 4 県（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）の社会人（22～60 歳）」を調査対象として実施した（表 6）。

表 6 社会人への入学意向アンケート調査の概要

調査名	名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称・設置構想中） 設置構想についてのアンケート調査」
調査対象	東海4県（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）の社会人（22～60歳）
調査内容	全 15 問で選択肢式
調査時期	2024（令和6）年2月
調査方法	インターネット調査会社（株式会社クロス・マーケティング）の社会人モニタに対して WEB でアンケートを実施した。
回収件数	回収件数：1,538件

調査の結果、「大学院修士課程に入学可能な学歴」(問 5) かつ「(大学院（修士課程）進学に) 興味がある」(問 9) かつ「私立」(問 10) かつ興味のある学問分野「情報工学、情報科学、栄養学、健康科学のいずれか」(問 11) かつ「第一志望として受験する」(問 13) かつ「入学する」(問 14) かつ入学を希望する時期「2025 年 4 月」(問 15) と**回答した者は 9 名**であった。

④-1、④-2、④-3 の調査の結果、強い入学意欲を示す者は 19 人（7 人+3 人+9 人）であった。これは、本研究科が予定する入学定員の 5 名を大きく上回る結果であることから、入学定員の確保は十分に可能であると判断する。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

名古屋文理大学大学院が令和 7（2025）年度に設置構想中の「健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）」における人材需要の見通しを計る為、令和 6 年 1 月から 2 月にかけて、本研究科の修了生の採用が期待される愛知県を中心とした企業・団体等に「設置構想についての採用意向アンケート調査」を実施した（資料 6、表 7）。

【資料 6：名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）設置構想についてのアンケート調査【人材需要アンケート調査】報告書】

表 7 採用意向アンケート調査の概要

調査名	名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称・設置構想中） 設置構想についての採用意向アンケート調査」
調査対象	当該研究科の修了生の採用が期待される愛知県を中心とした企業・団体等の計1,098件を対象とした。
調査内容	全 7 問で選択枝式 6 問、記述式 1 問
調査時期	2024（令和6）年1月～2月
調査方法	調査対象先の人事・採用担当者宛に依頼状、概要説明リーフレット、アンケート調査用紙 1 部、返送用封筒を送付した。ご協力いただける場合は、アンケート調査用紙または WEB フォームにより回答を得た。
回収件数	有効回答数：149件（回収率13.6%）

調査の結果、当該修了生の採用意向（問 5）の質問では、「採用したい」が 36 件（24.2%）、「採用を検討したい」が 92 件（61.7%）であり、合計すると 128 件（85.9%）と約 9 割の多くの採用の意向があることが示された。

また、この 128 件の企業・団体等から示された具体的な単年度の採用可能人数は 127 人であった。これは、本研究科が予定する入学定員の 5 名を大きく上回る結果である。

以上より、名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）」における養成する人材に対する社会からの人材需要は大きいと考える。

(4) 新設組織の定員設定の理由

社会的課題である、高度 IT 人材の育成並びに高齢化の進展による一次予防の重要性が高

まるなか、それらの領域を探求し、情報技術と健康科学の素養をもって課題解決にあたることのできる「健康を応用分野とする高度情報人材」の需要は高いと判断し、当初計画においては、入学定員 10 名を想定していたが、東海地区の私立競合校の定員充足状況や継続性及び確実性のある入学者確保に鑑み、入学定員を 5 名とする。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

資料 1.	リクルート進学総研 マーケットリポート 2023 -18 歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向 東海版	P2
資料 2.	新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）	P17
資料 3.	既設学科等の収容定員の充足状況（別紙 2 の 1） 既設学科等の入学定員・収容定員・の充足状況（直近 5 年間） 健康栄養学科（別紙 2 の 2-1）、フードビジネス学科（別紙 2 の 2-2）、 情報メディア学科（別紙 2 の 2-3）	P18
資料 4.	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙 3）	P22
資料 5.	名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称） 設置構想に関する在学生／卒業生／社会人アンケート調査 【学生確保の見通し調査】報告書	P23
資料 6.	名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称） 設置構想についてのアンケート調査【人材需要アンケート調査】報告書	P77

著作権者の許諾が得られない書類等について

1 (書類等の題名)

リクルート進学総研 マーケットレポート 2023 (2024年2月号) 【資料1】
-18歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向 東海版-

2 (出典)

株式会社リクルート リクルート進学総研

3 (引用範囲)

- ・リクルート進学総研 マーケットレポート 2023 (2024年2月号)
-18歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向 東海版-
https://souken.shingakunet.com/research/pdf/2023_souken_report/2023_tokai_souken_report.pdf

4 (その他の説明)

18歳人口の地域的動向や進学者の地元残留率について上記資料を用いて説明を行った。

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1			#DIV/0!
2			#DIV/0!
3			#DIV/0!
4			#DIV/0!
5			#DIV/0!
	全 体		#DIV/0!

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	理・工学系研究科（大学院）	96.22%	97.26%	102.95%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

○収容定員充足率

申請者が設置する全ての大学等（大学、短期大学、高等専門学校のみ）の既設の学部（短期大学又は高等専門学校は学科）について記載してください。

大学等名	学部等名	学科名	収容定員	学生数 (令和5年5月1日現在)	収容定員充足率	備考
名古屋文理大学	健康生活学部		604人	536人	0.88	
		健康栄養学科	324人	304人	0.93	
		フードビジネス学科	280人	232人	0.82	
	情報メディア学部		400人	455人	1.13	
		情報メディア学科	400人	455人	1.13	
名古屋文理大学短期大学部	食物栄養学科		380人	177人	0.46	
		栄養士専攻	300人	134人	0.44	
		製菓専攻	80人	43人	0.53	

※上記には、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項を適用した場合の学生数及び収容定員充足率を記入してください。その場合は、備考にその内訳を記入してください。
 ※大学院、専攻科、別科、募集停止を行った学部等については記載不要です。
 ※行は適宜追加してください。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）
 大学学部学科等名：健康生活学部健康栄養学科

別紙2の2-1

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	4人	6人	6人	6人	8人	6人	
	延べ人数	志願者数	20人	30人	25人	28人	33人	27人
		受験者数	20人	29人	25人	28人	33人	27人
		合格者数	15人	26人	25人	24人	32人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	19人	30人	25人	28人	33人	27人
		受験者数	19人	29人	25人	28人	33人	27人
		合格者数	14人	26人	25人	24人	32人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	15人	26人	25人	24人	32人	24人	
	学校推薦型選抜	募集人数	24人	24人	24人	24人	22人	24人
		延べ人数	志願者数	60人	49人	70人	47人	48人
受験者数			59人	49人	66人	46人	48人	54人
合格者数			57人	48人	62人	45人	43人	51人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			3人	0人	3人	0人	1人	1人
実人数		志願者数	59人	43人	69人	46人	46人	53人
		受験者数	58人	43人	65人	45人	46人	51人
		合格者数	57人	43人	62人	45人	43人	50人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	0人	3人	0人	1人	1人
入学者数		45人	38人	53人	32人	31人	40人	
一般選抜		募集人数	42人	41人	41人	41人	41人	41人
		延べ人数	志願者数	135人	130人	128人	47人	56人
	受験者数		128人	125人	120人	41人	52人	93人
	合格者数		110人	88人	42人	32人	43人	63人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		5人	0人	2人	1人	1人	2人
	実人数	志願者数	110人	113人	80人	33人	38人	75人
		受験者数	104人	108人	73人	28人	37人	70人
		合格者数	87人	80人	73人	26人	32人	60人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	0人	2人	1人	1人	2人
	入学者数	28人	21人	3人	12人	6人	14人	
	共通テスト利用入試	募集人数	10人	9人	9人	9人	9人	9人
		延べ人数	志願者数	78人	79人	77人	23人	41人
受験者数			78人	79人	77人	23人	41人	60人
合格者数			49人	58人	23人	18人	37人	37人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			1人	0人	0人	1人	0人	0人
実人数		志願者数	53人	59人	52人	17人	27人	42人
		受験者数	53人	59人	52人	17人	27人	42人
		合格者数	33人	45人	12人	13人	25人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
入学者数		5人	3人	0人	2人	1人	2人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数					
	受験者数							#DIV/0!
	合格者数							#DIV/0!
	うち追加合格者数							#DIV/0!
	辞退者数							#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数						#DIV/0!	
	合計	募集人数	80人	80人	80人	80人	80人	80人
		延べ人数	志願者数	293人	288人	300人	145人	178人
受験者数			285人	282人	288人	138人	174人	233人
合格者数			231人	220人	152人	119人	155人	175人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			9人	0人	5人	2人	2人	4人
実人数		志願者数	241人	245人	226人	124人	144人	196人
		受験者数	234人	239人	215人	118人	143人	190人
		合格者数	191人	194人	172人	108人	132人	159人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	0人	5人	2人	2人	4人
入学者数		93人	88人	81人	70人	70人	80人	

2. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	1.16	1.10	1.01	0.88	0.88	1.01
歩留率	0.40	0.40	0.53	0.59	0.45	0.48

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	7人	7人	7人	7人	7人	7人	
	延べ人数	志願者数	22人	16人	14人	16人	25人	19人
		受験者数	22人	16人	14人	16人	25人	19人
		合格者数	22人	16人	14人	14人	25人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	22人	16人	14人	16人	25人	19人
		受験者数	22人	16人	14人	16人	25人	19人
		合格者数	22人	16人	14人	14人	25人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	21人	21人	14人	12人	25人	19人	
	学校推薦型選抜	募集人数	25人	25人	25人	25人	25人	25人
		延べ人数	志願者数	22人	27人	19人	29人	21人
受験者数			22人	27人	19人	29人	21人	24人
合格者数			22人	27人	19人	29人	21人	24人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	21人	24人	19人	29人	21人	23人
		受験者数	21人	24人	19人	29人	21人	23人
		合格者数	21人	24人	19人	29人	21人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		22人	22人	18人	26人	21人	22人	
一般選抜		募集人数	30人	30人	30人	30人	30人	30人
		延べ人数	志願者数	44人	42人	30人	28人	25人
	受験者数		44人	38人	28人	27人	25人	32人
	合格者数		44人	38人	28人	22人	22人	31人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		4人	1人	2人	1人	3人	2人
	実人数	志願者数	35人	36人	21人	15人	16人	25人
		受験者数	35人	34人	21人	15人	16人	24人
		合格者数	35人	34人	21人	14人	16人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	1人	2人	1人	3人	2人
	入学者数	27人	21人	16人	9人	7人	16人	
	共通テスト利用入試	募集人数	8人	8人	8人	8人	8人	8人
		延べ人数	志願者数	35人	29人	26人	23人	16人
受験者数			35人	29人	26人	23人	16人	26人
合格者数			25人	18人	22人	18人	15人	20人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	1人	0人	1人	0人
実人数		志願者数	26人	21人	18人	14人	13人	18人
		受験者数	26人	21人	18人	14人	13人	18人
		合格者数	18人	15人	14人	11人	13人	14人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	1人	0人
入学者数		2人	2人	4人	1人	0人	2人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数					
	受験者数							#DIV/0!
	合格者数							#DIV/0!
	うち追加合格者数							#DIV/0!
	辞退者数							#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数						#DIV/0!	
	合計	募集人数	70人	70人	70人	70人	70人	70人
		延べ人数	志願者数	123人	114人	89人	96人	87人
受験者数			123人	110人	87人	95人	87人	100人
合格者数			113人	99人	83人	83人	83人	92人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			4人	1人	3人	1人	4人	3人
実人数		志願者数	104人	97人	72人	74人	75人	84人
		受験者数	104人	95人	72人	74人	75人	84人
		合格者数	96人	89人	68人	68人	75人	79人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	1人	3人	1人	4人	3人
入学者数		72人	66人	52人	48人	53人	58人	

2. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	70人	70人	70人	70人	70人	70人
入学定員充足率	1.03	0.94	0.74	0.69	0.76	0.83
歩留率	0.64	0.67	0.63	0.58	0.64	0.63

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	10人	10人	10人	10人	10人	10人	
	延べ人数	志願者数	31人	40人	27人	67人	62人	45人
		受験者数	31人	40人	27人	65人	62人	45人
		合格者数	29人	33人	18人	34人	32人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	31人	40人	27人	67人	62人	45人
		受験者数	31人	40人	27人	65人	62人	45人
		合格者数	29人	33人	18人	34人	32人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	28人	32人	18人	29人	30人	27人	
	学校推薦型選抜	募集人数	29人	29人	29人	29人	29人	29人
		延べ人数	志願者数	47人	105人	115人	80人	78人
受験者数			46人	104人	115人	79人	75人	84人
合格者数			45人	73人	97人	56人	57人	66人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			2人	0人	0人	1人	0人	1人
実人数		志願者数	47人	100人	112人	77人	72人	82人
		受験者数	46人	99人	112人	76人	70人	81人
		合格者数	45人	73人	97人	55人	57人	65人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	0人	0人	1人	0人	1人
入学者数		41人	72人	96人	53人	54人	63人	
一般選抜		募集人数	45人	45人	45人	45人	45人	45人
		延べ人数	志願者数	237人	374人	285人	185人	175人
	受験者数		223人	358人	272人	161人	166人	236人
	合格者数		88人	39人	26人	62人	57人	54人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		1人	1人	0人	1人	1人	1人
	実人数	志願者数	190人	256人	166人	113人	106人	166人
		受験者数	178人	243人	156人	95人	104人	155人
		合格者数	71人	37人	23人	48人	47人	45人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	0人	1人	1人	1人
	入学者数	44人	18人	6人	23人	23人	23人	
	共通テスト利用入試	募集人数	16人	16人	16人	16人	16人	16人
		延べ人数	志願者数	176人	259人	143人	90人	76人
受験者数			176人	259人	143人	90人	76人	149人
合格者数			57人	13人	8人	14人	13人	21人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			2人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	136人	181人	105人	61人	57人	108人
		受験者数	136人	181人	105人	61人	57人	108人
		合格者数	41人	11人	8人	14人	13人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		9人	2人	1人	3人	2人	3人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数					
	受験者数							#DIV/0!
	合格者数							#DIV/0!
	うち追加合格者数							#DIV/0!
	辞退者数							#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数						#DIV/0!	
	合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
		延べ人数	志願者数	491人	778人	570人	422人	391人
受験者数			476人	761人	557人	395人	379人	514人
合格者数			219人	158人	149人	166人	159人	170人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			5人	1人	0人	2人	1人	2人
実人数		志願者数	404人	577人	410人	318人	297人	401人
		受験者数	391人	563人	400人	297人	293人	389人
		合格者数	186人	154人	146人	151人	149人	157人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	1人	0人	2人	1人	2人
入学者数		122人	124人	121人	108人	109人	117人	

2. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入学定員充足率	1.22	1.24	1.21	1.08	1.09	1.17
歩留率	0.56	0.78	0.81	0.65	0.69	0.70

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：健康生活学部健康栄養学科 オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	240人	354人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、在学生との懇談、施設案内を実施。 R4年度入試対象(R2開催)：計7回開催(3/25.6/13.7/18.7/31.8/21.9/5.10/31) R5年度入試対象(R3開催)：計7回開催(3/24.6/12.7/17.7/30.8/20.9/4.10/30)
うち受験対象者数(b)	188人	251人	
うち受験者数(c)	56人	68人	
うち入学者数(d)	45人	48人	
(受験率 c/b)	29.8%	27.1%	
(入学率 d/b)	23.9%	19.1%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：健康生活学部健康栄養学科 資料請求

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	754人	767人	①取組概要 本学HPや各種受験業者媒体への資料請求希望者に対し、大学案内等、募集資料の送付。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 大学院構想の入口アンケートより受験希望者は160名程度と予想され、資料請求の平均入学率や東海地区の私立競合校の定員充足状況から5名の入学者を見込んでいる。
うち受験対象者数(b)	420人	298人	
うち受験者数(c)	74人	86人	
うち入学者数(d)	50人	53人	
(受験率 c/b)	17.6%	28.9%	
(入学率 d/b)	11.9%	17.8%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：健康生活学部フードビジネス学科 オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	123人	152人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、在学生との懇談、施設案内を実施。 R4年度入試対象(R2開催)：計7回開催(3/25.6/13.7/18.7/31.8/21.9/5.10/31) R5年度入試対象(R3開催)：計7回開催(3/24.6/12.7/17.7/30.8/20.9/4.10/30)
うち受験対象者数(b)	96人	105人	
うち受験者数(c)	27人	46人	
うち入学者数(d)	23人	44人	
(受験率 c/b)	28.1%	43.8%	
(入学率 d/b)	24.0%	41.9%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：健康生活学部フードビジネス学科 資料請求

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	385人	1040人	①取組概要 本学HPや各種受験業者媒体への資料請求希望者に対し、大学案内等、募集資料の送付。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 大学院構想の入口アンケートより受験希望者は160名程度と予想され、資料請求の平均入学率や東海地区の私立競合校の定員充足状況から5名の入学者が見込んでいる。
うち受験対象者数(b)	280人	156人	
うち受験者数(c)	43人	55人	
うち入学者数(d)	32人	48人	
(受験率 c/b)	15.4%	35.3%	
(入学率 d/b)	11.4%	30.8%	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：情報メディア学部情報メディア学科 オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	274人	371人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、在学生との懇談、施設案内を実施。 R4年度入試対象(R2開催)：計7回開催(3/25.6/13.7/18.7/31.8/21.9/5.10/31) R5年度入試対象(R3開催)：計7回開催(3/24.6/12.7/17.7/30.8/20.9/4.10/30)
うち受験対象者数(b)	212人	254人	
うち受験者数(c)	64人	58人	
うち入学者数(d)	47人	44人	
(受験率 c/b)	30.2%	22.8%	
(入学率 d/b)	22.2%	17.3%	

⑥募集を行った学科等名称及び取組の名称：情報メディア学部情報メディア学科 資料請求

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	1831人	1712人	①取組概要 本学HPや各種受験業者媒体への資料請求希望者に対し、大学案内等、募集資料の送付。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 大学院構想の入口アンケートより受験希望者は160名程度と予想され、資料請求の平均入学率や東海地区の私立競合校の定員充足状況から5名の入学者を見込んでいる。
うち受験対象者数(b)	697人	622人	
うち受験者数(c)	127人	116人	
うち入学者数(d)	66人	61人	
(受験率 c/b)	18.2%	18.6%	
(入学率 d/b)	9.5%	9.8%	

名古屋文理大学大学院
健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）
設置構想に関する在学生／卒業生／社会人
アンケート調査
【学生確保の見通し調査】
報告書

令和6年2月24日
株式会社高等教育総合研究所

目次

1.	在學生アンケート調査	2
	(1) 在學生アンケート調査の概要	2
	(2) 在學生アンケート調査の集計結果	3
	(3) 在學生アンケート調査集計結果の分析	7
2.	卒業生アンケート調査	8
	(1) 卒業生アンケート調査の概要	8
	(2) 卒業生アンケート調査の集計結果	9
	(3) 卒業生アンケート調査集計結果の分析	15
3.	社会人アンケート調査	17
	(1) 社会人アンケート調査の概要	17
	(2) 社会人アンケート調査の集計結果	18
	(3) 社会人アンケート調査集計結果の分析	27
4.	まとめ	29
	添付資料	30
	名古屋文理大学 大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（仮称）	
	・ 概要説明リーフレット	
	・ 在學生アンケート調査用紙(紙面)	
	・ 卒業生アンケート調査用紙(紙面およびWEB フォーム)	
	・ 社会人アンケート調査用紙(WEB フォーム)	

1. 在学生アンケート調査

(1) 在学生アンケート調査の概要

調査目的	本調査は、名古屋文理大学が2025（令和7）年4月に設置構想中の「大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）」（以下、当該研究科と記す）における学生確保の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	名古屋文理大学情報メディア学部／健康生活学部 に在学する学部3年生（2025（令和7）年度に大学院進学が見込まれる学年）
調査内容	<ul style="list-style-type: none">● 問 1：居住地● 問 2：性別● 問 3：学部・学科・学年● 問 4：進路● 問 5：希望する大学院の設置者種別● 問 6：興味のある学問分野● 問 7：当該研究科の特色● 問 8：当該研究科への受験意志● 問 9：当該研究科への入学意志● 問 10：当該研究科への入学を希望する時期 以上、全10問で選択肢式
調査時期	2024（令和6）年1月
調査方法	名古屋文理大学の教職員が在学生にアンケート用紙を配布し、任意で回答を求めた。
回収件数	有効回答数：207件
調査結果	受験意志：29人（14.0%）が受験意志（第一志望、第二志望、第三志望以降を含む）を示した。 入学意志：19人（9.2%）が入学意志を示した。 クロス集計：7人（3.4%）が「大学院進学」かつ「私立」かつ「情報工学、情報科学、栄養学、健康科学のいずれか」かつ「第一志望として受験する」かつ「入学する」かつ「2025年4月」と回答した。（p17参照）

(2) 在学生アンケート調査の集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、小数点第二位を四捨五入。そのため必ずしも 100.0%と一致しない。

問 1 あなたのお住まいをお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	愛知県	136	65.7%
2	岐阜県	37	17.9%
3	三重県	25	12.1%
4	その他	8	3.9%
	無回答・無効回答	1	0.5%
合計		207	100.0%

問 2 あなたの性別をお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	男性	96	46.4%
2	女性	107	51.7%
3	回答しない	4	1.9%
合計		207	100.0%

問 3 あなたが在籍している学科・学年をお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	情報メディア学部 情報メディア学科 2年生	0	0.0%
2	情報メディア学部 情報メディア学科 3年生	96	46.4%
3	情報メディア学部 情報メディア学科 4年生	0	0.0%
4	健康生活学部 フードビジネス学科 2年生	0	0.0%
5	健康生活学部 フードビジネス学科 3年生	45	21.7%
6	健康生活学部 フードビジネス学科 4年生	2	1.0%
7	健康生活学部 健康栄養学科 2年生	0	0.0%
8	健康生活学部 健康栄養学科 3年生	64	30.9%
9	健康生活学部 健康栄養学科 4年生	0	0.0%
合計		207	100.0%

問 4 あなたは大学卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数回答可)

選択項目		回答数(人)	回答率(%)
1	大学院進学	17	8.2%
2	就職	197	95.2%
3	その他	5	2.4%

※複数回答であるため、回答数は延べ。「回答率」=「回答数」/「回答者数」(207)

問 5 は問 4 で「大学院進学」と回答したもののみが対象である。

問 5 問 4 で「大学院進学」を選択された方のみお答えください。志望する大学院等の設置者を選択してください。(複数回答可)

選択項目		回答数(人)	回答率(%)
1	私立	14	82.4%
2	国立	9	52.9%
3	公立	7	41.2%

※複数回答であるため、回答数は延べ。「回答率」＝「回答数」／「回答者数」(17)

※問 4 で「大学院進学」と回答した 17 人が対象

問 6 学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。(複数回答可)

選択項目		回答数(人)	回答率(%)
1	情報工学	28	13.5%
2	機械工学	7	3.4%
3	電気通信工学	7	3.4%
4	土木建築工学	1	0.5%
5	工学その他	0	0.0%
6	情報科学	23	11.1%
7	数学	8	3.9%
8	物理学	4	1.9%
9	化学	6	2.9%
10	生物	8	3.9%
11	地学	1	0.5%
12	理学その他	0	0.0%
13	栄養学	47	22.7%
14	家政学	22	10.6%
15	被服学	14	6.8%
16	住居学	6	2.9%
17	家政その他	1	0.5%
18	健康科学	25	12.1%
19	教養学	5	2.4%
20	総合科学	1	0.5%
21	国際関係学	11	5.3%
22	人間関係科学	12	5.8%
23	その他	4	1.9%
24	看護学	3	1.4%
25	医学	3	1.4%
26	歯学	1	0.5%
27	薬学	10	4.8%
28	保健その他	1	0.5%
29	農学	9	4.3%
30	林学	0	0.0%
31	獣医学畜産学	1	0.5%

32	水産学	1	0.5%
33	農学その他	0	0%
34	文学	7	3.4%
35	史学	0	0.0%
36	哲学	6	2.9%
37	人文科学その他	0	0.0%
38	法学・政治学	12	5.8%
39	商学・経済学	10	4.8%
40	社会学	0	0.0%
41	社会科学その他	3	1.4%
42	教育学	14	6.8%
43	体育学	9	4.3%
44	教育その他	1	0.5%
45	美術	12	5.8%
46	デザイン	26	12.6%
47	音楽	32	15.5%
48	芸術その他	4	1.9%
49	商船	1	0.5%

※複数回答であるため、回答数は延べ。「回答率」＝「回答数」／「回答者数」(207)

問7 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)には以下の特色があります。あなたが興味・関心を持った内容を選んでください。(複数回答)

選択項目		回答数(人)	回答率(%)
1	「情報科学」の知識・技術を「健康科学」の分野に応用する	64	30.9%
2	「情報科学」と「健康科学」の領域を融合し新たな学問領域を開拓する	63	30.4%
3	地域の健康課題に対して「健康情報学」の発展を通して貢献する	39	18.8%

※複数回答であるため、回答数は延べ。「回答率」＝「回答数」／「回答者数」(207)

問8 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)を受験したいと思いますか。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	第一志望として受験する	12	5.8%
2	第二志望として受験する	10	4.8%
3	第三志望以降として受験する	7	3.4%
4	受験しない	144	69.6%
	無回答・無効回答	34	16.4%
合計		207	100.0%

問9 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	入学する	19	9.2%
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	19	9.2%
3	入学しない	133	64.3%
	無回答・無効回答	36	17.4%
合計		207	100.0%

問10は、問9で「入学する」と回答した19人が対象である。

問10 問9で「入学する」と回答された方にお尋ねします。入学を希望する時期をお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	2025年4月	16	84.2%
2	2026年4月	2	10.5%
3	2027年4月以降	1	5.3%
合計		19	100.0%

※問9で「入学する」と回答した19人が対象

(3) 在学生アンケート調査集計結果の分析

<6重クロス集計>

名古屋文理大学情報メディア学部／健康生活学部在学する学部3年生207人のうち、問4で卒業後の進路として「大学院進学」を選択したものは17人。そのうち問5で大学院の設置者として「私立」を選択したものは14人。さらに問6の興味のある学問分野で、当該研究科に関連する学問分野「情報工学」「情報科学」「栄養学」「健康科学」のすくなくとも1つを選択した者は12人であった。そのうち、問8の「名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（仮称）を受験したいと思いますか」に「第一志望として受験する」と選択した者は7人であり、かつ問9の「名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか」で、「入学する」を選択した者は7人、かつ入学を希望する時期として当該研究科の開設予定の「2025年4月」を選択したものは7人であった。

問4 進路	該 当 数	問5 設 置 者	該 当 数	問6 学 問分野	該 当 数	問8 受 験意志	該 当 数	問9 入学意志	該 当 数	問10 入学希望 時期	該 当 数		
大学院	17	私立	14	情報工学、情報科学、栄養学、健康科学のうちから少なくとも一つを選択	12	第一志望として受験する	7	入学する	7	2025年4月	7		
										2026年4月	0		
										2027年4月以降	0		
								志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	0	2025年4月	0		
										2026年4月	0		
										2027年4月以降	0		
								入学しない	0				
								第二志望として受験する	2	入学する	0	2025年4月	0
												2026年4月	0
						2027年4月以降	0						
						志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	2			2025年4月	1		
										2026年4月	0		
										2027年4月以降	0		
						無回答	1						
						入学しない	0						
第三志望以下として受験する	1	入学する	1	2025年4月	1								
				2026年4月	0								
				2027年4月以降	0								
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	0	2025年4月	0								
				2026年4月	0								
2027年4月以降	0												
入学しない	0												

2. 卒業生アンケート

(1) 卒業生アンケート調査の概要

調査目的	本調査は、名古屋文理大学が2025（令和7）年4月に設置構想中の「大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）」（以下、当該研究科と記す）における学生確保の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	名古屋文理大学情報メディア学部／健康生活学部（当該研究科の基礎となる学部）の2019（令和元）～2022（令和4）年度の卒業生921人
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 問1：居住地 ● 問2：性別 ● 問3：卒業した学部・学科 ● 問4：卒業年 ● 問5：リカレント教育・リスキリング教育への関心 ● 問6：大学院進学への関心 ● 問7：希望する大学院の設置者種別 ● 問8：興味のある学問分野 ● 問9：当該研究科の特色 ● 問10：当該研究科への受験意志 ● 問11：当該研究科への入学意志 ● 問12：当該研究科への入学を希望する時期 以上、全12問で選択肢式
調査時期	2024（令和6）年1～2月
調査方法	卒業生の住所にアンケート用紙を郵送して依頼した。紙とWEBのいずれかを任意で選択してもらい回答を得た。
回収件数	有効回答数 38件（回収率4.1%）
調査結果	受験意志：7人（回答者の18.4%）が受験意志（第一志望、第二志望、第三志望以降を含む）を示した。 入学意志：5人（同13.2%）が入学意志を示した。 クロス集計：3人（同7.9%）が「大学院進学に興味がある」かつ「私立」かつ「情報工学、情報科学、栄養学、健康科学のいずれか」かつ「第一志望として受験する」かつ「入学する」かつ「2025年4月」と回答した。（p16参照）

(2) 卒業生アンケート調査の集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、小数点第二位を四捨五入。そのため必ずしも 100.0%と一致しない。

問 1 あなたのお住まいをお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	愛知県	28	73.7%
2	岐阜県	5	13.2%
3	三重県	1	2.6%
4	その他	4	10.5%
		38	100.0%

問 2 あなたの性別をお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	男性	13	34.2%
2	女性	24	63.2%
3	回答しない	1	2.6%
合計		38	100.0%

問 3 あなたが卒業した学部・学科をお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	情報メディア学部 情報メディア学科(旧情報文化学部 情報文化学科・社会情報学科・情報メディア学科)	4	10.5%
2	健康生活学部 フードビジネス学科	6	15.8%
3	健康生活学部 健康栄養学科	18	47.4%
	無回答・無効回答	10	26.3%
合計		38	100.0%

問 4 あなたが卒業した年をお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	平成 15(2003)年	0	0.0%
2	平成 16(2004)年	0	0.0%
3	平成 17(2005)年	0	0.0%
4	平成 18(2006)年	0	0.0%
5	平成 19(2007)年	0	0.0%
6	平成 20(2008)年	0	0.0%
7	平成 21(2009)年	0	0.0%
8	平成 22(2010)年	0	0.0%
9	平成 23(2011)年	0	0.0%
10	平成 24(2012)年	0	0.0%
11	平成 25(2013)年	0	0.0%
12	平成 26(2014)年	0	0.0%
13	平成 27(2015)年	0	0.0%
14	平成 28(2016)年	0	0.0%
15	平成 29(2017)年	0	0.0%
16	平成 30(2018)年	0	0.0%
17	平成 31(2019)年	1	2.6%
18	令和 2(2020)年	3	7.9%
19	令和 3(2021)年	6	15.8%
20	令和 4(2022)年	14	36.8%
21	令和 5(2023)年	14	36.8%
合計		38	100.0%

問 5 あなたはリカレント教育やリスクリング教育に興味はありますか。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	回答率(%)
1	興味がある	20	52.6%
2	興味はない	6	15.8%
3	どちらでもない	12	31.6%
合計		38	100.0%

問 6 あなたは大学院進学に興味がありますか。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	興味がある	7	18.4%
2	興味はない	1	2.6%
3	分からない	13	34.2%
	無回答・無効回答	17	44.7%
合計		38	100.0%

問 7 問 6 で「大学院進学」を選択された方のみお答えください。志望する大学院等の設置者を洗濯してください。(複数回答可)

選択項目		回答数(人)	回答率(%)
1	私立	7	100.0%
2	国立	3	42.9%
3	公立	3	42.9%

※複数回答であるため、回答数は延べ。「回答率」＝「回答数」／「回答者数」(7)

※問 6 で「興味がある」と回答した 7 人が対象

問 8 あなたが興味のある学問分野を次の中から選択してください。(複数回答可)

選択項目		回答数(人)	回答率(%)
1	情報工学	8	21.1%
2	機械工学	0	0.0%
3	電気通信工学	0	0.0%
4	土木建築工学	0	0.0%
5	工学その他	0	0.0%
6	情報科学	12	31.6%
7	数学	2	5.3%
8	物理学	2	5.3%
9	化学	4	10.5%
10	生物	8	21.1%
11	地学	0	0.0%
12	理学その他	0	0.0%
13	栄養学	16	42.1%
14	家政学	6	15.8%
15	被服学	5	13.2%

16	住居学	1	2.6%
17	家政その他	3	7.9%
18	健康科学	10	26.3%
19	教養学	1	2.6%
20	総合科学	1	2.6%
21	国際関係学	4	10.5%
22	人間関係科学	8	21.1%
23	その他	1	2.6%
24	看護学	1	2.6%
25	医学	2	5.3%
26	歯学	1	2.6%
27	薬学	6	15.8%
28	保健その他	0	0.0%
29	農学	6	15.8%
30	林学	0	0.0%
31	獣医学畜産学	2	5.3%
32	水産学	1	2.6%
33	農学その他	0	0.0%
34	文学	1	2.6%
35	史学	0	0.0%
36	哲学	2	5.3%
37	人文科学その他	1	2.6%
38	法学・政治学	0	0.0%
39	商学・経済学	1	2.6%
40	社会学	2	5.3%
41	社会科学その他	0	0.0%
42	教育学	3	7.9%
43	体育学	2	5.3%
44	教育その他	1	2.6%
45	美術	0	0.0%
46	デザイン	0	0.0%
47	音楽	0	0.0%
48	芸術その他	0	0.0%
49	商船	0	0.0%

※複数回答であるため、回答数は延べ。「回答率」＝「回答数」／「回答者数」(38)

問 9 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)には以下の特色があります。あなたが興味・関心を持った内容を選んでください。(複数回答可)

選択項目		回答数(人)	回答率(%)
1	「情報科学」の知識・技術を「健康科学」の分野に応用する	17	44.7%
2	「情報科学」と「健康科学」の領域を融合し新たな学問領域を開拓する	21	55.3%
3	地域の健康課題に対して「健康情報学」の発展を通して貢献する	11	28.9%

※複数回答であるため、回答数は延べ。「回答率」＝「回答数」／「回答者数」(38)

問 10 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)を受験したいと思いませんか。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	第一志望として受験する	4	10.5%
2	第二志望として受験する	3	7.9%
3	第三志望以降として受験する	0	0.0%
4	受験しない	30	78.9%
	無回答・無効回答	1	2.6%
合計		38	100.0%

問 11 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	入学する	5	13.2%
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	3	7.9%
3	入学しない	2	5.3%
	無回答・無効回答	28	73.7%
合計		38	100.0%

問 12 は、問 11 で「入学する」と回答した 5 人が対象である。

問 12 問 11 で「入学する」と回答された方にお尋ねします。入学を希望する時期をお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	2025年4月	4	80.0%
2	2026年4月	0	0.0%
3	2027年4月以降	1	20.0%
合計		5	100.0%

※問 11 で「入学する」と回答した 5 人が対象

(3) 卒業生アンケート調査集計結果の分析

<6 重クロス集計>

名古屋文理大学情報メディア学部／健康生活学部の卒業生（2019（令和元）年度～2022（令和4）年度）38人のうちで、問6の「あなたは大学院進学に興味がありますか。」で「興味がある」を選択した者は7人で、そのうち問7の「志望する大学院等の設置者を選択してください。」で、「私立」を選択した者は7人であった。さらに、問8の「あなたが興味のある学問分野を次の中から選択してください。」で、当該研究科に関連する学問分野「情報工学」、「情報科学」、「栄養学」、「健康科学」のうちから少なくとも一つを選択した者は7人であった。この7人のうち、問10の「名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科健康情報学専攻（仮称）を受験したいと思いますか。」で「第一志望として受験する」を選択した者は4人であり、かつ問11の「名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科健康情報学専攻（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。」で「入学する」を選択した者は4人。かつ入学を希望する時期として当該研究科の開設予定の「2025年4月」を選択したものは3人であった。

（クロス集計は次ページの表を参照）

問6 大学院 進学	該 当 数	問7 設置者	該 当 数	問8 学問分野	該 当 数	問10 受験意志	該 当 数	問11 入学意志	該 当 数	問12 入学年度	該 当 数		
興味 があ る	7	私立	7	情報工 学、情報 科学、栄 養学、健 康科学の うちから 少なくとも 一つを選 択	7	第一志望 として受験 する	4	入学する	4	2025年4月	3		
										2026年4月	0		
										2027年4月以降	1		
								志望順位が上位の 他の志望校が不 合格の場合に入学 する	0	2025年4月	0		
										2026年4月	0		
										2027年4月以降	0		
								入学しない	0				
								第二志望 として受験 する	1	入学する	1	2025年4月	1
												2026年4月	0
						2027年4月以降	0						
						志望順位が上位の 他の志望校が不 合格の場合に入学 する	0			2025年4月	0		
										2026年4月	0		
						2027年4月以降	0						
						入学しない	0						
						第三志望 以降として 受験する	0	入学する	0	2025年4月	0		
2026年4月	0												
2027年4月以降	0												
志望順位が上位の 他の志望校が不 合格の場合に入学 する	0	2025年4月	0										
		2026年4月	0										
2027年4月以降	0												
入学しない	0												

3. 社会人アンケート調査

(1) 社会人アンケート調査の概要

調査目的	本調査は、名古屋文理大学が2025（令和7）年4月に設置構想中の「大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）」（以下、当該研究科と記す）における学生確保の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	東海4県（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）の社会人（22～60歳）
調査内容	<ul style="list-style-type: none">● 問1～7：居住地、性別、年齢、職業、学歴、業種、職種● 問8：リカレント教育・リスキリング教育への関心● 問9：大学院（修士課程）進学への関心● 問10：希望する大学院の設置者種別● 問11：興味のある学問分野● 問12：当該研究科の特色● 問13：当該研究科への受験意志● 問14：当該研究科への入学意志● 問15：入学を希望する時期 以上、全15問で選択肢式
調査時期	2024（令和6）年2月
調査方法	インターネット調査会社（株式会社クロス・マーケティング）の社会人モニタに対してWEBでアンケートを実施した。
回収件数	回収件数：1,538件
調査結果	受験意志：121人（7.9%）が受験意志（第一志望、第二志望、第三志望以降を含む）を示した。 入学意志：54人（3.5%）が入学意志を示した。 クロス集計：9人（0.6%）が「大学院修士課程に入学可能な学歴」かつ「大学院に興味がある」かつ「私立」かつ「情報工学、情報科学、栄養学、健康科学のいずれか」かつ「第一志望として受験する」かつ「入学する」かつ「2025年4月」と回答した。（p28参照）

(2) 社会人アンケート調査の集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、小数点第二位を四捨五入。そのため必ずしも 100.0%と一致しない。

問 1 あなたのお住まいを教えてください。(単一回答)

	選択項目	回答数(人)	構成比(%)
1	北海道	0	0%
2	青森県	0	0%
3	岩手県	0	0%
4	宮城県	0	0%
5	秋田県	0	0%
6	山形県	0	0%
7	福島県	0	0%
8	茨城県	0	0%
9	栃木県	0	0%
10	群馬県	0	0%
11	埼玉県	0	0%
12	千葉県	0	0%
13	東京都	0	0%
14	神奈川県	0	0%
15	新潟県	0	0%
16	富山県	0	0%
17	石川県	0	0%
18	福井県	0	0%
19	山梨県	0	0%
20	長野県	0	0%
21	岐阜県	189	12.3%
22	静岡県	315	20.5%
23	愛知県	870	56.6%
24	三重県	164	10.7%
25	滋賀県	0	0%
26	京都府	0	0%
27	大阪府	0	0%
28	兵庫県	0	0%
29	奈良県	0	0%

30	和歌山県	0	0%
31	鳥取県	0	0%
32	島根県	0	0%
33	岡山県	0	0%
34	広島県	0	0%
35	山口県	0	0%
36	徳島県	0	0%
37	香川県	0	0%
38	愛媛県	0	0%
39	高知県	0	0%
40	福岡県	0	0%
41	佐賀県	0	0%
42	長崎県	0	0%
43	熊本県	0	0%
44	大分県	0	0%
45	宮崎県	0	0%
46	鹿児島県	0	0%
47	沖縄県	0	0%
合計		1538	100.0%

問2 あなたの性別を教えてください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	男性	865	56.2%
2	女性	662	43.0%
3	どちらでもない	11	0.7%
合計		1538	100.0%

問3 あなたの年齢をお答えください。(数値入力)

項目	数値
平均値	48.0
最小値	22
最大値	60
回答数	1538(100%)

問 4 あなたの現在の状況をお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	在職中	1039	67.6%
2	主婦・主夫	217	14.1%
3	休職中	68	4.4%
4	その他(アルバイト等)	214	13.9%
合計		1538	100.0%

問 5 あなたの最終学歴をお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	中学卒	46	3.0%
2	高校卒	476	30.9%
3	専門学校卒	144	9.4%
4	短大卒	142	9.2%
5	高専卒	15	1.0%
6	大学卒	611	39.7%
7	大学院(修士課程)	68	4.4%
8	大学院(博士課程)	21	1.4%
9	上記以外	15	1.0%
合計		1538	100.0%

問 6 あなたの現在の勤務先の業種を教えてください。(単一回答)

	選択項目	回答数(人)	構成比(%)
1	農業、林業、漁業、鉱業	9	1.1%
2	建設業	23	2.7%
3	電気、ガス、熱供給、水道業	18	2.2%
4	製造業	236	28.2%
5	通信業	3	0.4%
6	IT 関連業	44	5.3%
7	放送、新聞、出版業	6	0.7%
8	運輸業、郵便業	35	4.2%
9	金融業(銀行・信託・証券・貸金)	20	2.4%
10	保険業	10	1.2%
11	卸売業、小売業	82	9.8%
12	学術研究、専門・技術サービス	22	2.6%
13	不動産業、物品賃貸業	11	1.3%
14	宿泊業、飲食サービス業	12	1.4%
15	教育、学習支援業(教育機関以外)	24	2.9%
16	生活関連サービス業、娯楽業	18	2.2%
17	医療、福祉	81	9.7%
18	その他サービス業	41	4.9%
19	アート・デザイン・写真	6	0.7%
20	教育機関(大学以外)	22	2.6%
21	国家公務	6	0.7%
22	地方公務	35	4.2%
23	非営利団体	9	1.1%
24	その他	64	7.6%
	合計	837	100.0%

※問 4 で「在職中」または「その他(アルバイト等)」と回答し、かつ問 5 で「中学卒」「高校卒」「上記以外」と回答しなかった者 837 人が対象。

問 7 あなたが現在従事する職種をお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	営業	87	10.4%
2	事務	186	22.2%
3	企画	26	3.1%
4	サービス・販売	80	9.6%
5	専門職	103	12.3%
6	技術	100	11.9%
7	開発	29	3.5%
8	研究	18	2.2%
9	クリエイティブ	22	2.6%
10	教員	29	3.5%
11	その他	157	18.8%
合計		837	100.0%

※問4で「在職中」または「その他(アルバイト等)」と回答し、かつ問5で「中学卒」「高校卒」「上記以外」と回答しなかった者837人が対象

問 8 あなたはリカレント教育やリスクニング教育に興味はありますか。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	興味がある	197	19.7%
2	興味はない	498	49.8%
3	どちらでもない	306	30.6%
合計		1001	100.0%

※問5で「中学卒」「高校卒」「上記以外」と回答しなかった者1,001人が対象

問 9 あなたは、大学院(修士課程)進学に興味がありますか。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	興味がある	164	16.4%
2	興味はない	681	68.0%
3	分からない	156	15.6%
合計		1001	100.0%

※問5で「中学卒」「高校卒」「上記以外」と回答しなかった者1,001人が対象

問 10 大学院(修士課程)進学に「興味がある」を選択された方のみお答えください。志望する大学院等の設置者を選択してください。(複数回答可)

選択項目		回答数(人)	回答率(%)
1	私立	67	40.9%
2	国立	134	81.7%
3	公立	79	48.2%

※複数回答であるため、回答数は延べ。「回答率」＝「回答数」／「回答者数」(164)

※問9で「興味がある」と回答した164人が対象

問 11 あなたが興味のある学問分野を次の中から選択してください。(複数回答可)

選択項目		回答数(人)	回答率(%)
1	情報工学	87	8.7%
2	機械工学	71	7.1%
3	電気通信工学	50	5.0%
4	土木建築工学	44	4.4%
5	工学その他	25	2.5%
6	情報科学	82	8.2%
7	数学	37	3.7%
8	物理学	40	4.0%
9	化学	44	4.4%
10	生物	61	6.1%
11	地学	41	4.1%
12	理学その他	8	0.8%
13	栄養学	107	10.7%
14	家政学	32	3.2%
15	被服学	24	2.4%
16	住居学	26	2.6%
17	家政その他	12	1.2%
18	健康科学	81	8.1%
19	教養学	41	4.1%
20	総合科学	23	2.3%
21	国際関係学	50	5.0%
22	人間関係科学	61	6.1%
23	看護学	33	3.3%

24	医学	56	5.6%
25	歯学	19	1.9%
26	薬学	46	4.6%
27	保健その他	21	2.1%
28	農学	46	4.6%
29	林学	4	0.4%
30	獣医学畜産学	11	1.1%
31	水産学	12	1.2%
32	農学その他	13	1.3%
33	文学	74	7.4%
34	史学	75	7.5%
35	哲学	34	3.4%
36	人文科学その他	26	2.6%
37	法学・政治学	72	7.2%
38	商学・経済学	110	11.0%
39	社会学	75	7.5%
40	社会科学その他	24	2.4%
41	教育学	45	4.5%
42	体育学	20	2.0%
43	教育その他	19	1.9%
44	美術	47	4.7%
45	デザイン	77	7.7%
46	音楽	85	8.5%
47	芸術その他	34	3.4%
48	商船	8	0.8%
49	その他	202	20.2%

※複数回答であるため、回答数は延べ。「回答率」＝「回答数」／「回答者数」(1001)

※問5で「中学卒」「高校卒」「上記以外」と回答しなかった者1,001人が対象

12 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻(修士課程)」(仮称)には以下の特色があります。あなたが興味・関心を持った内容を選んでください。(複数回答可)

選択項目		回答数(人)	回答率(%)
1	「情報科学」の知識・技術を「健康科学」の分野に応用する	419	41.9%
2	「情報科学」と「健康科学」の領域を融合し新たな学問領域を開拓する	316	31.6%
3	地域の健康課題に対して「健康情報学」の発展を通して貢献する	478	47.8%

※複数回答であるため、回答数は延べ。「回答率」＝「回答数」／「回答者数」(1001)

※問5で「中学卒」「高校卒」「上記以外」と回答しなかった者1,001人が対象

問13 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻(修士課程)」(仮称)を受験したいと思いますか。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	第一志望として受験する	53	5.3%
2	第二志望として受験する	30	3.0%
3	第三志望以降として受験する	38	3.8%
4	受験しない	880	87.9%
合計		1001	100.0%

※問5で「中学卒」「高校卒」「上記以外」と回答しなかった者1,001人が対象

問14 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻(修士課程)」(仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	入学する	54	44.6%
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	52	43.0%
3	入学しない	15	12.4%
合計		121	100.0%

※問13で1～3のいずれかを回答した121人が対象

問 15 問 14 で「入学する」と回答された方にお尋ねします。入学を希望する時期をお答えください。(単一回答)

選択項目		回答数(人)	構成比(%)
1	2025年4月	25	23.6%
2	2026年4月	28	26.4%
3	2027年4月以降	53	50.0%
合計		106	100.0%

※問 14 で 1～2 のいずれかを回答した 106 人が対象

(3) 社会人アンケート調査集計結果の分析

<7重クロス集計>

東海4県（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）の22～60歳の社会人1,538人を対象としたアンケートで、問5の最終学歴で「大学卒」「大学院（修士課程）」「大学院（博士課程）」「専門学校卒」「短大卒」「高専卒」のいずれかと回答した者は1,001人だった。かつ問9の「あなたは、大学院（修士課程）進学に興味がありますか。」で「興味がある」を選択した者は164人、かつ問10の「志望する大学院等の設置者を選択してください。」で「私立」を選択した者は67人であり、かつ問11の「あなたが、興味・関心のある学問分野をお答えください。」で「情報工学」、「情報科学」、「栄養学」、「健康科学」のうちのいずれか一つを選択した者は32人であった。

この32人のうち、問13の「名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（仮称）が開設された場合、受験したいとおもいますか。」で「第一志望として受験する」を選択した者は11人であり、そのうち問14の「名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。」で、「入学する」を選択した者は11人、かつ問15の「入学を希望する時期」で開設予定の「2025年4月」と回答した者は9人だった。

（クロス集計は次ページの表を参照）

問5 学歴	該 当 数	問 9 大 学 院	該 当 数	問10 設 置 者	該 当 数	問11 学 問 分 野	該 当 数	問 13 受 験 意 志	該 当 数	問14 入 学 意 志	該 当 数	問15 入 学 時 期		該 当 数
「専門 学校 卒」 「短大 卒」 「高専 卒」 「大学 卒」 「大学 院（修 士課 程）」 「大学 院（博 士課 程）」 のい ず れ か	1001	興 味 が あ る	164	私 立	67	「情報工 学」、「情 報科学」、 「栄養 学」、「健 康科学」 のい ず れ か 少 な と も 1 つ を 選 択	32	第 一 志 望	11	入 学 す る	11	2025年4月	9	
												2026年4月	1	
												2027年4月以降	1	
									志望順位が 上位の他の 志望校が不 合格の場合 に入学する	0	2025年4月	0		
								2026年4月			0			
								2027年4月以降			0			
								入 学 し な い	0					
								第 二 志 望	4	入 学 す る	1	2025年4月	0	
												2026年4月	1	
												2027年4月以降	0	
									志望順位が 上位の他の 志望校が不 合格の場合 に入学する	3	2025年4月	0		
								2026年4月			1			
2027年4月以降	2													
入 学 し な い	0													
第 三 志 望 以 降	3	入 学 す る	0	2025年4月	0									
				2026年4月	0									
				2027年4月以降	0									
	志望順位が 上位の他の 志望校が不 合格の場合 に入学する	3	2025年4月	0										
2026年4月			2											
2027年4月以降			1											
入 学 し な い	0													

4. まとめ

2025（令和7）年4月開設予定の名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）の学生確保の見通しを計るため、(1)在学生アンケート調査、(2)卒業生アンケート調査、(3)社会人アンケート調査の3種類のアンケート調査を実施した。

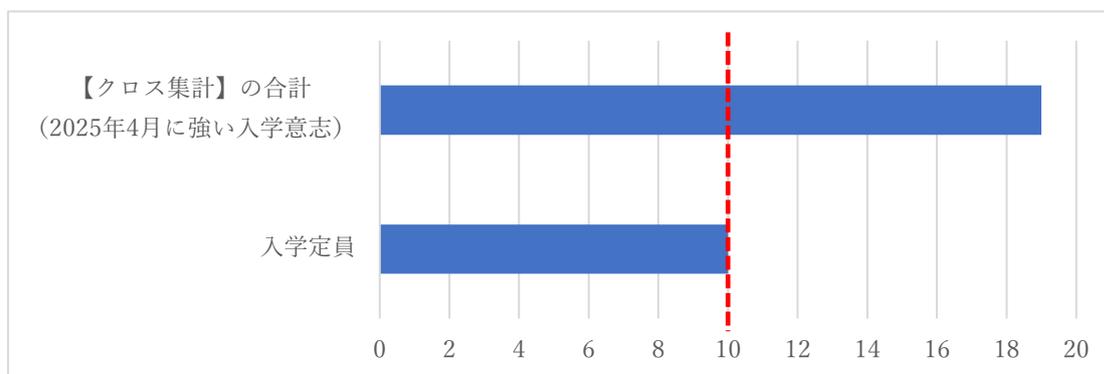
(1)在学生アンケート調査の【クロス集計】では、「2025年4月」に7人が強い入学意志を示していることが分かった。

(2)卒業生アンケート調査の【クロス集計】では、「2025年4月」に3人、「2027年4月以降」に1人が、強い入学意志を示していることが分かった。

(3)社会人アンケート調査の【クロス集計】では、「2025年4月」に9人、「2026年4月」に1人、「2027年4月以降」に1人が、強い入学意志を示していることが分かった。

(1)～(3)の調査をまとめると、「2025年4月」に強い入学意志を示している者の合計は19人、「2026年4月」の合計は1人、「2027年4月以降」の合計は2人となった。

以下、グラフに示す。



以上の結果より、名古屋文理大学が2025（令和7）年4月に設置構想中の「大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）」の学生確保の見通しについて、予定する入学定員の10名を上回る強い入学意志を示す者が見込めることが分かった。

添付資料

名古屋文理大学 大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（仮称）

- ・ 概要説明リーフレット
- ・ 在学生アンケート調査用紙(紙面)
- ・ 卒業生アンケート調査用紙(紙面およびWEB フォーム)
- ・ 社会人アンケート調査用紙(WEB フォーム)

情報科学×健康科学——健康を応用分野とする高度情報人材を育成する



名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (仮称) (修士課程2年制)

名称	名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (仮称) (修士課程2年制)
開設時期	令和7 (2025) 年 4月
入学定員 (収容定員)	10名 (20名)
取得学位	修士 (健康情報学)
修業年限	2年
開設場所	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地

本研究科の特色

本研究科では、「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的としています。

そのために必要な知識と能力を身につけるための主要授業科目を必修科目として配置します。「情報科学」分野と「健康科学」分野のそれぞれの領域において専門的な理論と知識を修得し、これらを基盤として「健康情報学演習」を通じて、「情報科学」と「健康科学」における科学的研究方法と研究姿勢を修得し、同時にコミュニケーション力と実践力を身に付け、学生自身のキャリア形成に繋がります。

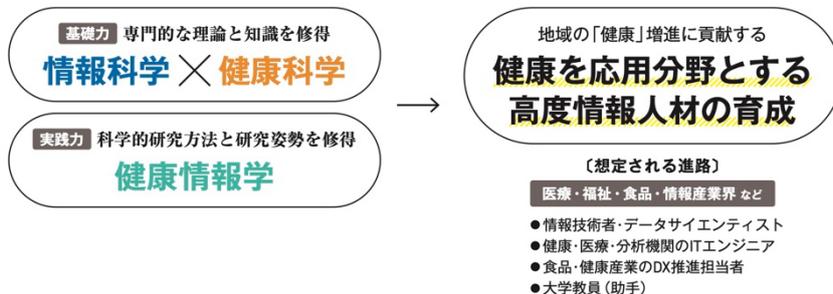
アドミッションポリシー

本研究科では、次のような人を求めます。

- ①「情報科学」に関する基礎的な学力・技術・知識がある。
- ②人間の持続的な「健康」の維持への興味・関心がある。
- ③自らが主体的に問題を発見し、課題を解決する能力がある。

養成する人材像

「情報科学」の知識を「健康科学」に応用し、また、「情報」の技術を活用して地域の「健康」増進に貢献する、「健康を応用分野とする高度情報人材」の育成を目指します。



©上記の内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

【概要説明リーフレット 2/2】

カリキュラム (構想・検討中)



初年度納入金

入学金	授業料	その他 (教育充実費)	初年度納入金 合計
200,000円	600,000円	100,000円	900,000円

※上記金額は2025年度予定のものです。 ※別途諸経費が必要な場合があります。 ※傷害保険料等を除きます。

他大学との納入金比較

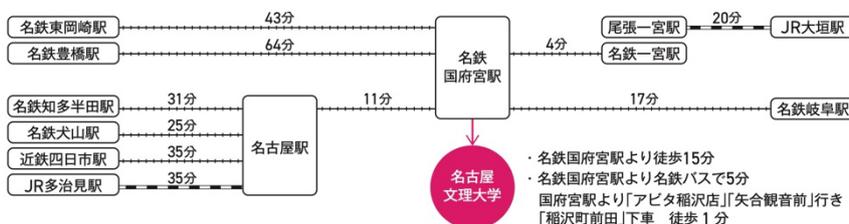
大学院名・研究科・専攻名	所在地	入学金	授業料	その他 (教育充実費)	初年度納入金 合計
愛知淑徳大学大学院 文化創造研究科 情報デザイン・システム専修	愛知県長久手市片平 二丁目9	180,000	1,100,000	100,000	1,380,000
愛知工業大学 経営情報科学研究科	名古屋市千種区自由ヶ丘 2丁目49-2	130,000	730,000	230,000	1,090,000
岐阜聖徳学園大学大学院 経済情報研究科	岐阜県岐阜市中鶯 一丁目38番地	300,000	700,000	360,000	1,360,000
南山大学大学院 理工学研究科 データサイエンス専攻	名古屋市昭和区山里町18	300,000	654,000	105,000	1,059,000
名城大学大学院 都市情報学研究科	名古屋市天白区塩釜口 一丁目501番地	130,000	640,000	220,000	990,000
大同大学大学院 情報学研究科	名古屋市南区滝春町10-3	150,000	535,800	305,000	990,800
中京大学大学院 工学研究科情報工学専攻	豊田市貝津町床立101	200,000	505,000	345,000	1,050,000

※上記金額は各大学ホームページ掲載情報 (2024年度予定) より引用しています。 ※各大学とも、別途諸経費が必要な場合があります。
※傷害保険料等を除きます。 ※名城大学大学院、中京大学大学院は実験実習費を含みます。

アクセス

※所要時間は最速です。乗り換え時間は含みません。

名古屋駅から名鉄特急で11分



◎上記の内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

【在学生アンケート（紙面） 1/2】

名古屋文理大学大学院
「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称・設置構想中）
設置構想についてのアンケート調査
（対象：名古屋文理大学の在籍者の皆さん）

名古屋文理大学は、2025年4月に新たに大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称、予定入学定員10名）の設置を構想しています。本学はこのアンケート調査を通して、2025年度に大学院進学等を迎える現大学3年生をはじめとする在籍者の皆さんからご意見をお伺いし、計画の充実を図っていきたくと考えています。回答結果は名古屋文理大学大学院の新研究科の設置構想に係る統計資料としてのみ活用します。アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。
 ※このアンケート調査は名古屋文理大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
 ※概要およびこのアンケートに記載されている「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称）に関する事項は予定であり、内容が変更になる可能性があります。

問1 あなたのお住まいをお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

愛知県 岐阜県 三重県 その他（ ）

※その他とお答えの場合、（ ）内に都道府県名をご記入ください。

問2 あなたの性別を教えてください。（あてはまるもの1つにマーク）

男性 女性 回答しない

問3 あなたが在籍している学科・学年をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

<情報メディア学部 情報メディア学科>

2年生 3年生 4年生

<健康生活学部 フードビジネス学科>

2年生 3年生 4年生

<健康生活学部 健康栄養学科>

2年生 3年生 4年生

問4 あなたは大学卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるもの全てにマーク）

大学院進学 就職 その他

問5 問4で「大学院進学」を選択された方のみお答えください。志望する大学院等の設置者を選択してください。（あてはまるもの全てにマーク）

私立 国立 公立

問6 学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（あてはまるもの全てにマーク）

工学		理学		家政		その他		保健	
<input type="radio"/>	情報工学	<input type="radio"/>	情報科学	<input type="radio"/>	栄養学	<input type="radio"/>	健康科学	<input type="radio"/>	看護学
<input type="radio"/>	機械工学	<input type="radio"/>	数学	<input type="radio"/>	家政学	<input type="radio"/>	教養学	<input type="radio"/>	医学
<input type="radio"/>	電気通信工学	<input type="radio"/>	物理学	<input type="radio"/>	被服学	<input type="radio"/>	総合科学	<input type="radio"/>	歯学
<input type="radio"/>	土木建築工学	<input type="radio"/>	化学	<input type="radio"/>	住居学	<input type="radio"/>	国際関係学	<input type="radio"/>	薬学
<input type="radio"/>	工学その他	<input type="radio"/>	生物	<input type="radio"/>	家政その他	<input type="radio"/>	人間関係科学	<input type="radio"/>	保健その他
		<input type="radio"/>	地学			<input type="radio"/>	その他		
		<input type="radio"/>	理学その他						

【在学生アンケート（紙面） 2/2】

農学		人文科学		社会科学		教育		芸術	
<input type="radio"/>	農学	<input type="radio"/>	文学	<input type="radio"/>	法学・政治学	<input type="radio"/>	教育学	<input type="radio"/>	美術
<input type="radio"/>	林学	<input type="radio"/>	史学	<input type="radio"/>	商学・経済学	<input type="radio"/>	体育学	<input type="radio"/>	デザイン
<input type="radio"/>	獣医学畜産学	<input type="radio"/>	哲学	<input type="radio"/>	社会学	<input type="radio"/>	教育その他	<input type="radio"/>	音楽
<input type="radio"/>	水産学	<input type="radio"/>	人文科学その他	<input type="radio"/>	社会科学その他			<input type="radio"/>	芸術その他
<input type="radio"/>	農学その他								商船
								<input type="radio"/>	商船

問7以降は別紙「名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称）の概要資料をご覧ください。なってお答えください。

問7 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称）には以下の特色があります。あなたが興味・関心を持った内容を選んでください。（あてはまるもの全てにマーク）

- 「情報科学」の知識・技術を「健康科学」の分野に応用する
- 「情報科学」と「健康科学」の領域を融合し新たな学問領域を開拓する
- 地域の健康課題に対して「健康情報学」の発展を通して貢献する

問8 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称）を受験したいと思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 第一志望として受験する
- 第二志望として受験する
- 第三志望以降として受験する
- 受験しない

問9 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 入学する
- 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- 入学しない

問10 問9で「入学する」と回答された方にお尋ねします。入学を希望する時期をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 2025年4月
- 2026年4月
- 2027年4月以降

質問は以上となります。ご協力有難うございました。

【卒業生アンケート（紙面） 1/2】

名古屋文理大学大学院
「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称・設置構想中）
設置構想についてのアンケート調査
（対象：名古屋文理大学卒業生の皆さん）

名古屋文理大学は、2025年4月に新たに大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称、予定入学定員10名）の設置を構想しています。本学はこのアンケート調査を通して、卒業生の皆さんからご意見をお伺いし、計画の充実を図っていきたいと考えています。回答結果は名古屋文理大学大学院の新研究科の設置構想に係る統計資料としてのみ活用します。アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は名古屋文理大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※概要およびこのアンケートに記載されている「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称）に関する事項は予定であり、内容が変更になる可能性があります。

問1 あなたのお住まいをお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

愛知県 岐阜県 三重県 その他（ ）

※その他とお答えの場合、（ ）内に都道府県名をご記入ください。

問2 あなたの性別を教えてください。（あてはまるもの1つにマーク）

男性 女性 回答しない

問3 あなたが卒業した学部・学科をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

情報メディア学部 情報メディア学科（旧情報文化学部 情報文化学科・社会情報学科・情報メディア学科）

健康生活学部 フードビジネス学科

健康生活学部 健康栄養学科

問4 あなたが卒業した年をお答えください。

平成15（2003）年 平成16（2004）年 平成17（2005）年 平成18（2006）年 平成19（2007）年

平成20（2008）年 平成21（2009）年 平成22（2010）年 平成23（2011）年 平成24（2012）年

平成25（2013）年 平成26（2014）年 平成27（2015）年 平成28（2016）年 平成29（2017）年

平成30（2018）年 平成31（2019）年 令和2（2020）年 令和3（2021）年 令和4（2022）年

令和5（2023）年

問5 あなたはリカレント教育^{※1}やリスキリング教育^{※2}に興味はありますか。（あてはまるもの1つにマーク）

興味がある 興味はない どちらでもない

※1：社会人等の主体的な学び直し

※2：社会の変革に応じて、必要なスキルを身に付けること

問6 あなたは大学院進学に興味はありますか。（あてはまるもの1つにマーク）

興味がある 興味がない 分からない

問7 問6で「興味がある」を選択された方のみお答えください。志望する大学院等の設置者を選択してください。（あてはまるもの全てにマーク）

私立 国立 公立

【卒業生アンケート（紙面） 2/2】

問8 あなたが興味のある学問分野を次の中から選択してください。（あてはまるもの全てにマーク）

工学		理学		家政		その他		保健	
<input type="checkbox"/>	情報工学	<input type="checkbox"/>	情報科学	<input type="checkbox"/>	栄養学	<input type="checkbox"/>	健康科学	<input type="checkbox"/>	看護学
<input type="checkbox"/>	機械工学	<input type="checkbox"/>	数学	<input type="checkbox"/>	家政学	<input type="checkbox"/>	教養学	<input type="checkbox"/>	医学
<input type="checkbox"/>	電気通信工学	<input type="checkbox"/>	物理学	<input type="checkbox"/>	被服学	<input type="checkbox"/>	総合科学	<input type="checkbox"/>	歯学
<input type="checkbox"/>	土木建築工学	<input type="checkbox"/>	化学	<input type="checkbox"/>	住居学	<input type="checkbox"/>	国際関係学	<input type="checkbox"/>	薬学
<input type="checkbox"/>	工学その他	<input type="checkbox"/>	生物	<input type="checkbox"/>	家政その他	<input type="checkbox"/>	人間関係科学	<input type="checkbox"/>	保健その他
		<input type="checkbox"/>	地学			<input type="checkbox"/>	その他		
		<input type="checkbox"/>	理学その他						
農学		人文科学		社会科学		教育		芸術	
<input type="checkbox"/>	農学	<input type="checkbox"/>	文学	<input type="checkbox"/>	法学・政治学	<input type="checkbox"/>	教育学	<input type="checkbox"/>	美術
<input type="checkbox"/>	林学	<input type="checkbox"/>	史学	<input type="checkbox"/>	商学・経済学	<input type="checkbox"/>	体育学	<input type="checkbox"/>	デザイン
<input type="checkbox"/>	獣医学畜産学	<input type="checkbox"/>	哲学	<input type="checkbox"/>	社会学	<input type="checkbox"/>	教育その他	<input type="checkbox"/>	音楽
<input type="checkbox"/>	水産学	<input type="checkbox"/>	人文科学その他	<input type="checkbox"/>	社会科学その他			<input type="checkbox"/>	芸術その他
<input type="checkbox"/>	農学その他								商船
								<input type="checkbox"/>	商船

問9 以降は別紙 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称）の概要資料をご覧ください。なってお答えください。

問9 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称）には以下の特色があります。あなたが興味・関心を持った内容を選んでください。（あてはまるもの全てにマーク）

- 「情報科学」の知識・技術を「健康科学」の分野に応用する
- 「情報科学」と「健康科学」の領域を融合し新たな学問領域を開拓する
- 地域の健康課題に対して「健康情報学」の発展を通して貢献する

問10 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称）を受験したいと思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 第一志望として受験する
- 第二志望として受験する
- 第三志望以降として受験する
- 受験しない

問11 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 入学する
- 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- 入学しない

問12 問11で「入学する」と回答された方にお尋ねします。入学を希望する時期をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 2025年4月
- 2026年4月
- 2027年4月以降

質問は以上となります。ご協力有難うございました。

【卒業生アンケート (Web)】

1/8ページ

名古屋文理大学大学院

「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」(仮称・設置構想中)

設置構想についてのアンケート調査

(対象：名古屋文理大学卒業生の皆さん)

名古屋文理大学は、2025年4月に新たに大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」(仮称、予定入学定員10名)の設置を構想しています。本学はこのアンケート調査を通して、卒業生の皆さんからご意見をお伺いし、計画の充実を図っていきたく考えています。回答結果は名古屋文理大学大学院の新研究科の設置構想に係る統計資料としてのみ活用します。アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は名古屋文理大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※概要およびこのアンケートに記載されている「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」(仮称)に関する事項は予定であり、内容が変更になる可能性があります。

2/8ページ

問1 あなたのお住まいをお答えください。(あてはまるものつを選択)

必須

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| <input type="radio"/> 愛知県 | <input type="radio"/> 岐阜県 |
| <input type="radio"/> 三重県 | <input type="radio"/> その他 |

その他とお答えの方は、都道府県名をご記入ください。

3/8ページ

問2 あなたの性別を教えてください。(あてはまるものつを選択) 必須

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| <input type="radio"/> 男性 | <input type="radio"/> 女性 |
| <input type="radio"/> 回答しない | |

問3 あなたが卒業した学部・学科をお答えください。(あてはまるもの1つを選択) 必須

- | |
|--|
| <input type="radio"/> 情報メディア学部 情報メディア学科 (旧情報文化学部 情報文化学科・社会情報学科・情報メディア学科) |
| <input type="radio"/> 健康生活学部 フードビジネス学科 |
| <input type="radio"/> 健康生活学部 健康栄養学科 |

問4 あなたが卒業した年をお答えください。 必須

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="radio"/> 平成15 (2003) 年 | <input type="radio"/> 平成16 (2004) 年 |
| <input type="radio"/> 平成17 (2005) 年 | <input type="radio"/> 平成18 (2006) 年 |
| <input type="radio"/> 平成19 (2007) 年 | <input type="radio"/> 平成20 (2008) 年 |
| <input type="radio"/> 平成21 (2009) 年 | <input type="radio"/> 平成22 (2010) 年 |
| <input type="radio"/> 平成23 (2011) 年 | <input type="radio"/> 平成24 (2012) 年 |
| <input type="radio"/> 平成25 (2013) 年 | <input type="radio"/> 平成26 (2014) 年 |

<input type="radio"/> 平成27 (2015) 年	<input type="radio"/> 平成28 (2016) 年
<input type="radio"/> 平成29 (2017) 年	<input type="radio"/> 平成30 (2018) 年
<input type="radio"/> 平成31 (2019) 年	<input type="radio"/> 令和 2 (2020) 年
<input type="radio"/> 令和 3 (2021) 年	<input type="radio"/> 令和 4 (2022) 年
<input type="radio"/> 令和 5 (2023) 年	

4/8ページ

問5 あなたはリカレント教育※1やリスキリング教育※2に興味はありますか。(あてはまるもの1つを選択) **必須**

※1: 社会人等の主体的な学び直し
 ※2: 社会の変革に応じて、必要なスキルを身に付けること

<input checked="" type="radio"/> 興味がある	<input type="radio"/> 興味はない
<input type="radio"/> どちらでもない	

問6 あなたは大学院進学に興味はありますか。(あてはまるもの1つを選択) **必須**

<input checked="" type="radio"/> 興味がある	<input type="radio"/> 興味がない
<input type="radio"/> 分からない	

問7 問6で「興味がある」を選択された方のみお答えください。志望する大学院等の設置者を選択してください。(あてはまるものを全てを選択) **必須**

<input checked="" type="checkbox"/> 私立	<input type="checkbox"/> 国立
<input type="checkbox"/> 公立	

5/8ページ

問8 あなたが興味のある学問分野を次の中から選択してください。(あてはまるものを全てを選択) **必須**

<input type="checkbox"/> 情報工学	<input type="checkbox"/> 機械工学
<input type="checkbox"/> 電気通信工学	<input type="checkbox"/> 土木建築工学
<input type="checkbox"/> 工学その他	<input type="checkbox"/> 情報科学
<input type="checkbox"/> 数学	<input type="checkbox"/> 物理学
<input type="checkbox"/> 化学	<input type="checkbox"/> 生物
<input type="checkbox"/> 地学	<input type="checkbox"/> 理学その他
<input type="checkbox"/> 栄養学	<input type="checkbox"/> 家政学
<input type="checkbox"/> 被服学	<input type="checkbox"/> 住居学
<input type="checkbox"/> 家政その他	<input type="checkbox"/> 健康科学
<input type="checkbox"/> 教養学	<input type="checkbox"/> 総合科学
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> 国際関係学	<input type="checkbox"/> 人間関係科学
<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 看護学
<input type="checkbox"/> 医学	<input type="checkbox"/> 歯学
<input type="checkbox"/> 薬学	<input type="checkbox"/> 保健その他
<input type="checkbox"/> 農学	<input type="checkbox"/> 林学
<input type="checkbox"/> 獣医学畜産学	<input type="checkbox"/> 水産学
<input type="checkbox"/> 農学その他	<input type="checkbox"/> 文学
<input type="checkbox"/> 史学	<input type="checkbox"/> 哲学
<input type="checkbox"/> 人文科学その他	<input type="checkbox"/> 法学・政治学
<input type="checkbox"/> 商学・経済学	<input type="checkbox"/> 社会学
<input type="checkbox"/> 社会科学その他	<input type="checkbox"/> 教育学
<input type="checkbox"/> 体育学	<input type="checkbox"/> 教育その他
<input type="checkbox"/> 商船	

※応募は要領 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」（併称）の募集資料をご覧ください。

設置構想中

情報科学×健康科学——健康を応用分野とする高度情報人材を育成する



名古屋文理大学大学院
健康情報学研究科 健康情報学専攻 (仮称)
(修士課程2年制)

名 称	名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (仮称) (修士課程2年制)
開設時期	令和7(2025)年4月
入学定員(収容定員)	10名(20名)
取得学位	修士(健康情報学)
修業年限	2年
開設場所	愛知県稲沢市稲沢町南田365番地

●● 本研究科の特色

本研究科では、「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的としています。

そのために必要な知識と能力を身につけるための主要授業科目を必修科目として配属します。「情報科学」分野と「健康科学」分野のそれぞれの領域において専門的な理論と知識を修得し、これらを基盤として「健康情報学演習」を履修して、「情報科学」と「健康科学」における科学的な研究方法と研究姿勢を修得し、同時にコミュニケーション力と実践力を身に付け、学生自身のキャリア形成に繋がります。

🏠 アドミッションポリシー

本研究科では、次のような人を求めます。

- ①「情報科学」に関する基礎的な学力・技術・知識がある。
- ②人間の持続的な「健康」の維持への興味・関心がある。
- ③自らが主体的に課題を発見し、課題を解決する能力がある。

👤 養成する人材像

「情報科学」の知識を「健康科学」に応用し、また、「情報」の技術を活用して地域の「健康」増進に貢献する、「健康を応用分野とする高度情報人材」の育成を目指します。

【能力】 専門的な理論と知識を修得
情報科学×健康科学

【能力】 科学的な研究方法と研究姿勢を修得
健康情報学

更なる「健康」増進に貢献する
**健康を応用分野とする
高度情報人材の育成**

【修得される進路】

- 産業技術者(データサイエンティスト)
- 健康・医療・福祉関係のエンジニア
- 食品・健康産業の企画・開発担当者
- 大学教員(助教)

※上記の分野は得意な分野であり、希望は異なる場合があります。

カリキュラム (構想・検討中)



初年度納入金

入学金	授業料	その他(教育充実費)	初年度納入金 合計
200,000円	600,000円	100,000円	900,000円

※上記金額は2025年度予定のもの。 ※別途納付費が必要な場合があります。 ※履修保険料等を除きます。

他大学との納入金比較

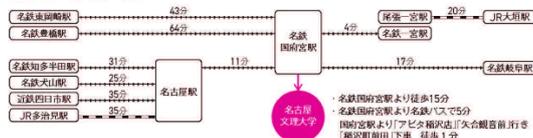
大学院名・研究科・専攻名	所在地	入学金	授業料	その他(教育充実費)	初年度納入金 合計
愛知産業大学大学院 文化創造研究科 情報デザインシステム専修	愛知県東久手市片平二丁目9-2	180,000	1,100,000	100,000	1,380,000
愛知工業大学 経営情報科学研究科	名古屋市千種区自由ヶ丘2丁目49-2	130,000	730,000	230,000	1,090,000
岐阜薬学大学大学院 経済情報研究科	岐阜県岐阜市中藤一丁目39番地	300,000	700,000	360,000	1,360,000
南山大学大学院 理工学研究科	名古屋市緑区山手町118	300,000	654,000	105,000	1,059,000
データサイエンス専攻					
名城大学大学院 都市情報学研究科	名古屋市天白区徳富口一丁目501番地	130,000	640,000	220,000	990,000
大岡大学大学院 情報科学研究科	名古屋市南区滝春町10-3	150,000	535,800	305,000	990,800
中京大学大学院 工学研究科情報工学専攻	豊田市貝津町床立101	200,000	505,000	345,000	1,050,000

※上記金額は各大学ホームページ掲載情報(2024年度予定)より引用しています。 ※各大学とも、別途納付費が必要な場合があります。 ※履修保険料等を除きます。 ※名城大学大学院、中京大学大学院は実質納入費となります。

アクセス

※別添情報は最速です。乗り換え時間は含まれません。

名古屋駅から名鉄特急で11分



◎上記の内容は概算中の内容であり、当該実況となる場合があります。

問9 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」(仮称)には以下の特色があります。あなたが興味・関心を持った内容を選んでください。（あてはまるもの全てを選択） **必須**

「情報科学」の知識・技術を「健康科学」の分野に応用する

「情報科学」と「健康科学」の領域を融合し新たな学問領域を開拓する

地域の健康課題に対して「健康情報学」の発展を通して貢献する

問10 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」(仮称)を受験したいと思いますか。（あてはまるもの1つを選択） **必須**

第一志望として受験する

第二志望として受験する

第三志望として受験する

受験しない

問11 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）」(仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（あてはまるもの1つを選択） **必須**

入学する

志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

入学しない

問12 問11で「入学する」「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答された方にお尋ねします。入学を希望する時期をお答えください。（あてはまるもの1つを選択） **必須**

2025年4月

2026年4月

2027年4月以降

質問は以上となります。ご協力有難うございました。

【社会人アンケート (Web)】

対象外条件 SC1 ≠ 「21. 岐阜県」 ～ 「24. 三重県」 (即時回答終了)

対象外条件 SC3_1 < 22 または SC3_1 > 60 (即時回答終了)

対象外条件 SC5 = 「1. 中学卒」, 「2. 高校卒」, 「9. 上記以外」 (即時回答終了)

アンケート画面開始

Page 1

名古屋文理大学は、2025年4月に新たに大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻(修士課程)」(仮称、予定入学定員10名)の設置を構想しています。本学はこのアンケート調査を通して、社会人の皆さんからご意見をお伺いし、計画の充実を図っていきたくと考えています。回答結果は名古屋文理大学大学院の新研究科の設置構想に係る統計資料としてのみ活用します。アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は名古屋文理大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

※概要およびこのアンケートに記載されている「健康情報学研究科 健康情報学専攻(修士課程)」(仮称)に関する事項は予定であり、内容が変更になる可能性があります。

次へ

0 50 100(%)

SC1

必須設定 回答必須

対象外条件 SC1 ≠ 「21. 岐阜県」 ～ 「24. 三重県」 (即時回答終了)

SC1

あなたのお住まいをお答えください。

次へ

0 50 100(%)

SC2

必須設定 回答必須

SC2

あなたの性別をお答えください。

- 1 男性
- 2 女性
- 3 どちらでもない・答えたくない

次へ

0 50 100(%)

SC3

対象外条件 SC3_1 < 22 または SC3_1 > 60 (即時回答終了)

- カテゴリ 1.歳

必須設定 回答必須

回答制御 回答範囲「0~99」 に該当しない場合はアラートを表示

SC3

あなたの年齢をお答えください。

歳

次へ

0 50 100(%)

SC4

必須設定 回答必須

SC4

あなたの現在の状況をお答えください。

- 1 在職中
- 2 主婦・主夫
- 3 求職中
- 4 その他(アルバイト等)

次へ

0 50 100(%)

SC5

必須設定 回答必須

対象外条件 SC5 = 「1. 中学卒」, 「2. 高校卒」, 「9. 上記以外」 (即時回答終了)

SC5

あなたの最終学歴をお答えください。

- 1 中学卒
- 2 高校卒
- 3 専門学校卒
- 4 短大卒
- 5 高専卒
- 6 大学卒
- 7 大学院(修士課程・博士前期課程)卒※現在通学中で、卒業見込みを含む
- 8 大学院(博士課程・博士後期課程)卒※現在通学中で、卒業見込みを含む
- 9 上記以外

次へ

0 50 100(%)

SC6

必須設定 回答必須

回答者条件 SC4 = 「1. 在職中」, 「4. その他(アルバイト等)」

SC6

あなたの現在の勤務先の業種をお答えください。

- 1 農業、林業、漁業、鉱業
- 2 建設業
- 3 電気、ガス、熱供給、水道業
- 4 製造業
- 5 通信業
- 6 IT関連業
- 7 放送、新聞、出版業
- 8 運輸業、郵便業
- 9 金融業(銀行・信託・証券・貸金)
- 10 保険業
- 11 卸売業、小売業
- 12 学術研究、専門・技術サービス
- 13 不動産業、物品賃貸業
- 14 宿泊業、飲食サービス業
- 15 教育、学習支援業(教育機関以外)
- 16 生活関連サービス業、娯楽業
- 17 医療、福祉
- 18 その他サービス業
- 19 アート・デザイン・写真
- 20 教育機関(大学以外)
- 21 国家公務
- 22 地方公務
- 23 非営利団体
- 24 その他

次へ

0 50 100(%)

SC7

必須設定 回答必須

回答者条件 SC4 = 「1. 在職中」, 「4. その他(アルバイト等)」

SC7

あなたが現在従事する職種をお答えください。

- 1 営業
- 2 事務
- 3 企画
- 4 サービス・販売
- 5 専門職
- 6 技術
- 7 開発
- 8 研究
- 9 クリエイティブ
- 10 教員
- 11 その他

次へ

0 50 100(%)

SC8

必須設定 回答必須

SC8

あなたはリカレント教育やリスクリング教育に興味はありますか。

- 1 興味がある
- 2 興味がない
- 3 わからない

次へ

0 50 100(%)

SC9

必須設定 回答必須

SC9

あなたは、大学院(修士課程)進学に興味はありますか。

- 1 興味がある
- 2 興味がない
- 3 わからない

次へ

0 50 100(%)

SC10

必須設定 回答必須

回答者条件 SC9 = 「1. 興味がある」

SC10

大学院(修士課程)進学に「興味がある」を選択された方のみお答えください。
志望する大学院等の設置者を選択してください。(いくつでも)

- 1 私立
- 2 国立
- 3 公立

次へ

0 50 100(%)

SC11

必須設定 回答必須

SC11

あなたが、興味・関心のある学問分野をお答えください。(いくつでも)

- 1 情報工学
- 2 機械工学
- 3 電気通信工学
- 4 土木建築工学
- 5 工学その他
- 6 情報科学
- 7 数学
- 8 物理学
- 9 化学
- 10 生物
- 11 地学
- 12 理学その他
- 13 栄養学
- 14 家政学
- 15 被服学
- 16 住居学
- 17 家政その他
- 18 健康科学
- 19 教養学
- 20 総合科学
- 21 国際関係学
- 22 人間関係科学
- 23 看護学

- 24 医学
- 25 歯学
- 26 薬学
- 27 保健その他
- 28 農学
- 29 林学
- 30 獣医学畜産学
- 31 水産学
- 32 農学その他
- 33 文学
- 34 史学
- 35 哲学
- 36 人文科学その他
- 37 法学・政治学
- 38 商学・経済学
- 39 社会学
- 40 社会科学その他
- 41 教育学
- 42 体育学
- 43 教育その他
- 44 美術
- 45 デザイン
- 46 音楽
- 47 芸術その他
- 48 商船
- 49 その他

次へ



次の「健康情報学研究科 健康情報学専攻(修士課程)」(仮称・設置構想中)の設置構想並びに概要お読みください。

[概要はこちら](#)

SC12

必須設定 回答必須

SC12

健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程((仮称)には、次のような特色があります。あなたが興味・関心を持った内容を選んでください。(いくつでも)

- 1 「情報科学」の知識・技術を「健康科学」の分野に応用する
- 2 「情報科学」と「健康科学」の領域を融合し新たな学問領域を開拓する
- 3 地域の健康課題に対して「健康情報学」の発展を通して貢献する

次へ

0 50 100(%)

SC13

必須設定 回答必須

SC13

名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻(修士課程)」(仮称)を受験したいと思いますか。

- 1 第一志望として受験する
- 2 第二志望として受験する
- 3 第三志望以降として受験する
- 4 受験しない

次へ

0 50 100(%)

SC14

必須設定 回答必須

回答者条件 SC13 = 「1. 第一志望として受験する」 ～ 「3. 第三志望以降として受験する」

SC14

名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻(修士課程)」(仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

- 1 入学する
- 2 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- 3 入学しない

次へ

0 50 100(%)

SC15

必須設定 回答必須

回答者条件 SC14 = 「1. 入学する」, 「2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」

SC15

SC14で「入学する」と回答された方にお尋ねします。
入学を希望する時期をお答えください。

- 1 2025年4月
- 2 2026年4月
- 3 2027年4月以降

次へ

0 50 100(%)

名古屋文理大学 大学院
健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）
設置構想についてのアンケート調査
【人材需要アンケート調査】
報告書

令和6年2月23日

株式会社高等教育総合研究所

目次

1.	調査の概要	2
2.	集計結果	3
3.	集計結果のポイント	8
4.	集計結果の分析	12
	添付資料	13
	名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）	
	・ 概要説明リーフレット	
	・ 人材需要アンケート調査用紙	
	・ 人材需要アンケート調査 WEB フォーム	

1. 調査の概要

調査目的	本調査は、名古屋文理大学が2025（令和7）年4月に設置構想中の「大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 修士課程（仮称）」（以下、当該研究科と記す）における人材需要の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	当該研究科の修了生の採用が期待される愛知県を中心とした企業・団体等の計1,098件を対象とした。
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 問1～3：回答企業・団体等の基本情報 （所在地、業種、従業員数） ● 問4：当該研究科に対する社会的ニーズ ● 問5：当該研究科の修了生に対する採用の意向 ● 問6：採用可能人数（単年度） ● 問7：自由記述 <p>以上、選択肢式の間1～6と自由記述の間7からなる。 （最後に、企業・団体等の名称を問うているが、これは省略する）</p>
調査時期	2024（令和6）年1月～2024（令和6）年2月
調査方法	調査対象先の人事・採用担当者宛に依頼状、概要説明リーフレット、アンケート調査用紙1部、返送用封筒を送付した。ご協力いただける場合は、アンケート調査用紙またはWEBフォームにより回答を得た。
回収件数	有効回答数 149件（回収率13.6%）
調査結果	採用意向：「採用したい」36件（24.2%）、「採用を検討したい」92件（61.7%）
	採用可能人数（単年度）：127人

2. 集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。そのため必ずしも 100.0%と一致しない。

問1 貴社の業種についてお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

No	選択項目	回答数	構成比
1	情報・通信業	20	13.4%
2	放送、新聞、出版業	0	0.0%
3	広告業・広告代理業	0	0.0%
4	製造業	23	15.4%
5	飲食業・宿泊業	0	0.0%
6	医療・福祉	20	13.4%
7	サービス業	16	10.7%
8	農・林・漁・鉱業	1	0.7%
9	卸売・小売業	20	13.4%
10	金融業、保険業	1	0.7%
11	電気、ガス、熱供給、水道業	0	0.0%
12	建設業	16	10.7%
13	不動産業、賃貸業	0	0.0%
14	運輸業	8	5.4%
15	官公庁・自治体・公共団体	11	7.4%
16	学校・学習支援業	4	2.7%
17	その他	7	4.7%
	無回答・無効回答	2	1.3%
合計		149	100.0%

問2 貴社の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

No	選択項目	回答数	構成比
1	北海道	0	0.0%
2	青森県	0	0.0%
3	岩手県	0	0.0%
4	宮城県	0	0.0%
5	秋田県	1	0.7%
6	山形県	0	0.0%
7	福島県	0	0.0%
8	茨城県	0	0.0%
9	栃木県	0	0.0%
10	群馬県	0	0.0%
11	埼玉県	0	0.0%
12	千葉県	0	0.0%
13	東京都	3	2.0%
14	神奈川県	0	0.0%
15	新潟県	0	0.0%
16	富山県	0	0.0%

17	石川県	0	0.0%
18	福井県	0	0.0%
19	山梨県	0	0.0%
20	長野県	0	0.0%
21	岐阜県	18	12.1%
22	静岡県	0	0.0%
23	愛知県	109	73.2%
24	三重県	17	11.4%
25	滋賀県	0	0.0%
26	京都府	0	0.0%
27	大阪府	0	0.0%
28	兵庫県	0	0.0%
29	奈良県	0	0.0%
30	和歌山県	0	0.0%
31	鳥取県	0	0.0%
32	島根県	0	0.0%
33	岡山県	0	0.0%
34	広島県	0	0.0%
35	山口県	0	0.0%
36	徳島県	0	0.0%
37	香川県	0	0.0%
38	愛媛県	0	0.0%
39	高知県	0	0.0%
40	福岡県	0	0.0%
41	佐賀県	0	0.0%
42	長崎県	0	0.0%
43	熊本県	0	0.0%
44	大分県	0	0.0%
45	宮崎県	0	0.0%
46	鹿児島県	0	0.0%
47	沖縄県	0	0.0%
	無効回答	1	0.0%
合計		149	100%

問3 貴社の従業員数（正規社員数）についてお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	50人未満	42	28.2%
2	50～99人	25	16.8%
3	100～299人	41	27.5%
4	300～499人	17	11.4%
5	500～999人	12	8.1%

6	1000～2999 人	7	4.7%
7	3000～4999 人	0	0.0%
8	5000 人以上	4	2.7%
	無効回答	1	0.7%
合計		149	100%

問 4 2025 年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」（修士課程）（仮称）が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われるか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	ニーズは高い	24	16.1%
2	ニーズはある程度高い	102	68.5%
3	ニーズはあまりない	15	10.1%
4	ニーズはない	5	3.4%
	無効回答	3	2.0%
合計		149	100%

問 5 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」（修士課程）（仮称）を修了した学生を採用したいと思いますか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	36	24.2%
2	採用を検討したい	92	61.7%
3	採用しない	19	12.8%
	無効回答	2	1.3%
合計		149	100%

※問 6 は、問 5 で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」と回答した 128 件が対象である。

問 6 単年度で採用可能と思われる人数は何人ですか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

No	選択項目	回答数	構成比
1	1 人	35	27.3%
2	2 人	14	10.9%
3	3 人	7	5.5%
4	4 人	2	1.6%
5	5 人以上	7	5.5%
	無効回答	63	49.2%
合計		128	100%

問 7 2025 年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称)について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

<p>長寿大国の日本において健康は切っても切り離せない要素だと思います。同時に少子高齢化が進み学生数が減少していく中で貴校の上記、学問を専攻される方は今後貴重な人材になるでしょう。弊社で活かせるかは別ですが</p>
<p>能動的、困難に立ち向かえる子を採用したいです。プログラミングを通じた論理的な思考が出来る子を求めます</p>
<p>SE,PG 募集のニーズが世の中で高まっております。</p>
<p>当社の事業とは関係性が低いと思う学科だと思います。</p>
<p>個人的な意見になりますが弊社は食品製造業のため、健康科学と情報科学について詳しい方がいたいただけるとより良い商品等の企画や開発ができそうだと思います</p>
<p>知的障害の方の高齢化に顕著になっており、その中で ICT を通じた健康管理が重要だと思います。ある程度理病状の状況を踏まえた研究をしていただけると助かります</p>
<p>知的障害者福祉関係の施設に就職を希望していただける学生さんがいるか不安</p>
<p>健康経営が注目される中、企業と健康の観点での研究に期待したい。</p>
<p>10～15 年後を見据えた医療を取り巻く諸問題と最近の知見に精通した方、開業医の役割の変化に対応できる方を育ててほしい。小規模事業所の裏方、経営戦略を任せられる方を育ててほしい</p>
<p>弊社は技術系アウトソーシング業を営んでおり、既に多くの貴学 OB の社員が現場で活躍しております。 今回新設を予定されている健康情報分野において、弊社でも学生の方に期待している①情報科学②持続的な健康③コミュニケーションと実践力を掲げられており、弊社での活躍を十分に計算で出来るものと確信しております。</p>
<p>健康に関する知識は、働く上で役立つため</p>
<p>社会的に健康に関するニーズは高まっており、企業としても健康に関する専門知識をもった学生には興味があります</p>
<p>食と健康とのつながり</p>
<p>弊社では身体を使う仕事や、拘束時間が長くなることがあるため、健康診断はもちろん毎年受けますが、それ以上に社員の健康について会社で何かしてあげられることがあれば実施していきたいと考えています。 貴学で学んだことを弊社や運送業界の発展のために知識をお借りしたいです。 また、情報・IT などに関しても今後の業界の発展のために必須な知識だと思います。 貴校の学生様が様々な業界で活躍されることを期待しています。</p>
<p>卒業した大学や学部にとらわれず、人柄や人間性に優れた人材を採用したいと考えています。</p>
<p>高齢社会となってきた世の中の中でどれだけ健康で長期間働けるかを考えそれを推奨していけるのか企業目線で考えられる人材は今後必要になると考えます。</p>
<p>衛生管理に関する知識を持った人材を期待する。</p>
<p>データサイエンティストとしての実績の中でも、医療系に特化していることの強みが活きていると魅力的。</p>
<p>弊社においては、情報科学分野であれば、機械を数値制御にて自動加工のためのプログラミングにて活躍できると期待しています。</p>
<p>障害者分野につきましては、「8050」もしくは「8060」という親と子の自宅での介護への課題があります。健康にその人らしい生活を親も子どもも営んでいくことが大切です。その中で「健康」に着目した目線での支援が必要になってくると考えています。</p>
<p>資格取得など、目指すものが具体的にあると、企業としては、採用に積極的になれると思います。</p>

<p>金属製品の製造業を行っています 業界では少子化と高齢化が進んでいることで、労働人口の減少となっています。 製造業では、高齢者でも長く働くことのできる環境整備もなされていますが、健康であることが大切であると切に思います。我々製造業に向けても、どうすれば健康状態を維持し、長く働くことができるのかを浸透させるためにも同校のような学科、人材は必要とされるのではないかと考えます。ただ製造業においては、健康の専門場所となるとなかなか難しいので、他の業務をやりながら社内研修を行ったりとできればより需要が深まるのではないかと考えます</p>
<p>本園は保育士、幼稚園教諭免許が必要であるため、教職課程がある学校、専門学校あるいは、学部のある大学であることが必要です。</p>
<p>弊社事業とは健康という切り口では接点は薄いですが、今後、社会的に人的投資を拡大する中で、従業員の心身の健康を会社が把握するために種々データ活用していくことはスタンダードになっていくと考えられる。また、様々なデータを分析し、活用するスキルはどのような分野の事業でも必要とされていくと思うので、カリキュラムの中で、前提としてそのベースを学べる場所は、データドリブン人材の育成機能としておおいに期待している。</p>
<p>弊社では採用したいと考えても、学生の視点からは弊社が魅力的に映らないのではないと思う。また、弊社にとってその学問領域がどのように有益なのか、活用できるかが全く見当もつかない。</p>
<p>身体は資本と言われているように何をしても心と身体のバランスが必要になってくると思われま す。色々な角度から物事を考え夢を実現していける様に学べる場所を提供してもらえ る研究科を設ける事は未来の希望の裾野だと感じます。ぜひ明るい希望を持った学生を 育てて社会の力になってもらえることを期待します。</p>
<p>弊社が健康寿命を伸ばすことを目的にしているため、期待値は高く 今後 HP 制作や、マーケティングを社内人材で行いたいと考えているため需要がある と感じました。</p>
<p>正直に申し上げますと、弊社においては「健康」分野に関わる業務は現在はありません。 そのため「情報」分野での期待値が大きくなると思います。</p>
<p>グローバルな潮流から 10 年程度のスパンでの国内外における生活志向、そこから 求められる食品の面での健康機能性と、需給バランスから見た持続可能な食の ビジネスモデル構築を研究、検証いただき、分析結果を開示いただきたく存じます。</p>
<p>必修科目にて、プログラミング等の情報科目を学ばれるとのことで、弊社業務に 活きるのではないかと期待しております。</p>
<p>弊社が専門とする分野であるため、即戦力として期待いたします。</p>
<p>本校は商業実務の専修学校ですので、健康分野での採用は今のところございませ ませんが、高等学校教員免許の情報等を取得されていれば採用させていただく 可能性もあると思います。</p>
<p>健康情報は建設業とかけはなれているので、採用は結びつかない</p>

※原文ママ。「特になし」等は割愛した。

3. 集計結果のポイント

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。そのため必ずしも100.0%と一致しない。

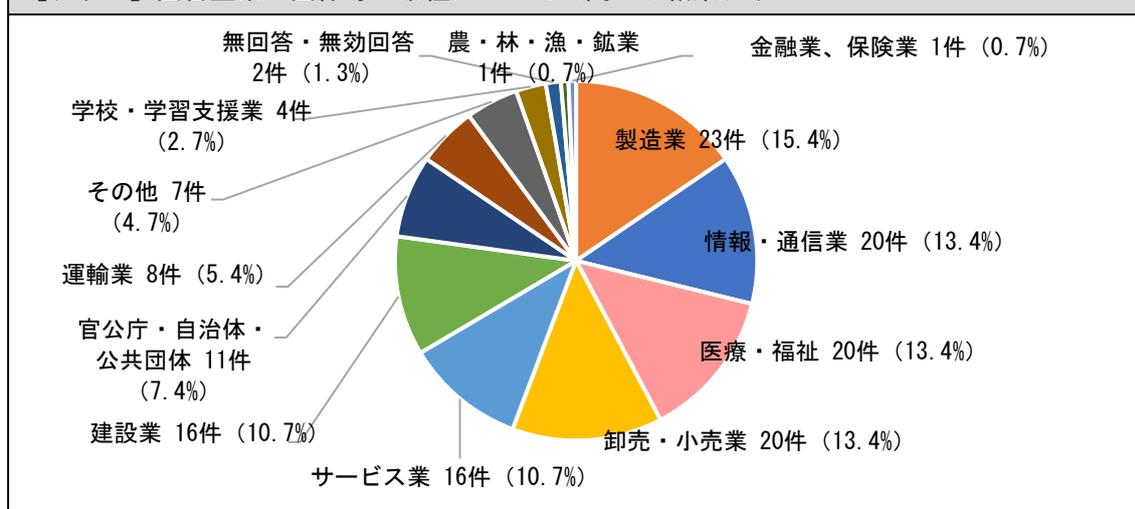
- 愛知県を所在地とする企業等が全体の73.2%、岐阜県を所在地とする企業が全体の12.1%、三重県を所在地とする企業が全体の11.4%となった。

名古屋文理大学が2025（令和7）年4月に設置構想中の「大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）（仮称）」についての人材需要アンケート調査において、有効回答149件の集計を行った。

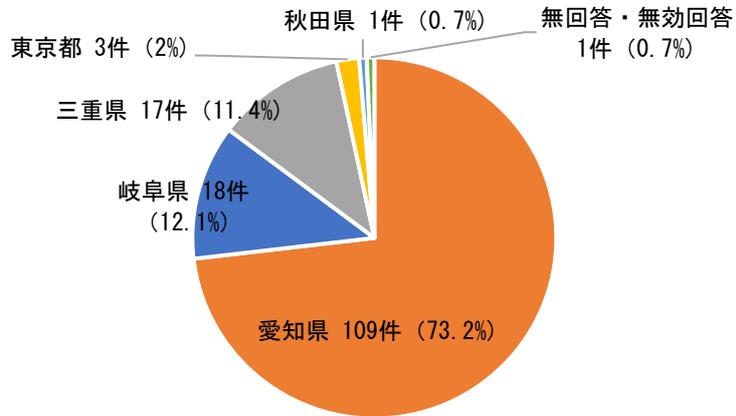
その結果、企業・団体等の所在地の内訳は、「愛知県」が109件（73.2%）、「岐阜県」が18件（12.1%）、三重県が17件（11.4%）となり、業種については、「製造業」が23件（15.4%）、情報・通信業、医療・福祉、卸売・小売業がいずれも20件（13.4%）であった。

また、従業員の数については、回答の多い順に、「50人未満」が42件（28.2%）、「100～299人」が41件（27.5%）、「50～99人」が25件（16.8%）、「300～499人」が12件（8.1%）、「500～999人」が12件（8.1%）、「1000～2999人」が7件（4.7%）、「5000人以上」が4件（2.7%）であった。

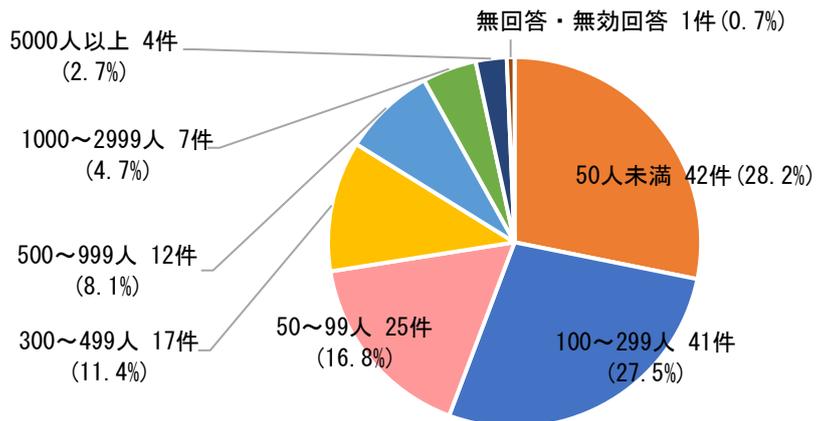
【グラフ】回答企業・団体等の業種について<問1の結果より>



【グラフ】回答企業・団体等の所在地について<問2の結果より>



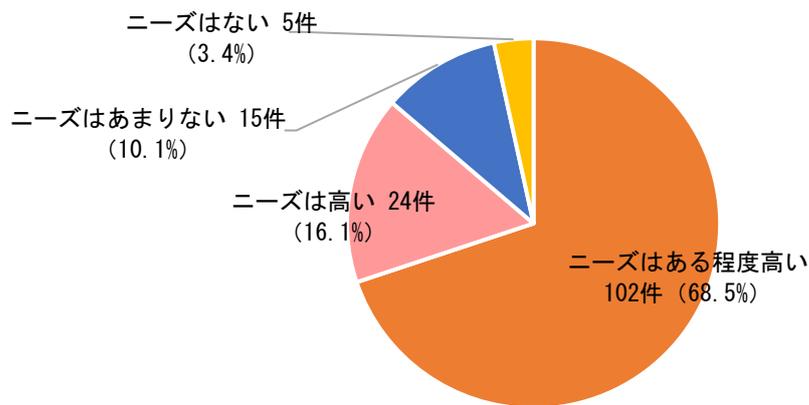
【グラフ】回答企業・団体等の従業員数について<問3の結果より>



- 「ニーズは極めて高い」、「ニーズはある程度高い」との回答は、合計で全体の 8 割を超える結果となった。

当該研究科に対する社会的ニーズについての質問では、「ニーズは高い」が 24 件(16.1%)、「ニーズはある程度高い」が 102 件 (68.5%)、「ニーズはあまりない」が 15 件 (10.1%)、「ニーズはない」が 5 件 (3.4%) であった。

【グラフ】 当該研究科に対する社会的ニーズについて<問 4 の結果より>

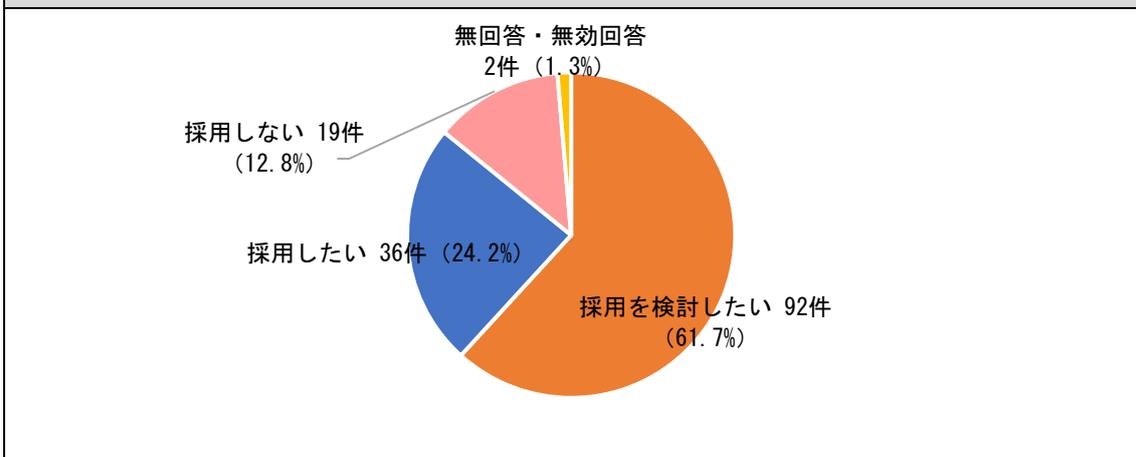


● 採用可能人数は、予定している入学定員 10 名を大幅に上回る 127 人であった。

当該研究科の修了生に対する採用の意向については、「採用したい」が 36 件 (24.2%)、「採用を検討したい」が 92 件 (61.7%) で、85%以上の企業・団体等が採用意欲を示す結果となった。

また、この 128 件の企業・団体等から示された具体的な採用可能人数 (単年度) は、「1 人」が 35 件 (27.3%) と最も多く、次いで「2 人」が 14 件 (10.9%)、「3 人」が 7 件 (5.5%)、「5 人以上」が 7 件 (5.5%)、「4 人」が 2 件 (1.6%) の順となっている。

【グラフ】当該研究科の修了生に対する採用の意向について<問 5 の結果より>



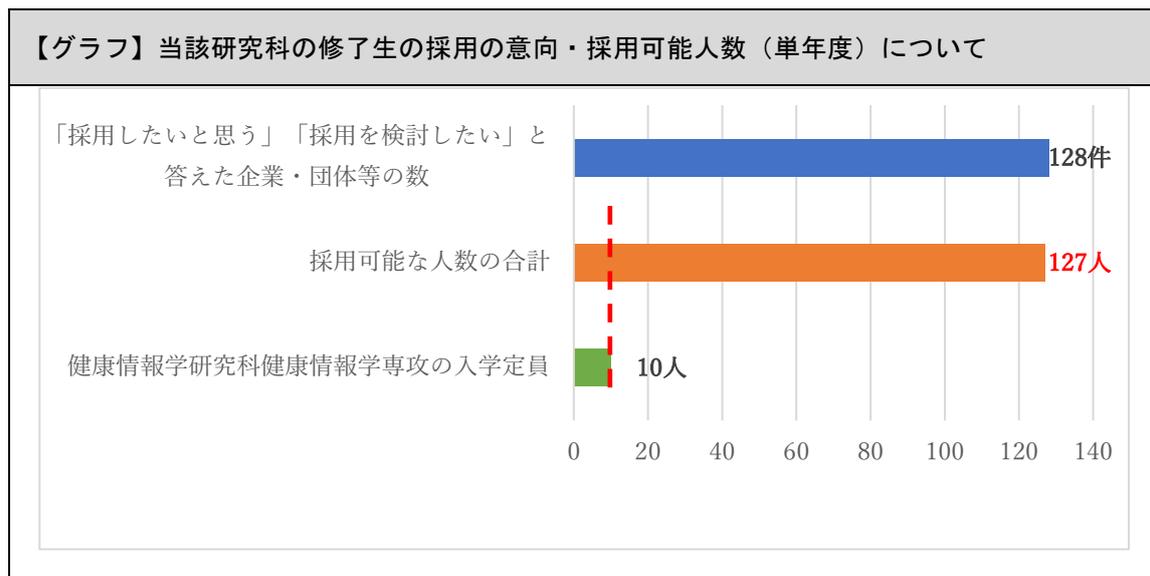
【表】採用可能人数 (単年度) について<問 6 の結果より>

No	選択項目		回答数	構成比
1	1 人		35	27.3%
2	2 人		14	10.9%
3	3 人		7	5.5%
4	4 人		2	1.6%
5	5 人以上	内訳	5 人 (2 件)	5.5%
			人数記載なし (※5 人と して計算) (5 件)	
	無回答・無効回答		63	49.2%
合計			128	100.0%

4. 集計結果の分析

当該研究科の修了生を「採用したいと思う」「採用を検討したい」と回答した企業・団体等 128 件（問 5）の単年度の採用可能人数（問 6）の結果は、以下の通りである。

【表】採用可能人数（単年度）について<問 6 の結果より>				
No	選択項目		回答数	採用可能人数 （単年度）
1	1 人		35	35 人
2	2 人		14	28 人
3	3 人		7	21 人
4	4 人		2	8 人
5	5 人以上	内 訳	5 人（2 件）	35 人
			無回答（※5 人として計算）（5 件）	
7	無効回答		63	0 人
合計			128	127 人



当該研究科の修了生を「採用したい」「採用を検討したい」と回答した企業・団体等の採用可能人数（単年度）が 127 人であった。これは、予定する入学定員の 10 人を大幅に上回る回答結果である。

以上より、名古屋文理大学が 2025（令和 7）年 4 月に設置構想中の「大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（修士課程）（仮称）」の人材需要の見通しは問題なしと判断できる。

以上

添付資料

名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻（仮称）

- ・ 概要説明リーフレット
- ・ 人材需要アンケート調査用紙
- ・ 人材需要アンケート調査 WEB フォーム

情報科学×健康科学——健康を応用分野とする高度情報人材を育成する



名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (仮称) (修士課程2年制)

名称	名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (仮称) (修士課程2年制)
開設時期	令和7 (2025) 年 4月
入学定員 (収容定員)	10名 (20名)
取得学位	修士 (健康情報学)
修業年限	2年
開設場所	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地

本研究科の特色

本研究科では、「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的としています。

そのために必要な知識と能力を身につけるための主要授業科目を必修科目として配置します。「情報科学」分野と「健康科学」分野のそれぞれの領域において専門的な理論と知識を修得し、これらを基盤として「健康情報学演習」を通じて、「情報科学」と「健康科学」における科学的研究方法と研究姿勢を修得し、同時にコミュニケーション力と実践力を身に付け、学生自身のキャリア形成に繋がります。

アドミッションポリシー

本研究科では、次のような人を求めます。

- ①「情報科学」に関する基礎的な学力・技術・知識がある。
- ②人間の持続的な「健康」の維持への興味・関心がある。
- ③自らが主体的に問題を発見し、課題を解決する能力がある。

養成する人材像

「情報科学」の知識を「健康科学」に応用し、また、「情報」の技術を活用して地域の「健康」増進に貢献する、「健康を応用分野とする高度情報人材」の育成を目指します。

基礎力 専門的な理論と知識を修得
情報科学 × 健康科学

実践力 科学的研究方法と研究姿勢を修得
健康情報学

地域の「健康」増進に貢献する
健康を応用分野とする
高度情報人材の育成

(想定される進路)

医療・福祉・食品・情報産業界 など

- 情報技術者・データサイエンティスト
- 健康・医療・分析機関のITエンジニア
- 食品・健康産業のDX推進担当者
- 大学教員(助手)

◎上記の内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

カリキュラム (構想・検討中)



初年度納入金

入学金	授業料	その他(教育充実費)	初年度納入金 合計
200,000円	600,000円	100,000円	900,000円

※上記金額は2025年度予定のものです。 ※別途諸経費が必要な場合があります。 ※傷害保険料等を除きます。

他大学との納入金比較

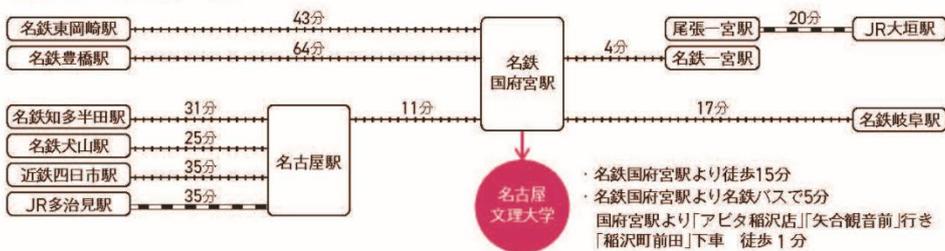
大学院名・研究科・専攻名	所在地	入学金	授業料	その他(教育充実費)	初年度納入金 合計
愛知淑徳大学大学院 文化創造研究科 情報デザイン・システム専修	愛知県長久手市片平 二丁目9	180,000	1,100,000	100,000	1,380,000
愛知工業大学 経営情報科学研究科	名古屋市千種区自由ヶ丘 2丁目49-2	130,000	730,000	230,000	1,090,000
岐阜聖徳学園大学大学院 経済情報研究科	岐阜県岐阜市中鶯 一丁目38番地	300,000	700,000	360,000	1,360,000
南山大学大学院 理工学研究科 データサイエンス専攻	名古屋市昭和区山里町18	300,000	654,000	105,000	1,059,000
名城大学大学院 都市情報学研究科	名古屋市天白区塩釜口 一丁目501番地	130,000	640,000	220,000	990,000
大同大学大学院 情報学研究科	名古屋市南区滝春町10-3	150,000	535,800	305,000	990,800
中京大学大学院 工学研究科情報工学専攻	豊田市貝津町床立101	200,000	505,000	345,000	1,050,000

※上記金額は各大学ホームページ掲載情報(2024年度予定)より引用しています。 ※各大学とも、別途諸経費が必要な場合があります。 ※傷害保険料等を除きます。 ※名城大学大学院、中京大学大学院は実験実習費を含みます。

アクセス

※所要時間は最速です。乗り換え時間は含みません。

名古屋駅から名鉄特急で11分



◎上記の内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

名古屋文理大学大学院
「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称・設置構想中)
設置構想についての採用意向アンケート調査
(対象：人事採用担当者の皆様)

名古屋文理大学は、2025年4月に大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)を新設することを構想しています。本学は、このアンケート調査を通して将来卒業生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。なお、回答結果は名古屋文理大学大学院の設置構想に係る統計資料としてのみ活用します。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人・企業が識別できる情報として公表されることはありません。何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

※このアンケート調査は、名古屋文理大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

※概要およびこのアンケートに記載されている「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)に関する事項は予定であり、内容が変更になる可能性があります。

問1 貴社の業種についてお答えください。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="radio"/> 情報・通信業 | <input type="radio"/> 放送、新聞、出版業 |
| <input type="radio"/> 広告業・広告代理業 | <input type="radio"/> 製造業 |
| <input type="radio"/> 飲食業・宿泊業 | <input type="radio"/> 医療・福祉 |
| <input type="radio"/> サービス業 | <input type="radio"/> 農・林・漁・鉱業 |
| <input type="radio"/> 卸売・小売業 | <input type="radio"/> 金融業、保険業 |
| <input type="radio"/> 電気、ガス、熱供給、水道業 | <input type="radio"/> 建設業 |
| <input type="radio"/> 不動産業、賃貸業 | <input type="radio"/> 運輸業 |
| <input type="radio"/> 官公庁・自治体・公共団体 | <input type="radio"/> 学校・学習支援業 |
| <input type="radio"/> その他 | |

問2 貴社の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

- | | | | | | | |
|---------------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 茨城県 | <input type="radio"/> 新潟県 | <input type="radio"/> 静岡県 | <input type="radio"/> 奈良県 | <input type="radio"/> 徳島県 | <input type="radio"/> 熊本県 |
| <input type="radio"/> 青森県 | <input type="radio"/> 栃木県 | <input type="radio"/> 富山県 | <input type="radio"/> 愛知県 | <input type="radio"/> 和歌山県 | <input type="radio"/> 香川県 | <input type="radio"/> 大分県 |
| <input type="radio"/> 岩手県 | <input type="radio"/> 群馬県 | <input type="radio"/> 石川県 | <input type="radio"/> 三重県 | <input type="radio"/> 鳥取県 | <input type="radio"/> 愛媛県 | <input type="radio"/> 宮崎県 |
| <input type="radio"/> 宮城県 | <input type="radio"/> 埼玉県 | <input type="radio"/> 福井県 | <input type="radio"/> 滋賀県 | <input type="radio"/> 島根県 | <input type="radio"/> 高知県 | <input type="radio"/> 鹿児島県 |
| <input type="radio"/> 秋田県 | <input type="radio"/> 千葉県 | <input type="radio"/> 山梨県 | <input type="radio"/> 京都府 | <input type="radio"/> 岡山県 | <input type="radio"/> 福岡県 | <input type="radio"/> 沖縄県 |
| <input type="radio"/> 山形県 | <input type="radio"/> 東京都 | <input type="radio"/> 長野県 | <input type="radio"/> 大阪府 | <input type="radio"/> 広島県 | <input type="radio"/> 佐賀県 | |
| <input type="radio"/> 福島県 | <input type="radio"/> 神奈川県 | <input type="radio"/> 岐阜県 | <input type="radio"/> 兵庫県 | <input type="radio"/> 山口県 | <input type="radio"/> 長崎県 | |

問3 貴社の従業員数(正規社員数)についてお答えください。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

- | | | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="radio"/> 50人未満 | <input type="radio"/> 50人以上99人 | <input type="radio"/> 100人~299人 | <input type="radio"/> 300人~499人 |
| <input type="radio"/> 500人~999人 | <input type="radio"/> 1,000人~2,999人 | <input type="radio"/> 3,000人~4,999人 | <input type="radio"/> 5,000人以上 |

【人材需要アンケート調査用紙 2/2】

問4以降は別紙・名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称)の概要資料をご参照の上、ご回答ください。

問4 2025年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称)が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

ニーズは高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない ニーズはない

問5 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称)を修了した学生を採用したいと思いませんか。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

採用したい ⇒ 問6へ 採用を検討したい ⇒ 問6へ 採用しない ⇒ 問7へ

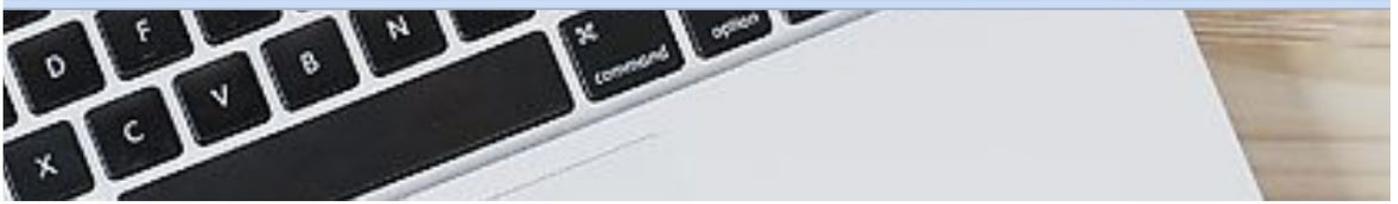
問6 単年度で採用可能と思われる人数は何人ですか。(あてはまるもの1つにマークをしてください)

1人 2人 3人 4人 5人以上 [] 人

問7 2025年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程)(仮称)について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

問8 よろしければ貴社名をお教えてください。なお、こちらはどの企業にご返送いただいたかを把握するためのみの質問であり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはありません。(ゴム印の押印でも結構です)

アンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。



名古屋文理大学大学院

「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程) (仮称・設置構想中)

設置構想についての採用意向アンケート調査

名古屋文理大学は、2025年4月に大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)を新設することを構想しています。本学は、このアンケート調査を通して将来卒業生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。なお、回答結果は名古屋文理大学大学院の設置構想に係る統計資料としてのみ活用します。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人・企業が識別できる情報として公表されることはありません。何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

※このアンケート調査は、名古屋文理大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

※概要およびこのアンケートに記載されている「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)に関する事項は予定であり、内容が変更になる可能性があります。

このアンケートへの回答は1回までの制限を設けています。回答時にご注意ください。

問1 貴社の業種についてお答えください。(あてはまるもの1つを選んでください) **必須**

選択してください

問2 貴社の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つを選んでください) **必須**

選択してください

問3 貴社の従業員数(正規社員数)についてお答えください。(あてはまるもの1つを選んでください) **必須**

選択してください

問4以降は次の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(仮称)の概要資料をご参照の上、ご回答ください。

設置構想中

情報科学×健康科学——健康を応用分野とする高度情報人材を育成する

**NAGOYA
BUNRI**

**名古屋文理大学大学院
健康情報学研究科 健康情報学専攻 (仮称)**
(修士課程2年制)

名 称	名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (仮称) (修士課程2年制)
開設時期	令和7 (2025) 年 4月
入学定員 (収容定員)	10名 (20名)
取得学位	修士 (健康情報学)
修業年限	2年
開設場所	愛知県瀬西市瀬沢町前田365番地

本研究科の特色

本研究科では、「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的としています。

そのために必要な知識と能力をつけるための主要な授業科目を必修科目として設置します。「情報科学」分野と「健康科学」分野のそれぞれの領域において専門的な理論と知識を修得し、これらを基礎として「健康情報学演習」を通して、「情報科学」と「健康科学」における科学的な研究方法と研究姿勢を修得し、同時にコミュニケーション力と実践力を身に付け、学生自身のキャリア形成に繋がります。

アドミッションポリシー

本研究科では、次のような人を求めます。

- ①「情報科学」に関する基礎的な学力・技術・知識がある。
- ②人間の持続的な「健康」の維持への興味・関心がある。
- ③自らが主体的に問題を発見し、課題を解決する能力がある。

養成する人材像

「情報科学」の知識を「健康科学」に応用し、また、「情報」の技術を活用して地域の「健康」増進に貢献できる、「健康を応用分野とする高度情報人材」の育成を目的とします。

「情報科学」×「健康科学」の相乗効果により、健康を応用分野とする高度情報人材の育成を目的とします。

カリキュラム (構想・検討中)

情報科学	健康科学	修士論文指導
健康情報学 (必修科目) ・健康データサイエンス	健康情報学基礎 (必修科目)	健康情報学演習 (必修科目)
【選択必修科目】 ・プログラミングと応用 ・情報メディアとシステム技術 ・人工知能応用・情報教育特論	【選択必修科目】 ・養生法と健康 ・地域課題と健康管理 ・身体運動と健康	指導教授 修士 (健康情報学)

初年度納入金

入学費	授業料	その他 (授業料外費)	初年度納入金 合計
200,000円	600,000円	100,000円	900,000円

他大学との納入金比較

大学名・研究科・専攻名	所在地	入学費	授業料	その他 (授業料外費)	初年度納入金 合計
愛知学院大学大学院 文化創造研究科 情報デザインシステム専攻	愛知県瀬西市井平二丁目	180,000	1,100,000	100,000	1,380,000
愛知工業大学 健康情報科学研究科	名古屋市中区区自由ヶ丘一丁目4-2	130,000	730,000	230,000	1,090,000
岐阜大学大学院 健康情報学専攻	岐阜県岐阜市巾着田一丁目	300,000	700,000	340,000	1,340,000
南山大学大学院 健康情報学専攻	名古屋市昭和区山田町18	300,000	654,000	105,000	1,059,000
名城大学大学院 健康情報学専攻	名古屋市天白区竜崎一丁目101番地	130,000	640,000	220,000	990,000
大府大学大学院 健康情報学専攻	名古屋市港区瀬戸町10-3	150,000	535,800	305,000	990,800
中京大学大学院 工学部健康情報学専攻	豊田市筑建町101	200,000	505,000	345,000	1,050,000

アクセス



【人材需要アンケート調査(WEB フォーム) 3/3】

概要をご確認いただけましたか。 **必須**

確認した

問4 2025年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程) (仮称) が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つを選んでください) **必須**

ニーズは高い

ニーズはある程度高い

ニーズはあまりない

ニーズはない

問5 名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程) (仮称) を修了した学生を採用したいと思いませんか。(あてはまるもの1つを選んでください) **必須**

採用したい

採用を検討したい

採用しない

問7 2025年度に新設構想中の名古屋文理大学大学院「健康情報学研究科 健康情報学専攻」(修士課程) (仮称) について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。 **任意**

問10 差し支えなければ、貴社・貴機関名をお教えてください。 **任意**

送信

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	カゲヤマ タカシ 景山 節 <平成24年4月>		理学博士		名古屋文理大学学長 名古屋文理大学短期大学部学長 (平成24年4月～令和10年3月)

教 員 の 氏 名 等													
(健康情報学研究科健康情報学専攻)													
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目 の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る研 究科等の職務 に従事する 週当たり平均 日 数
1	専	教授 (研究科 長)	オチアイ ヒロフミ 落合 洋文 <令和7年4月>		工学博士		健康情報学※ メディア文化と表現※ モデル化とシミュレーション※ 科学論文作成法 健康情報学演習1 健康情報学演習2 健康情報学演習3 健康情報学演習4	1前 1前 1後 2前 1前 1後 2前 2後		0.5 0.9 0.8 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	名古屋文理大学 健康生活学部 教授 (平11.4)	5日
2	専	教授	ハセガワ サトシ 長谷川 聡 <令和7年4月>		博士(情報科学)		健康情報学※ プログラミングと応用 健康情報学演習1 健康情報学演習2 健康情報学演習3 健康情報学演習4	1前 1前 1前 1後 2前 2後		0.5 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	名古屋文理大学 情報メディア学部 教授 (平11.4)	5日
3	専	教授	シュウ シンシン 周 欣欣 <令和7年4月>		博士(工学)		健康情報学※ 健康情報学演習1 健康情報学演習2 健康情報学演習3 健康情報学演習4	1前 1前 1後 2前 2後		0.4 2 2 2 2	1 1 1 1 1	名古屋文理大学 情報メディア学部 教授 (平12.4)	5日
4	専	教授	ゴトウ チホ 後藤 千穂 <令和7年4月>		博士(医学)		健康情報学※ 健康データサイエンス 健康情報学演習1 健康情報学演習2 健康情報学演習3 健康情報学演習4	1前 1後 1前 1後 2前 2後		0.4 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	名古屋文理大学 健康生活学部 教授 (平15.4)	5日
5	専	教授	コンドウ テツヤ 近藤 徹弥 <令和7年4月>		博士(農学)		健康情報学※ 健康情報学演習1 健康情報学演習2 健康情報学演習3 健康情報学演習4	1前 1前 1後 2前 2後		0.4 2 2 2 2	1 1 1 1 1	名古屋文理大学 健康生活学部 教授 (令5.4)	5日
6	専	教授	ヨシダ ヒロシ 吉田 洋 <令和7年4月>		博士(経営学)		健康情報産業論 健康情報学演習1 健康情報学演習2 健康情報学演習3 健康情報学演習4	2前 1前 1後 2前 2後		2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	名古屋文理大学 健康生活学部 教授 (平11.4)	5日
7	専	准教授	アオヤマ タロウ 青山 太郎 <令和7年4月>		博士(学術)		メディア文化と表現※ 健康情報学演習1 健康情報学演習2 健康情報学演習3 健康情報学演習4	1前 1前 1後 2前 2後		1.1 2 2 2 2	1 1 1 1 1	名古屋文理大学 情報メディア学部 准教授 (平29.4)	5日
8	その他	教授	ヤマダ ユカリ 山田 ゆかり <令和8年4月>		文学修士※		健康心理学※	2後		1.1	1	名古屋文理大学 健康生活学部 教授 (平11.4)	
9	その他	教授	ナカムラ マリ 中村 麻理 <令和7年4月>		博士(社会学)		専門社会調査演習 質的調査演習	1前 1後		2 2	1 1	名古屋文理大学 健康生活学部 教授 (平18.4)	
10	その他	教授	ヨシダ トモヨシ 吉田 友敬 <令和7年4月>		修士(学術)※		健康情報学※	1前		0.4	1	名古屋文理大学 情報メディア学部 教授 (平15.4)	
11	その他	教授	ホンダ カズヒコ 本多 一彦 <令和7年4月>		博士(理学)		モデル化とシミュレーション※	1後		1.2	1	名古屋文理大学 情報メディア学部 教授 (平11.4)	
12	その他	教授	タチカ イチロウ 田近 一郎 <令和7年4月>		博士(情報科学)		情報メディアとシステム技術※	1後		1.1	1	名古屋文理大学 情報メディア学部 教授 (平11.4)	
13	その他	教授	クニトモ ヒロタダ 國友 宏渉 <令和8年4月>		体育学修士		身体運動と健康※	2前		1.1	1	名古屋文理大学 健康生活学部 教授 (平11.4)	
14	その他	教授	セキ タケシ 関 豪 <令和8年4月>		修士(体育学)		身体運動と健康※	2前		0.9	1	名古屋文理大学 情報メディア学部 教授 (平12.4)	
15	その他	教授	イケボウ シゲヤ 池坊 繁屋 <令和8年4月>		博士(工学)		人工知能特論	2前		2	1	名古屋文理大学 情報メディア学部 教授 (令和5.4)	
16	その他	講師	ヤマモト チカ 山本 ちか <令和8年4月>		博士(総合政策)		健康心理学※	2後		0.9	1	名古屋文理大学短期大学部 食物栄養学科 教授 (平17.4)	
17	その他	講師	セラ キヨシ 世良 清 <令和7年4月>		修士(人間科学、 経済学)		知的財産権と研究倫理	1前		2	1	名古屋文理大学 客員教授 (令和6.4)	
18	その他	講師	モリ ヒロシ 森 博 <令和7年4月>		工学修士		情報メディアとシステム技術※	1後		0.9	1	名古屋文理大学 名誉教授 (令和3.3)	

19	その他	講師	オダ ヒロアキ 小田 裕昭 <令和7年4月>		博士（農学）		食生活と栄養	1前	2	1	名古屋大学大学院 生命農学研究科 准教授 (平11.4)
20	その他	講師	クリキ キヨノリ 栗木 清典 <令和8年4月>		博士（医学）		健康データ解析演習	2前	2	1	静岡県立大学 食品栄養科学部 教授 (平21.4)
21	その他	講師	エンドウ ヒデトシ 遠藤 英俊 <令和7年4月>		医学博士		地域医療と健康管理	1後	2	1	いのちファミリークリニック 院長 (令和3.3)
22	その他	助教	オイエ ユウイチ 御家 雄一 <令和8年4月>		修士（学術）		情報教育特論	2後	2	1	名古屋文理大学 情報メディア学部 助教 (令和6.4)

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る研究科等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1人	4人	1人	人	6人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1人	人	1人	4人	1人	人	7人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、基幹教員についてのみ作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 「基幹教員の年齢構成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合、「専任教員」と読み替えること。
- 5 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。